

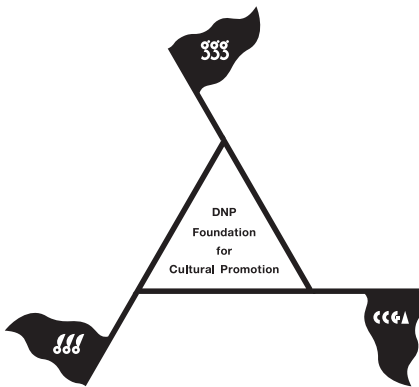
Graphic Art & Design Annual



2025

DNP Foundation for Cultural Promotion

Graphic Art & Design Annual



[表紙デザイン]

まだ見たことも、触れたこともない何かを探し、空中に手を伸ばすように試行錯誤を重ねる。

そうして、ようやく小さな片鱗に触れられた瞬間に、グラフィックデザインの楽しさを実感します。

「何かに触れた手」を表現するために、ビニール製の手袋の中に青い水を入れ、光を当てて半透明の紙越しに撮影しました。

水が自然に描き出す青の濃淡は、今回特に気に入っている表情です。

田部井 美奈

[Cover Design]

Like a hand reaching out into the air, I try all sorts of things as I search for something that I've never seen or touched before.

When I finally catch a fragmentary glimpse of it, that moment is one of the joys of graphic design.

To represent a hand touching something, I filled a vinyl glove with blue-dyed water and then illuminated it to photograph it through translucent paper.

What I particularly like about this expression is the natural variation in the shades of blue created by the water.

Mina Tabei

Graphic Art & Design Annual 2025 ggg ddd CCGA

Publication: DNP Foundation for Cultural Promotion

DNP Ginza Building, 7-7-2 Ginza,

Chuo-ku, Tokyo 104-0061

Phone: +81 3 5568 8224

Planning & Editing: DNP Foundation for Cultural Promotion

Art Direction: Shin Matsunaga

Design: Shinjiro Matsunaga, Moemi Kiyokawa

Cover Design: Mina Tabei

Cover Photography: Masaki Ogawa

Photography: Mitsumasa Fujitsuka (ggg), Nobutada Omote (ddd)

Translation: Fontaine Limited

Printing & Binding: Dai Nippon Printing Co., Ltd.

Contents

目次

はじめに ————— 5

北島 義斉 (公益財団法人DNP文化振興財団理事長)

序文 ————— 6

作品からその制作背景へ：グラフィックデザイン収集の新たな視点
イェンス・ミュラー & カタリーナ・ズセック

1 展示事業 ————— 11

ギンザ・グラフィック・ギャラリー (ggg) 2025-26 ————— 12

京都dddギャラリー (ddd) 2025-26 ————— 28

2 教育・普及事業 ————— 41

ggg ギャラリートーク&ギャラリーツアー ————— 42

特集: ggg ヤン・レニツァ展ギャラリートーク ————— 44

ddd ギャラリートーク&ギャラリーツアー ————— 46

特集: ddd 梅原真展ギャラリートーク ————— 48

ポッドキャスト番組「グラフィックトリップ」 ————— 50

親子向けデザインワークショップ ————— 52

出版活動 2025-26 ————— 53

3 アーカイブ事業 ————— 55

石岡瑛子ポスター寄贈と展覧会協力 ————— 56

DNPグラフィックデザイン・アーカイブ ————— 58

4 国際交流事業 ————— 61

協力: 横尾忠則ーポスターアート: 1965-2025 (ベルリン) ————— 62

巡回: 食のアイコン: 日本のフードポスター 70年 (ローマ) ————— 63

協力: グラフィック・ジャパン: 北斎からマンガまで (ボローニャ)

参加: デザインショウケース・ワルシャワ 2025 ————— 64

共催: 「ジャパン・モダン・ポスター」展 (コペンハーゲン) ————— 65

5 研究助成事業 ————— 67

グラフィック文化に関する学術研究助成 ————— 68

研究成果報告会および交流会 ————— 71

2025-26年度 助成実績

展覧会概要 2025-26 ————— 72

展覧会一覧 1986-2026 ————— 76

ギャラリー概要 ————— 88

Foreword ————— 5

Yoshinari Kitajima (Chair of the board of directors, DNP Foundation for Cultural Promotion)

Introduction ————— 8

From Object to Context: New Perspectives on Collecting Graphic Design
Jens Müller & Katharina Sussek

1 Exhibitions ————— 11

ginza graphic gallery (ggg) 2025-26 ————— 12

kyoto ddd gallery (ddd) 2025-26 ————— 28

2 Education & Enlightenment ————— 41

ggg Gallery Talks & Gallery Tours ————— 42

Featured ggg Gallery Talk: Jan Lenica Exhibition ————— 44

ddd Gallery Talks & Gallery Tours ————— 46

Featured ddd Gallery Talk: Makoto Umebara Exhibition ————— 48

Podcast "graphic trip" ————— 50

Design Workshop for Parents and Children ————— 52

Publications 2025-26 ————— 53

3 Archiving ————— 55

Donation of Eiko Ishioka posters and exhibition cooperation ————— 56

DNP Graphic Design Archives ————— 58

4 International Exchange ————— 61

Support of Tadanori Yokoo - Poster Art: Original Posters from 1965 - 2025 (Berlin) — 62

Tour: Iconic Food: Seventy Years of Food Posters in Japan (Rome) — 63

Support of Graphic Japan. From Hokusai to Manga (Bologna)

Participation in The Design Showcase Warsaw 2025 ————— 64

Co-organizer of Japan Modern Poster (Copenhagen) ————— 65

5 Research Grant ————— 67

Graphic Culture Research Grant ————— 68

Research Results Presentations and Exchange Session ————— 71

2025-26 Financial Support Activities

Review of ggg & ddd 2025-26 ————— 72

List of Exhibitions 1986-2026 ————— 82

Galleries' General Information ————— 88

Foreword

はじめに

2025年度の展示事業として、ギンザ・グラフィック・ギャラリー（ggg）では7本、京都dddギャラリー（ddd）では5本の企画展を開催しました。本年度は海外との交流がとりわけ盛んな一年となり、両館において開催した西ドイツのアイデンティティシステムを紹介する展覧会や、中国ブックデザインの第一人者である呂敬人氏の個展をはじめ、gggではポーランドを代表する作家、ヤン・レニツァ展を、dddではイペロアメリカのグラフィックデザインに焦点をあてたフェリックス・ベルトラン展、さらに第一線で活躍する台湾のデザイナー10組を紹介する展覧会を実施しました。

教育普及事業においては、新たな柱として4月よりポッドキャスト番組を開始し、年度内に計12本の番組を配信することができました。グラフィックデザインをより身近に感じていただくための試みとして、今後も幅広い分野で活躍する方々にご登場いただく予定です。

また、夏休み特別企画として、親子を対象としたワークショップを京都および東京にて各1回実施し、計20組の親子に本づくりを体験いただきました。

国際交流・アーカイブ事業では、デンマーク（コペンハーゲン）、ドイツ（ベルリン）、イタリア（ボローニャ、ローマ）の4都市において、展覧会開催への協力を行いました。とりわけコペンハーゲンでは、展示構成から作品選定に至るまで、総合的に企画監修を担い、ポスターコレクションの国際的な活用による大規模なプロジェクトが実現しました。

また、ポーランド・グラフィックデザイン財団からのご招待により、ワルシャワの文化芸術に触れるツアーに参加し、今後の協働企画につながる有意義な関係性を築くことができました。

研究助成事業では、広報活動の強化が実を結び、本年度の申請件数は87件と前年度を大きく上回りました。このうち12件を採択しています。研究テーマは美術・デザイン分野にとどまらず関連領域へと広がりを見せており、申請内容の質も総じて高いものとなりました。新たな視点によるグラフィック研究の展開が期待されます。

2026年2月23日、長年にわたり当財団の理事を務められ、また展覧会の監修をお引き受けいただいた永井一正氏が逝去されました。永井氏は96歳で他界されるまで生涯現役として創作活動に従事されるとともに、常にグラフィックデザイン界全体を俯瞰し、その発展を願い、後進の成長も温かく見守り続けてこられました。当財団の活動におきましても多大なるご尽力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。謹んで哀悼の意を表し、ここにご冥福をお祈り申し上げます。

公益財団法人 DNP文化振興財団 理事長
北島義斉

In fiscal 2025, the DNP Foundation for Cultural Promotion mounted seven exhibitions at ginza graphic gallery (ggg) and five at kyoto ddd gallery (ddd). International exchanges were particularly active, with both venues presenting *Identity Systems Germany | Rebranding West Germany after 1945* and *Tao of Chinese Book Design*, a solo exhibition by Lu Jingren, who is a leading figure in Chinese book design. Additionally, ggg mounted an exhibition of works by renowned Polish designer Jan Lenica, while ddd presented Félix Beltrán's work, focusing on Ibero-American graphic design, and also an exhibition introducing ten leading Taiwanese designers and design teams.

In our education and enlightenment program, we launched a podcast series in April 2025 as a new pillar of the program and released a total of twelve episodes during the fiscal year. This is part of our efforts to make graphic design more accessible, and we plan to continue featuring guests active in a wide range of fields. In addition, as part of our special summer vacation initiative, we held workshops in Kyoto and Tokyo for parents and children to attend together. A total of twenty parent-child pairs enjoyed the opportunity to experience bookmaking.

In our international exchange and archiving activities, we collaborated on exhibitions in four cities in Denmark, Germany, and Italy: Copenhagen, Berlin, Bologna, and Rome. In Copenhagen in particular, we provided comprehensive planning and supervision—from exhibition design to selection of the works to be displayed—enabling the realization of a large-scale project that activated our extensive poster collection internationally. In addition, at the invitation of the Polish Graphic Design Foundation, we participated in a tour to experience culture and arts in Warsaw. This enabled us to build valuable relationships that will lead to future collaborative projects.

The research grants program saw its public relations efforts bear fruit, with the number of applications this year reaching eighty-seven, a significant increase over the previous year. Of these, twelve were selected to receive funding. Research themes have expanded beyond the fields of art and design into related areas, and the quality of the applications was generally high. We look forward to seeing the outcomes of research that approaches graphic design from these new perspectives.

Kazumasa Nagai, who served as a director of the foundation for many years and as our adviser for exhibitions, passed away on February 23, 2026. Mr. Nagai worked creatively throughout his life, remaining active until his death at the age of ninety-six. He consistently maintained a broad perspective on the graphic design world, encouraging its continued development and warmly watching over the growth of subsequent generations of designers. We wish to express our heartfelt gratitude for his immense contributions to the activities of our foundation and offer our sincere condolences. May his soul rest in peace.

Yoshinari Kitajima
Chair of the board of directors, DNP Foundation for Cultural Promotion

作品からその制作背景へ：グラフィックデザイン収集の新たな視点

イェンス・ミュラー&カタリーナ・ズセック

「あらゆるアーカイブはデザインアーカイブである」——これは、ロチェスター工科大学ヴィネリセンターのアーカイブ責任者、ジェニファー・ウィットロックが数年前に発表した論考のタイトルです。本質を鋭く突いた表題の下で彼女が指摘したのは、ほとんどのアーカイブにポスターや装丁、レターヘッドなどのデザイン作品が多く含まれているという事実でした。振り返ってみると、私たちが15年近く前にグラフィックデザイン叢書「A5シリーズ」を創刊した背景には、グラフィックデザインが織り成す豊かな歴史への憧憬と、歴史的なデザイン作品が実に多種多様な形で公共や民間のアーカイブに現存しているのを知った驚きがありました。また、流行や時代の移り変わりによって、一時的にしか用いられていないデザイン作品も多く、歴史的なコレクションの研究は心躍る作業なのです。なぜなら、デザインは常に、その時代の社会や文化の本質を映し出す鏡だからです。

「A5シリーズ」12巻をはじめ、ドイツや世界のデザイン史に関する数多くの出版物に取り組んできた私たちのここ数年の活動は、デザイン史に特化した独自のコレクションへと発展してきました。しかし、私たちの収集活動について語る前に、この主題に関する視点を広げたいと思います。

公的機関によるデザインコレクションがヨーロッパで誕生したのは、グラフィックデザインが先進諸国で広まり始めた19世紀末のことです。今日まで続く長い歴史を有するこれらの機関は、初期のグラフィックデザインを伝える貴重な品々を所蔵しています。こうした貴重なコレクションの多くは、もともと次世代のデザイナーを育成するために、当時新たに設立されたデザイン学校のためのレファレンスコレクションとして創られたものでした。そのため、収集にあたっては、模範とされる作品、すなわち著名なデザイナーの作品や地域で制作されたデザインに重点が置かれました。もちろん、キュレーターの個人的な好みや関心に合った作品も含まれていたことは言うまでもありません。

デジタル化により、100年以上前に設立された多くのコレクションに今や誰もがアクセスできるようになっています。コレクションに見られる傾向や原則についても、意図的なものであれ偶発的なものであれ、最新の技術を駆使して再検証できるのです。一方、草創期の私的デザインコレクションに関する情報は依然として十分とは言えませんが、判明している多くの事実は非常に興味深いものです。

——例えば、ベルリンの歯科医ハンス・ザックス(1881-1974)は、ドイツ語圏の初期グラフィックデザインを最初期かつ最も熱心に収集した人物の

一人とされ、1万2,000点を超えるポスターや約1万8,000点の小印刷物などでコレクションを築き上げました。彼は、ベルリン・ポスター愛好者協会の共同創設者であり、近代初のデザイン専門誌『Das Plakat (ポスター)』を創刊するなど、グラフィックデザインの職業的地位の向上に多大な貢献を果たした人物でもあります。1938年、ナチスから逃れるためにコレクションを残して離れざるを得なかったものの、収集したポスターの大部分は第二次世界大戦の戦禍を免れ、約4,000点が旧ドイツ民主共和国(東ドイツ)の歴史博物館に収蔵されることになりました。その後、長年にわたる訴訟を経て、博物館に残存していたコレクションは2012年にザックスの息子に返還されました。

——デザイナー兼タイポグラファのヤン・チヒョルト(1902-1974)は、1920年代から30年代にかけて発展した機能主義的運動「新しいタイポグラフィ」(New Typography)のコレクションを構築しただけでなく、この運動の中心人物でもありました。1920年代後半頃には、彼は自身が選んだ同業者たちに直近の作品例を送ってほしいと依頼し始めました。こうして収集した約2,000点の作品を、教壇で使用する教材として用いるほか、自身が企画した展覧会で展示しました。現在、コレクションの一部は、ニューヨーク近代美術館(MoMA)とスイスのバーゼル・スクール・オブ・デザインに収蔵されています。2022年には、「タイポグラフィの革命家たち」(Revolutionäre der Typographie)」と題したプロジェクトにより、バーゼルの収蔵されている1,500点の作品が一般公開されました。

——書籍商のクルト・ティルマン(1894-1981)は、学生時代にドイツ語書籍の表紙を集めだし、1925年からは、装丁家に依頼状を書いてデザインを送ってもらうという系統的な収集方法を取るようになりました。数十年にわたり、新刊書の中からデザイン面で特に魅力的な作品を選び、コレクションに加えるとともに、古書店で見つけた歴史的な作品も収集しました。生涯を通じて、約10万点の書籍表紙と約3,000点のデザイン原画を含むコレクションを築き上げました。彼の比類なきコレクションは現在、マールバッハのドイツ文学アーカイブの収蔵品として、たびたび展覧会で展示されています。

今日、私的なデザインコレクションの公開の場としては、インターネットが一般的になっています。インターネットは、作品を常時閲覧可能にするとともに、複数のコレクションを体系化し、関連付けて時代背景の中に位置付けるといふ、まったく新しい可能性をもたらしています。カナダ・モダン(Canada Modern)、オーストラリアのリ・コレクション(Re:collection)、

シンガポール・グラフィック・アーカイブズといった民間主導のアーカイブ化プロジェクトでは、個々の作品の制作背景が紹介されるだけでなく、その多くが忘れ去られている制作者にも光が当てられています。従来のコレクションは作品そのものに重点を置いていましたが、現在では、デザインの過程を示す書簡やインタビュー、文書といった資料を、その時代背景に照らして考察することが、収集の重要な要素とみなされています。

「A5シリーズ」は2009年の創刊以来、作品の収集、デザイナーとの対話、過去の制作過程の資料管理に一体的に取り組むとともに、ドイツのデザイン界が1945年以降にたどった多彩な歴史に焦点を当て、各巻のテーマやキーパーソンを通じて掘り下げてきました。収集プロセスはデザイン研究の根幹となり、私的アーカイブや企業・機関のアーカイブから得た資料は、ほぼすべての巻で重要な基盤となっています。作品自体はすでに制作者やアーカイブの所蔵下にはないケースも多く、そのため古書店や蚤の市で探し当てたポスターや小印刷物が、創刊当初から重要な情報源となってきました。こうした資料や寄贈作品、小規模コレクションの取得を通じて、私たちは徐々に自前のコレクションを築き上げてきました。各巻で取り上げたテーマについては、刊行後も引き続きアンテナを張り続けています。例えば、2010年に刊行した国際セーリング・フェスティバル「キールウィーク」をテーマとする巻（A5/04）で紹介したポスターデザインの大半がキール市の所蔵品でしたが、書籍の刊行後、私たちのコレクションに加えることができました。

デザインのコレクションにまつわる特異性として、作品が大量印刷物である以上、必ずしも唯一無二の収蔵品ではない点が挙げられます。著名なグラフィックデザイナーが手がけたポスターの中には、すでにドイツの主要な公的機関のコレクションに所蔵されているものもあります。このため、私たちのコレクションでは、ドイツのデザイン史において十分に、または全く扱われてこなかった分野に重点を置くことを目指しています。一例が、ビジュアル・アイデンティティ分野です。この分野の作品に関する記録が、ドイツ国内のデザインアーカイブにほとんど存在しないことは、研究において繰り返し指摘されています。

dddとgggで開催した「アイデンティティシステム」展でも紹介したように、この分野は、固有のロゴデザインから体系的ビジュアル・アイデンティティの発展史までも含む幅広いものです。ビジュアル・アイデンティティは、グラフィックデザインが台頭し始めた1900年頃にはすでにドイツで適用されていた手法であり、1960年代末には独立したデザイン分野として確

立しました。私たちは、コーポレートデザインの指針を記したマニュアル類に加え、時代を象徴するプロジェクトの印刷物も収集しており、その際には各プロジェクトの印刷物をあわせて収集することで、そのデザインシステムの規則性やコンセプトの特徴が理解できるようにしています。コレクションは現在、ポーラ・シェア、ポール・ランド、ウィム・クロウエル、田中一光、F. H. K.ヘンリオンをはじめとするドイツ国外のデザイナーの作品も含むまでになっています。

もうひとつ力を入れてきたのが、スケッチや印刷テンプレート、プレゼンテーション資料の収集です。これらの資料は、デジタル以前のグラフィックデザインの制作過程やデザイン過程をたどる手がかりとなる素材として役立ちます。いずれも一点ものの資料であるにもかかわらず、1920年代の手描きのポスターやパッケージ用の型紙、1970年代のデザインプレゼンテーションのコピーに手書きのメモが添えられているなど、こうした貴重な資料が今なお発見されることは、驚くべきことです。ある意味、これは絶滅した職人技のコレクションともいえるかもしれません。

20世紀のデザイン史は、いまなお多くの発見に満ちており、それは今後も私たちの中心テーマであり続けるでしょう。しかし、コレクターの視点から現代のグラフィックデザインを考察することもまた、非常に興味深いテーマです。これほど質の高い優れたグラフィックデザイン作品が世界中で生み出されている時代は、まさに今だけと言えるでしょう。新たな動向も、SNSを通じてリアルタイムに目にすることができるようになっています。こうした中、影響力のあるデザインは、個人の個性よりもチームワークを特徴とするデザインスタジオから生まれることが多くなりました。同時に、欧米の雑誌や賞、年鑑の中には、時代に合わなくなったものや、終止符を打たれるものも出てきています。このような状況を背景に、21世紀のグラフィックデザインの収集は、これまで以上に個別化、多様化、複合化していく可能性があります。それでも、良質なアーカイブやコレクションは、研究や実務の重要な情報源として、今後も重要な役割を果たし続けるでしょう。

From Object to Context: New Perspectives on Collecting Graphic Design

Jens Müller & Katharina Sussek

A few years ago, Jennifer Whitlock, who heads the Vignelli Center archive at the Rochester Institute of Technology, headlined an article with the insightful statement: "All archives are design archives." She was referring to the fact that most archives contain designed posters, book covers, and letterheads. A little over fifteen years ago, the A5 book series emerged from a fascination with the rich history of graphic design and the revelation that historical works exist in vast diversity in private and public archives. The transience of many design works, in correlation with a constantly changing visual zeitgeist, makes research in historical collections particularly exciting, as design always reflects contemporary history.

Over the past few years, our work on twelve volumes of the A5 series, as well as numerous other publications on German and international design history, has evolved into a distinct collection dedicated to design history. However, before we discuss our collecting activities, we would like to broaden our perspective on the subject.

At the end of the nineteenth century, when graphic design began to spread throughout industrialized nations, the first public design collections emerged in Europe. These institutions still exist today, and thanks to their history, they possess collections that impressively document the early days of graphic design through rare exhibits. Many of these esteemed collections were originally established as reference collections for early design schools to train the next generation of designers. Above all, "exemplary" works were collected: pieces by notable figures, locally produced works, and, of course, pieces that aligned with the curators' personal preferences and interests.

Thanks to digitalization, many collections established over 100 years ago are now fully accessible. Thanks to new technological capabilities, we can reexamine the conscious and unconscious patterns and principles within these collections. On the other hand, information about early private design collections is scarce but often particularly fascinating.

— The Berlin dentist Hans Sachs (1881-1974), for example, was one of the first and arguably the most ambitious collectors of early graphic design in the German-speaking world. His collec-

tion included more than 12,000 posters and around 18,000 small pieces of prints. As a co-founder of the "Berliner Vereins der Plakattreunde" (Berlin Friends of the Poster Club), which published the first modern design magazine, *Das Plakat* (The Poster), Sachs contributed significantly to the professionalization of graphic design. In 1938, he was forced to flee the Nazis and leave his collection behind. Nevertheless, a large portion of his posters survived World War II. Approximately 4,000 pieces ended up in the collection of the Museum of German History of the former German Democratic Republic (GDR). After many years of legal proceedings, the remaining collection was returned to the collector's son in 2012.

— The "New Typography" movement of the 1920s and 1930s was documented in a collection by the designer and typographer Jan Tschichold (1902-1974), who was himself a key figure in this movement. By the late 1920s at the latest, he had begun asking selected colleagues to send him current examples of their work. In this way, Tschichold compiled around 2,000 works, incorporated them into his teaching, and displayed them in exhibitions he organized. Today, parts of this collection are housed at MoMA in New York and at the School of Design in Basel. In 2022, a project titled *Revolutionäre der Typographie* (Revolutionaries of Typography) made the 1,500 works held in Basel accessible to the public.

— The bookseller Curt Tillmann (1894-1981) started collecting German-language book covers as a student. Beginning in 1925, he systematically wrote to book designers, asking them to send him their designs. Over the course of several decades, he selected the most graphically interesting works from new publications for his collection and added historical examples from antiquarian bookshops. By the end of his life, his collection included approximately 100,000 printed book covers and around 3,000 original design artworks. This unique collection is now part of the German Literature Archive in Marbach's holdings and is frequently featured in exhibitions.

Today, the internet is a popular platform for showcasing private design collections. In addition to providing permanent visibility, the internet offers entirely new possibilities for organizing, connecting, and contextualizing collections. Privately initiated

archival projects, such as Canada Modern, Re:collection (Australia), and the Singapore Graphic Archives, convey the history behind individual objects and highlight their creators, some of whom have been largely forgotten. Unlike traditional collections, which focused primarily on the designed object itself, contextualizing materials such as correspondence, interviews, and documentation of the design process are now recognized as important components of the collecting process.

Since its launch in 2009, the A5 book series has combined the collection of objects, conversations with designers, and documentation of past working processes. The series focuses on the diverse history of German design after 1945 and explores it through individual themes or key figures. The process of collecting became a principle of design research. In nearly every volume, materials from private, corporate, or institutional archives provided an essential backbone. In many cases, certain works were simply no longer in the possession of designers or archives. Therefore, posters and small printed matter tracked down at antiquarian bookshops or flea markets were an important supplementary source from the beginning. Along with donations and the acquisition of smaller collections, we gradually built our own collection. Even after a book was published, the subject remained on the search radar. For example, the poster designs for the book on the Kiel Week sailing competition, published in 2010, came mainly from the City of Kiel's holdings. It was only after publication that we were able to acquire many of the posters for our collection.

One distinctive feature of design collections is that pieces produced in print runs are not unique. Certain posters by renowned graphic designers, for instance, are found in all major German institutional collections. Thus, one of our collection's goals has been to focus primarily on areas of German design history that have been documented incompletely or not at all elsewhere. Research has repeatedly revealed, for instance, that works in the field of visual identities are scarcely documented in German design archives.

This field, which was presented in the exhibition "Identity Systems Germany," ranges from individual logo designs to, above all, the history of the development of systematic visual identities. It is an aspect of design that was already being applied in Germany

during the pioneering era of graphic design around 1900 and became an independent design discipline by the 1960s at the latest. In addition to manuals containing the guidelines for corporate design, we collect exemplary printed materials from selected projects, from which serial principles and conceptual characteristics can be discerned through their interplay. The collection now also includes international examples, including works by Paula Scher, Paul Rand, Wim Crouwel, Ikko Tanaka, and F.H.K. Henrion.

Another focus has become collecting sketches, print templates, and presentation materials. These materials serve as examples that allow us to trace the design and production processes of pre-digital graphic design. Each piece is one of a kind, and it is astonishing that extraordinary objects continue to turn up, including hand-drawn print templates for posters and packaging from the 1920s and copies of design presentations from the 1970s with handwritten notes. In a sense, this is a collection of extinct craftsmanship.

The history of 20th-century design is still full of discoveries, and it will remain our focus. However, examining contemporary graphic design from a collector's perspective is also fascinating. Today, more high-quality, outstanding graphic design works are likely being produced worldwide than ever before. New developments are visible in real time via social media. Influential solutions often come from design studios characterized not by individual personalities, but by teamwork. At the same time, magazines, awards, and yearbooks have lost relevance or been discontinued in the U.S. and Europe. Against this backdrop, collecting 21st-century graphic design may become more individualized, diverse, and hybrid. Good archives and collections will certainly continue to play an important role as sources for research and practice.

展示事業

Exhibitions

ginza graphic gallery 2025–26

April 4 – May 17, 2025

TDC 2025 (Tokyo Type Directors Club Exhibition 2025)

May 27 – July 5, 2025

Identity Systems Germany | Rebranding West Germany after 1945

July 15 – August 27, 2025

2025 JAGDA Exhibition: Yusaku Kamekura Design Award and
JAGDA New Designer Award

September 5 – October 22, 2025

MINA TABEL LIGHT and FIGURE, and ALL AROUND

October 31 – November 29, 2025

Art Direction Japan 2025 Exhibition

December 9, 2025 – January 31, 2026

Norio Nakamura on graphic

February 12 – March 26, 2026

Jan Lenica. Maestro z Polski. Plakat, Animacja, Ilustracja, Teatr

ggg



TDC 2025 (Tokyo Type Directors Club Exhibition 2025)

April 4 – May 17, 2025

TDC 2025 (Tokyo Type Directors Club Exhibition 2025)

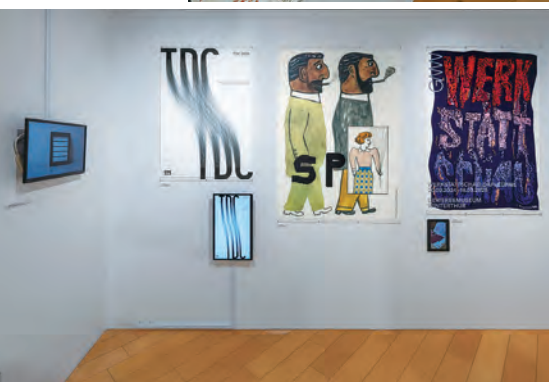


東京TDC賞2025、国内1,636海外1,954の応募から124作品を展示した。グランプリは早口言葉のミュージックビデオ、世界の文字や約物が高速に表出される。作品の専用ソフトをまず作るのが流儀で、さらにベースには数年をかけた世界の文字の標準化＝ユニコードの調査があった。標準化に奔走した各国の策定者に熱い思いを寄せている。2010年のグランプリは対照的でわずか4日間で制作された。ガザでの報道の検閲をめぐるBBC番組の予告映像だ。しかしこのベースには「個人的なプロジェクトを持続するべき」という信念から蓄積されたタイポグラフィ哲学とスキルがあった。社会をどう見るか、主題への取り組みの深度、流れる時間の豊かさをコンペの成果からいつも感じている。東京TDC 照沼太佳子

TDC 2025 presented 124 works selected from the 1,636 TDC Award submissions from Japan and 1,954 from abroad, including the 11 winners and all nominated entries. The Grand Prize winner was a tongue-twister music video featuring letters, marks, and symbols from around the world, appearing at high speed. The software for the project was based on years of research for the standardization of the world's writing systems as Unicode, and the people devoted to formulating the standard deserve deep respect. The time taken is a big contrast with the Grand Prize video in 2010: a preview clip for a BBC program about censorship of reporting in Gaza created in just four days. The 2025 Grand Prize video was grounded in a philosophy and skillset

in typography cultivated through belief in pursuing personal projects. The TDC Award results always bring a sense of how the participants view society, demonstrate their engagement with the theme, and eloquently express the times.

Takako Terunuma, Tokyo TDC



Identity Systems Germany | Rebranding West Germany after 1945

May 27 - July 5, 2025

アイデンティティシステム 1945年以降 西ドイツのリブランディング



2024年のdddに続き、2025年にgggで「アイデンティティシステム」展を開催できたことを大変嬉しく思います。dddより広く、2フロアとなるgggへの巡回に向け、私たちは作品を追加し、展示の拡張を試みました。ビジュアル・アイデンティティの展示は、ポスターとは異なるその本来の用途を考慮するという難しい点もありますが、今回、私たちは1階ではロゴというメディアに焦点をあて、地階ではそれが体系的なビジュアル・アイデンティティへと進化していく過程を展示しました。多くの来場者が展示作品を熱心に鑑賞し、メモや写真を撮る様子を間近で観察できたことは、とても貴重な体験でした。また、消え去ってしまうおそれのある資料を保存し、多くの人に伝えることの喜びを改めて感じました。

カタリーナ・ズセック&イエンス・ミュラー

Having already presented the exhibition project *Identity Systems Germany* at the kyoto ddd gallery in 2024, we were delighted to be able to bring the exhibition to Tokyo for a second presentation in 2025. The exhibition was expanded to include additional artefacts to fill the two floors of the ggg. It is not entirely trivial to present visual identities meaningfully in an exhibition setting, as their original application—unlike that of posters—has sometimes little in common with a gallery presentation. In keeping with the principles of our curatorial practice, we designed two rooms, the first focusing on the medium of the logo and the second on its evolution into systematic visual identities. It was a great honor for us that so many visitors found their way to the exhibition.

We were able to observe firsthand how intently the visitors engaged with the exhibited works, taking notes in their sketchbooks and snapping photos. In many cases, the objects we include in our collection are intended to be preserved from disappearing. Making them accessible to an interested audience in this way was a special delight.

Katharina Sussek & Jens Müller



2025 JAGDA Exhibition: Yusaku Kamekura Design Award and JAGDA New Designer Award

July 15 – August 27, 2025

2025 JAGDA 亀倉雄策賞・新人賞展



昨年度に続き「JAGDA 亀倉雄策賞・新人賞展」として、フロアを分けて2つの展示を同時開催。亀倉賞展は、女子美術大学・大学院学生募集のためのポスターシリーズの受賞作や新作を広やかに構成しつつ、展示台ではシルクスクリーン作品や数多の小さなラフスケッチを展開し、林規章氏独特の色彩と形に満ちた空間。一方、新人賞展は、城崎哲郎、サリール・チェン、松田洋和の3氏の共同ディレクションによる漆黒の壁面と什器に、各自の色々な仕事・作品が整然と並ぶ落ち着いた空間。新人選考評にあった、一つ一つの仕事に静かに丁寧に向き合っている眼差しが会場でも感じられた。今年もベテランと新人ともに瑞々しさにあふれる展覧会となった。

JAGDA事務局

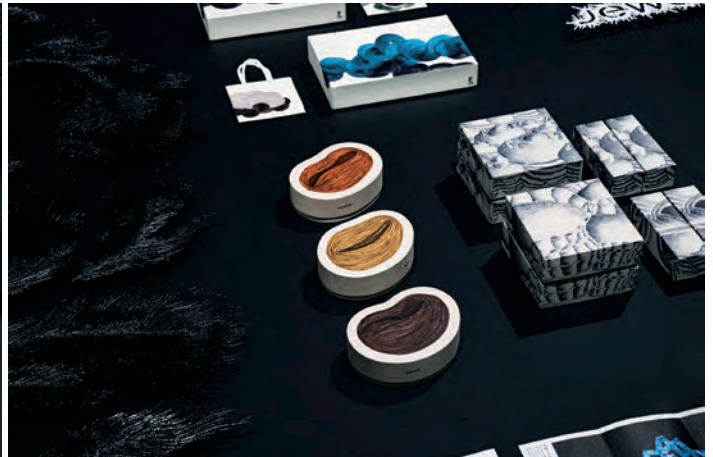
The 2025 JAGDA Exhibition presented the Yusaku Kamekura Design Award and the JAGDA New Designer Award on separate floors, following the format used for the 2024 exhibition. The Yusaku Kamekura Design Award exhibition featured an expansive arrangement of award-winning works and new posters from the series created for the recruitment of undergraduate and graduate students at Joshibi University of Art and Design, while display stands showcased silkscreen prints and rough sketches, resulting in a space filled with Noriaki Hayashi's distinctive colors and forms. In contrast, the New Designer Award Exhibition—under the joint direction of Tetsuro Jozaki, Sarene Chan, and Hirokazu Matsuda—offered a serene space where the diverse works and projects were neatly arranged against jet-black walls and display fixtures. The quiet, thoughtful approach of each individual work, as noted in the selection committee's comments, was evident throughout the exhibition space. This year's exhibition was once again brimming with fresh energy, featuring both experienced and emerging creators.

JAGDA Secretariat



林 規章 Noriaki Hayashi

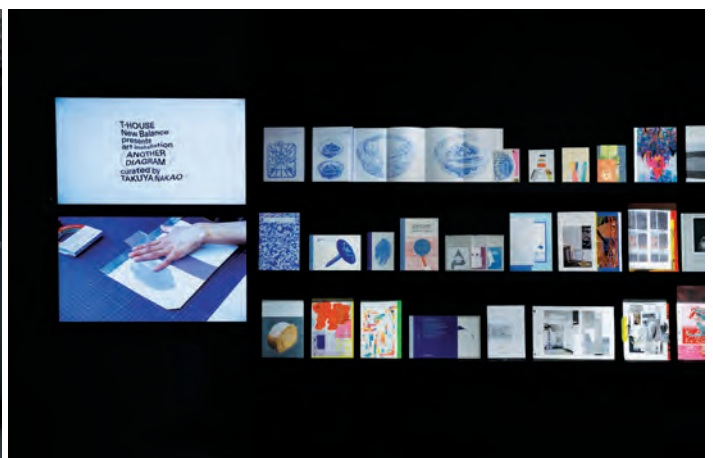




城崎 哲郎 Tetsuro Jozaki



サリーン・チェン Sarene Chan



松田 洋和 Hirokazu Matsuda

MINA Tabei LIGHT and FIGURE, and ALL AROUND

September 5 – October 22, 2025

田部井美奈 光と図形と、その周辺

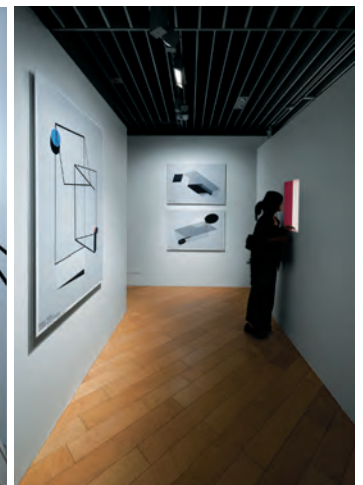
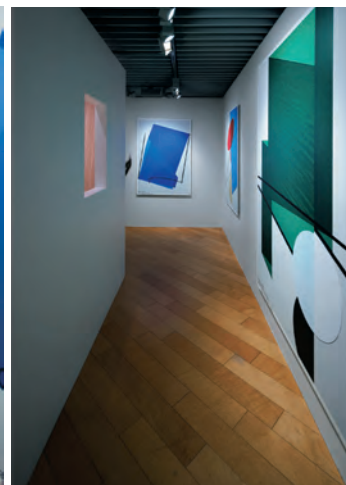
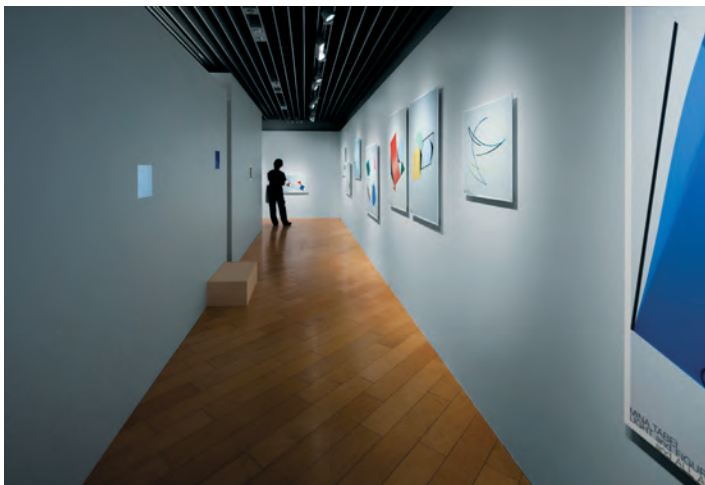


タイトルの「光と図形」は、ここ数年取り組んでいるシリーズで、対象物に光を当て、そこに生まれる反射や影を含めてひとつのグラフィックとして扱う試みです。グラフィックデザインの成果物としてのポスターをただ展示するだけではなく、それが立ち上がる瞬間を来場者にも体感してもらえるよう、被写体となった対象物自体も展示し、光を当てた状況を再現しました。それぞれが実際に覗き込みながら、その現象を目撃できるような展示構成としています。さらに「その周辺」として、1階ではこれまでの仕事のアーカイブをできるだけ多く、さまざまな種類のものを展示しました。「光と図形」に存在するグラフィックの面白さと、実際の仕事とのつながりを感じてもらえればと考えました。 田部井美奈

The title of *LIGHT and FIGURE* refers to a series I have been working on for the past few years, in which I shine light on objects and treat the resulting reflections and shadows as part of a single graphic composition. Rather than simply displaying the posters as graphic design pieces, I exhibited the objects, recreating the lighting conditions under which they were photographed, so that visitors could experience the moment they came to life. The exhibition is designed so that visitors can witness the phenomenon for themselves. As context, I also displayed as many of my past works as possible—covering a wide variety of genres—on the first floor. I hoped that in *LIGHT and FIGURE*, visitors would be able to appreciate the appeal

of the graphics and see how they connect to actual work.

Mina Tabei



Art Direction Japan 2025 Exhibition

October 31 – November 29, 2025

日本のアートディレクション展 2025



2025年のADCグランプリには、北川一成による「藤野 隆大 カサブバ」展のアートディレクションが選出された。無彩色の大きな色面の端にのみ作品写真を配したポスターは、情報伝達の役割を超え、ポスターというメディアの存在意義そのものを問い直すような批評性と実験性を備えている。ADC会員賞に選ばれた菊地敦己による「菊地敦己 グラフィックデザインのある空間」は、答えを示すのではなく、問いを投げかけるような展示構成が高く評価された。同じく会員賞の小松洋一によるカネボウ化粧品「I HOPE」が印象を残した一方、一般応募作品でも、花王「メリット」や「TAMIYA PLAMODEL FACTORY TOKYO」など、ブランドの輪郭を鮮やかに更新する表現が多く見られ、今年のADC展全体の広がりを感じさせた。ADC展委員 色部義昭

Issay Kitagawa's art direction for the exhibition *Takano Ryudai: kasubaba* was selected for the 2025 ADC Grand Prize. By placing photographs of the artworks only at the edges of large achromatic color fields, his posters transcend their role as a mere vehicle for conveying information; they possess a critical and experimental quality that challenges the very reason for the existence of the poster as a medium. *Atsuki Kikuchi: Graphic in Space*, which won the ADC Members' Award, was highly praised for an exhibition design that posed questions rather than providing answers. While *I HOPE* for Kanebo Cosmetics by Yoichi Komatsu, another recipient of the Members' Award, left a lasting impression, the open submissions also featured numerous entries

—such as *Merit* for KAO and *TAMIYA PLAMODEL FACTORY TOKYO*—that vividly redefined brands' identities, illustrating the breadth of this year's ADC exhibition as a whole.

Yoshiaki Irobe,
Tokyo ADC Exhibition Committee Member



Norio Nakamura on graphic

December 9, 2025 – January 31, 2026

中村至男 オン グラフィック



gggは学生の頃からたくさんの展覧会を見に行った憧れの場所です。2006年の「勝手に広告（中村至男＋佐藤雅彦）の活動No.6」で初めて展示をさせていただき、その20年後ついに個展を開くことができました。本当に光栄に思います。じつは昨年から大学で授業を持っていて、毎週たくさんの学生の作品を見ながら、対話と制作を進めています。学生は皆悩みながら真剣に取り組んでいます。そんな折のこの機会、自分の作品や奮闘も学生のものにみてもらいたいなと思いました。アーカイブに新作を加え年代ごちゃ混ぜにした展示は、何歳になっても悩みながら散らかった思考の痕跡です。「中村至男 オン グラフィック」学生の時の自分が見たらどう感じただろうか。 中村至男

I've always respected and admired ggg, and have seen many exhibitions since I was a student. The first opportunity to show my own work was *Radical Advertisement (Norio Nakamura + Masahiko Sato) Activities No.6* in 2006. Twenty years later, I finally have a solo exhibition—a great honor. I began teaching university students last year, looking at their works every week as I go through my own process of dialogue and production. The students all work earnestly, concerned about how to proceed, so the exhibition was a chance to share my work and my own struggles. Displaying newer works mixed in with archive works shows my scattered thoughts—a state I grapple with no matter my age. I wonder what my younger self would have thought of *Norio Nakamura on graphic*. Norio Nakamura



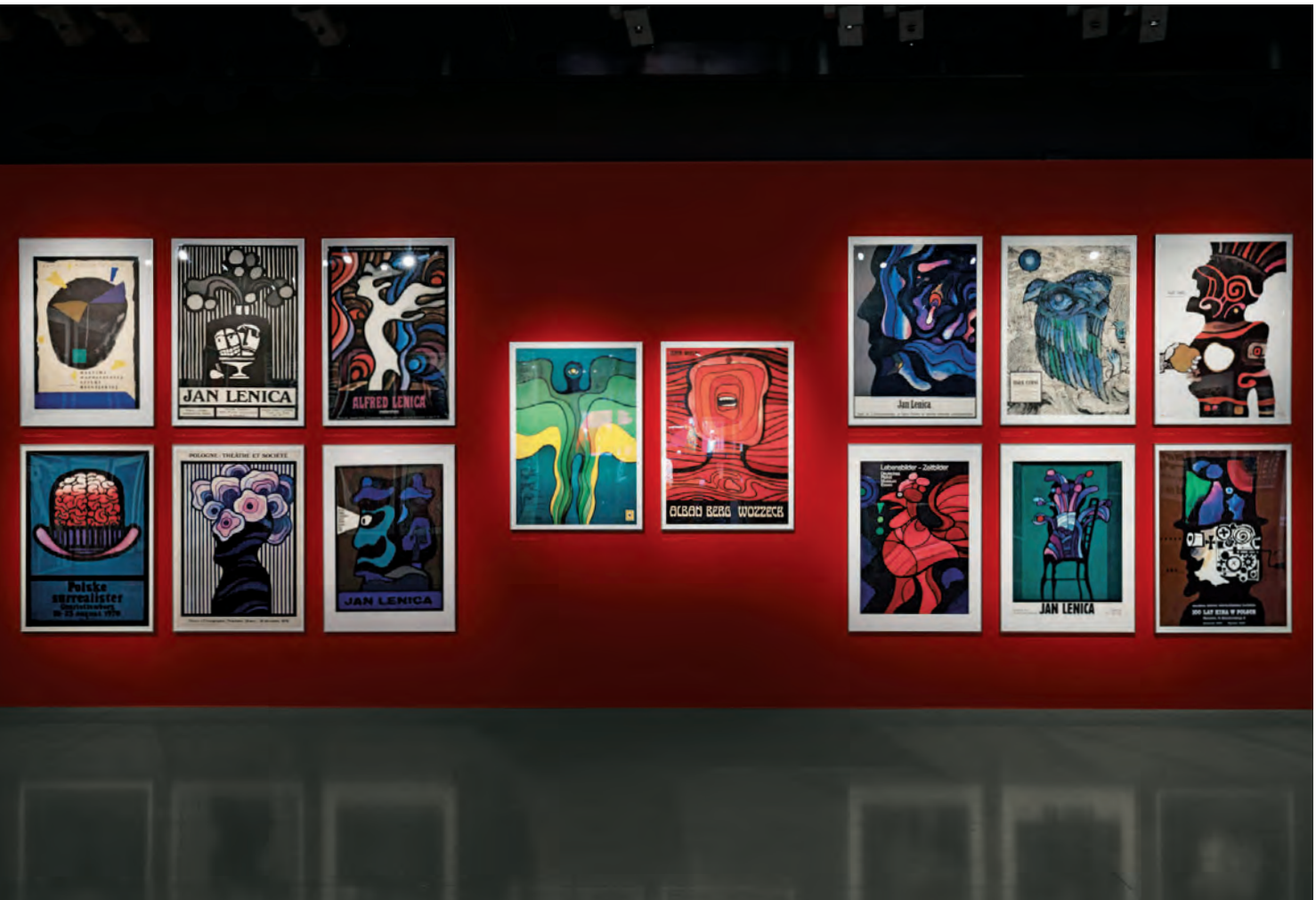


Jan Lenica. Maestro z Polski. Plakat, Animacja, Ilustracja, Teatr

February 12 – March 26, 2026

ポーランドの巨匠 ヤン・レニツァ

ポスター、アニメーション、イラストレーション、舞台



ポーランドを代表するポスターアーティスト、ヤン・レニツァ (1928-2001) の全活動を紹介する本展では、初期の雑誌挿絵 (風刺画) から、国内外で名声を博したポスターやアニメーション映画まで、多彩な作品を展示しました。レニツァが手がけた映画や演劇、音楽のポスターは、洗練された絵画的技法と比喩的な表現が融合し、繰り返される構図のモチーフはメディアを横断し、グラフィックと映画を結びつけています。1960年代半ば以降はアール・ヌーヴォーへの関心も見られ、流れるような曲線が特徴的です。彼の作家性あふれるアニメーション映画に見られる感受性や独創性は、依頼作品にも共通しています。レニツァは自身をグラフィックデザイナーではなく、アーティストだと考え、グラフィックと映画の幅広い手法を駆使して、独特の世界観と作品を創り出しました。

アンナ・グラボフスカ=コンヴェント

Jan Lenica (1928–2001) is best known as an outstanding Polish poster artist. This exhibition, however, presented the full range of his artistic activity from 1947 to 2001, from early press illustrations to the two central areas of his work: poster art and animated film. Lenica's film, theatre, and music posters combine refined painterly technique with a metaphorical approach to the subject. Recurring compositional motifs move fluidly across media, linking his graphic and film work. From the mid-1960s onward, his fascination with Art Nouveau becomes evident in the use of sinuous, flowing lines. The sensitivity and originality characteristic of his authorial animated films are also present in his commissioned projects. Lenica regarded himself not as

a graphic designer, but as an artist, employing both a wide range of means drawn from both graphic art and film to realize a coherent, personal vision.

Anna Grabowska-Konwent
(Curator, Gallery of Poster and Graphic Design,
National Museum in Poznań)



kyoto ddd gallery 2025–26

April 10 – June 4, 2025

Lu Jingren Tao of Chinese Book Design

June 13 – August 20, 2025

Modern Expo Posters: A Graphical Journey Through World Expos

August 29 – October 29, 2025

FELIX BELTRAN CONNECTIONS

— LA HAVANA NEW YORK OSAKA MEXICO MADRID KYOTO —

November 6, 2025 – January 12, 2026

C-GRAPHIC/TAIPEI: Taipei's Graphic Design Scene in the 2020s

January 20 – March 22, 2026

LOCAL LOCAL: We have nothing? — The Makoto Umebara Exhibition



Lu Jingren Tao of Chinese Book Design

April 10 – June 4, 2025

書藝問道 ブックデザイナー 呂敬人の軌跡



「世の中は三日見ぬ間に桜かな」（大島蓼太）のような季節に、京都への巡回が実現しました。dddでは展示環境の変化に合わせ、「本の五感」ポスターを入口に大きく掲示し、来場者に書籍の持つ「視覚・触覚・聴覚・嗅覚・味覚」の五感を一目で理解してもらえるようにしました。「本の五感」という概念は、36年前に杉浦康平先生から学んだもので、それ以来、私はブックデザインを平面から立体、さらには「本という生命体」の創造へと高めることを自らのデザイン理念の核心としてきました。古来より人々が享受してきた、手触り・重さ・香りなどを持つ「物質としての本」を読む喜びとその魅力をこれからも大切にしていきたいと思っています。

呂敬人

At the time of year when you could “look away for three days, and the cherry blossoms have already bloomed” (verse by Ryota Oshima), the traveling exhibition came to Kyoto. To reflect the changes in the exhibition environment, ddd displayed a large poster of “The Five Senses of Books” at the entrance, enabling visitors to instantly grasp the five senses—sight, touch, hearing, smell, and taste—associated with books. Ever since I learned the concept of the five senses of books from Kohei Sugiura thirty-six years ago, I have made it the core of my design philosophy to elevate book design from two-dimensional to three-dimensional forms, and ultimately to the creation of “books as living organisms.” I hope we can continue cherishing the joy

and appeal of reading books as physical objects—with unique textures, weights, and scents—that people have enjoyed since ancient times.

Lu Jingren



Modern Expo Posters: A Graphical Journey Through World Expos

June 13 – August 20, 2025

モダン・エキスポ・ポスターズ：グラフィックでみる現代の万博



大阪を中心とした関西地域で万博が開催された記念の年に、DNP文化振興財団所蔵作品の中から過去の万博に関連するポスターを選び、展示した。現代的な万博の先駆けとなった1958年のブリュッセルから、2025年の大阪・関西までの、計14回の現代万博のポスターを通してその変遷を示した。展示は所蔵作品を中心に、博覧会国際事務局、万博博物館、乃村工藝社の協力のもと実現した。社会やデザイン界の出来事をまとめた年表とあわせて展示することで、各時代における万博の位置づけを再認識する機会となった。また、2025年の万博のロゴやデザインシステムとともに、制作者による企画意図や活動を紹介する特別展示も実施した。万博開催期間中という背景もあり、多くの来場者から好評を博し、反響も大きかった。

To mark the year when the World Expo was held in the Kansai region, predominantly in Osaka, posters relating to past World Expos were exhibited from the collection of the DNP Foundation for Cultural Promotion. The exhibition traced the evolution of modern World Expos through posters from a total of fourteen events, spanning from Expo 58 in Brussels in 1958—heralding the modern World Expo format—to Expo in 2025. The exhibition, which focused on works from the museum's collection, was made possible through the cooperation of the Bureau International des Expositions, the World Expo Museum, and NOMURA Co., Ltd. By presenting this alongside a timeline summarizing events in society and the design world, the exhibition

provided an opportunity to reexamine the role of World Expos in each era. In addition, a special exhibit showcased the logo and design system for Expo in 2025, along with the creators' creative intentions and activities. Partly due to being held while the World Expo was on, the exhibition attracted many visitors, was well-received, and generated a significant response.



FELIX BELTRAN CONNECTIONS — LA HAVANA NEW YORK OSAKA MEXICO MADRID KYOTO —

August 29 – October 29, 2025

フェリックス・ベルトラン コネクション
— ハバナ ニューヨーク 大阪 メキシコ マドリード 京都 —



「フェリックス・ベルトラン コネクション」展は、歴史的に重要な資料を網羅した包括的なグラフィックインスタレーションです。会場には、1970年の大阪万博「キューバ館」の写真や17点のオリジナルポスター、雑誌、新聞、手紙、ロゴ、書籍、そしてテレサ・カマチョ・ドキュメンタリーアーカイブ所蔵の99点のリソグラフなどを展示しました。ご協力いただいたすべての皆様に、心より感謝いたします。社会的メッセージを内包し、大きな影響力を持つベルトランの力強い作品を、鮮やかな色彩とダイナミックなビジュアルで紹介した本展は、デザインに強い関心を持つ専門家や学生、一般の来場者にとって、イberoアメリカ・デザインの歴史を再発見する貴重な機会となったに違いありません。

ソニア・ディアス&ガブリエル・マルティネス

Felix Beltran Connections was a comprehensive graphic installation featuring exhibits of great historical significance: images of the Cuban pavilion at Expo'70, the World Exposition in Osaka, seventeen original posters, magazines, newspapers, and letters, along with ninety-nine photolithographs from the Teresa Camacho Archive. We wish to express our sincere gratitude and congratulate the entire team at ddd and the DNP Foundation for Cultural Promotion for showcasing the work of the master Félix Beltrán, whose powerful creations conveyed a social message of great impact. The exhibition was a visual celebration, an explosion of vibrant colour and a rediscovery of the history of Ibero-American design, designed to appeal to profes-

sionals, students and the general public with a passion for design.

Sonia Díaz & Gabriel Martínez
(Curators of the Exhibition)



C-GRAPHIC/TAIPEI: Taipei's Graphic Design Scene in the 2020s

November 6, 2025 – January 12, 2026

C-GRAPHIC/TAIPEI 2020年代台北のグラフィックデザイン



「C-GRAPHIC/TAIPEI」は、現代台北グラフィックデザインシーンを彩る10組のグラフィックデザイナーの声と仕事を紹介することを試みた展覧会。ギャラリーを見開きページで区切るように展覧会を構成し、書籍『C-GRAPHIC INDEX』の誌面を空間に展開した。近年、国際的なデザインコンペやSNSを通じて中華圏のデザイナーの存在感は高まっているが、その文化的・社会的背景は十分に共有されているとは言い難い。本展では作品展示を通して、その多層的な創作背景に触れる機会を提示し、台北のデザイナーたちが都市と関わりながら2020年代のカルチャーを形成する姿を、視覚と言語の両面から示した。

後藤哲也

The C-GRAPHIC/TAIPEI exhibition introduced the work and perspectives of ten graphic designers who are making their mark on Taipei's contemporary graphic design scene. The exhibition used the equivalent of double-page spreads to mark divisions in the gallery space, effectively extending the pages of the *C-GRAPHIC INDEX* book into physical space. Designers from parts of the world that use Chinese characters have been gaining prominence through international design competitions and social media, but their cultural and social backgrounds are not always widely shared. Through the works on display, this exhibition offered visitors the opportunity to explore the multifaceted creative context behind them, illustrating—both visually and

linguistically—how Taipei's designers are shaping the culture of the 2020s while engaging with urban environments.

Tetsuya Goto



adj. everything



ddd.pizza



Echo Yang



Elf-19



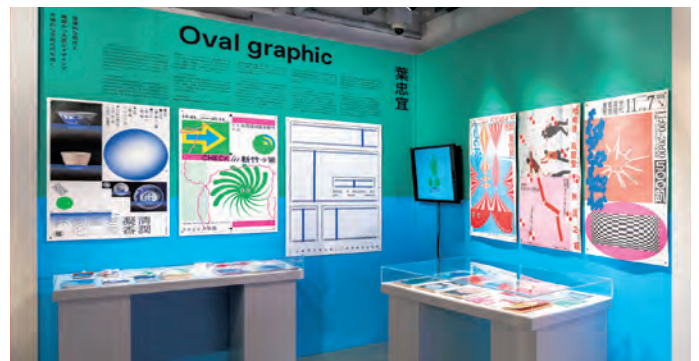
HOUTH



0.00™



ONE.10 Society



Oval graphic



Sydney Sie



Yang Qiao Ran

LOCAL LOCAL: We have nothing? — The Makoto Umebara Exhibition

January 20 – March 22, 2026

LOCAL LOCAL -ないものはない- 梅原真展

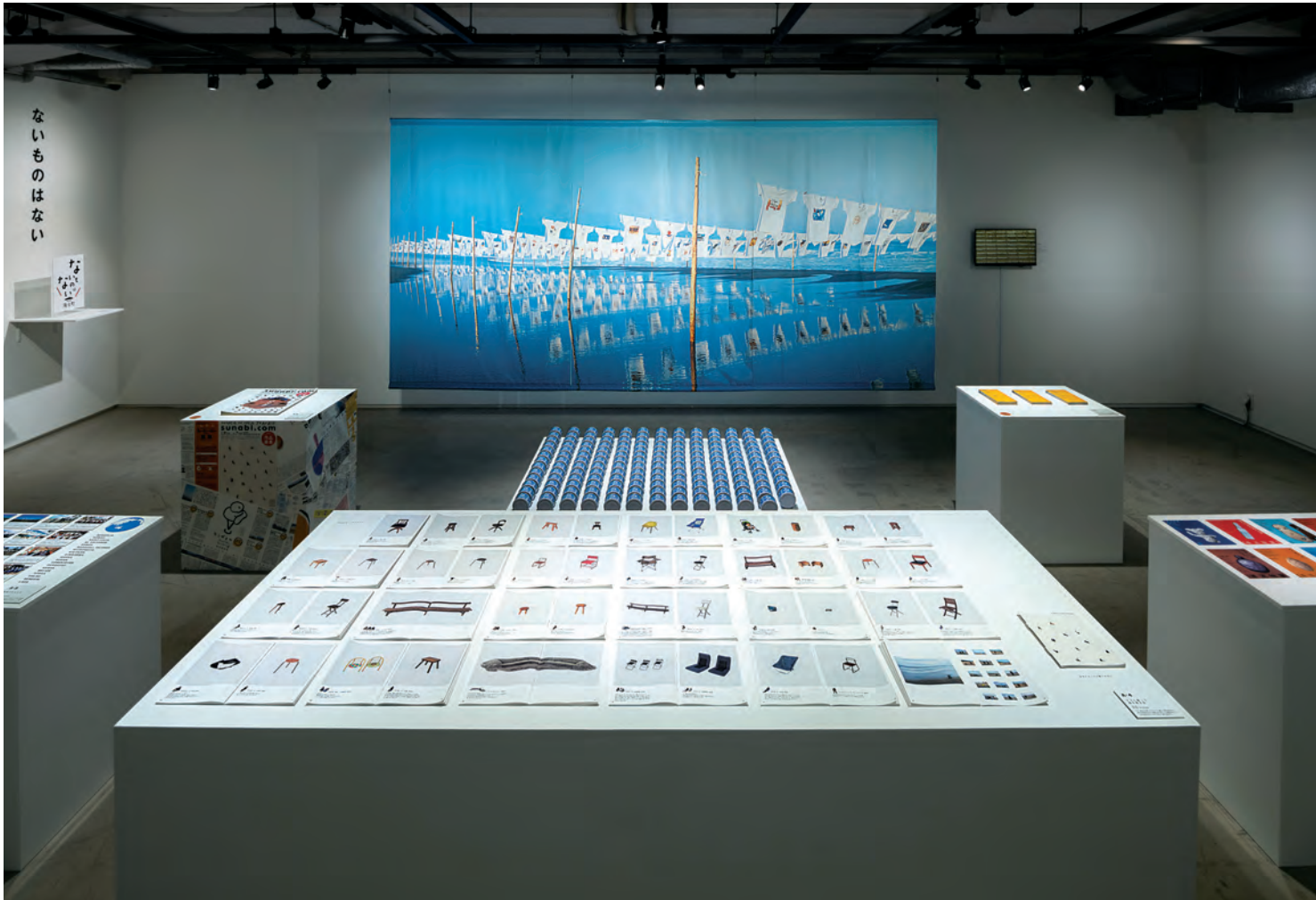


「ないものはない」は「本当になにもないのか?」という自戒をこめた問いである。「その土地にしか生まれ得ないモノ」に深くアプローチしてみる。なにもない「砂浜」を美術館に見立てる。砂浜美術館。低迷する「漁業」の息を吹き返す。カツオ一本釣り。荒れ果てた「栗山」を取りもどす。しまんと地栗。こんなものが見えてきた。これらは「土地の本質を見極めて可視化したもの」である。その土地に根ざした、ゆるぎのない「ユタカさ」を形にして差し出すことで、人が、暮らしが、風景が動き出していく。この展覧会では、土地ごとの豊かさを探り、凝縮していくデザインの思考とプロセスを俯瞰する貴重な機会をいただいた。日本各地に、その土地、その土地の「デザイン」があることを願っています。 梅原真

“We have nothing?” is a question imbued with self-admonition: “Is there truly nothing at all?” I took a deeper approach to thinking of things that could only be found at that place. The Sunabi Museum turned a sandy beach with nothing into an art museum. The local technique of fishing for bonito with a pole and line was used to revitalize the struggling fishing industry. The Shimanto Ziguri project brought neglected chestnut groves back into production. These are the things that started to become visible. These are the things that help us to grasp and see the true nature of the land. By giving tangible form to an unwavering sense of abundance rooted in the land, the local people become more active in their daily lives, and the landscape is revitalized. The

exhibition provided a valuable opportunity to gain a broad perspective on the design philosophy and process of exploring and distilling the unique qualities of a particular region. I hope that each region in Japan will discover its own distinctive design.

Makoto Umebara



教育・普及事業

Education & Enlightenment

ggg Gallery Talks & Gallery Tours

ggg ギャラリートーク & ギャラリーツアー



アイデンティティシステム 1945年以降 西ドイツのリブランディング

○ ギャラリートーク

開催=2025年5月30日

出演=カタリーナ・ズセック (vista) + イェンス・ミュラー (vista、ドルトムント応用科学大学デザイン学部 教授)

Identity Systems Germany Rebranding West Germany after 1945

○ Gallery Talk

Date=May 30, 2025

Speakers=Katharina Sussek (vista) + Jens Müller (vista/Professor, Faculty of Design, Dortmund University of Applied Sciences and Arts)



2025 JAGDA 亀倉雄策賞・新人賞展

*イベント主催: JAGDA (公益社団法人日本グラフィックデザイン協会)

○ 第27回亀倉雄策賞ギャラリートーク

開催=2025年7月22日

出演=林規章 + 服部一成 + 吉田ユニ

● 第27回亀倉雄策賞ギャラリーツアー

開催=2025年8月21日

解説=林規章

2025 JAGDA Exhibition: Yusaku Kamekura Design Award and JAGDA New Designer Award

*All Events organized by JAGDA (Japan Graphic Design Association Inc.)

○ The 27th Yusaku Kamekura Design Award Gallery Talk

Date=July 22, 2025

Speakers=Noriaki Hayashi + Kazunari Hattori + Yuni Yoshida

● The 27th Yusaku Kamekura Design Award Gallery Tour

Date=August 21, 2025

Guide=Noriaki Hayashi



日本のアートディレクション展 2025

○ ギャラリートーク

開催=2025年11月18日

出演=北川一成 + 鷹野隆大 (写真家、アーティスト)

● ギャラリーツアー

開催=2025年11月20日

解説=色部義昭 + 木住野彰悟 +

受賞者 (江波戸李生、大坪メイ、林琢真、城崎哲郎、村田篤司)

● ギャラリーツアー

開催=2025年11月27日

解説=岡本学 + 小杉幸一 + 受賞者 (小松洋一、中山智裕、江波戸李生、大坪メイ、鎌田順也、林琢真)

ART DIRECTION JAPAN 2025 EXHIBITION

○ Gallery Talk

Date=November 18, 2025

Speakers=Issay Kitagawa + Ryudai Takano (Photographer/Artist)

● Gallery Tour

Date=November 20, 2025

Guides=Yoshiaki Irobe + Shogo Kishino +

Award Winners (Rio Ebato, Mei Otsubo, Takuma Hayashi, Tetsuro Jozaki, Atsushi Murata)

● Gallery Tour

Date=November 27, 2025

Guides=Manabu Okamoto + Koichi Kosugi +

Award Winners (Yoichi Komatsu, Tomohiro Nakayama, Rio Ebato, Mei Otsubo, Junya Kamada, Takuma Hayashi)



2025 JAGDA 亀倉雄策賞・新人賞展

*イベント主催：JAGDA (公益社団法人日本グラフィックデザイン協会)

○ JAGDA 新人賞2025 ギャラリートーク

開催=2025年7月25日

出演=城崎哲郎+サリーン・チェン+松田洋和+岡崎智弘

● JAGDA 新人賞2025 ギャラリーツアー

開催=2025年8月26日

解説=城崎哲郎+サリーン・チェン+松田洋和

2025 JAGDA Exhibition: Yusaku Kamekura Design Award and JAGDA New Designer Award

*All Events organized by JAGDA (Japan Graphic Design Association Inc.)

○ JAGDA New Designer Award 2025 Gallery Talk

Date=July 25, 2025

Speakers=Tetsuro Jozaki + Sarene Chan + Hirokazu Matsuda + Tomohiro Okazaki

● JAGDA New Designer Award 2025 Gallery Tour

Date=August 26, 2025

Guides=Tetsuro Jozaki + Sarene Chan + Hirokazu Matsuda



中村至男 オン グラフィック

○ ギャラリートーク

開催=2026年1月28日

出演=中村至男+服部一成

● ギャラリーツアー

開催=2026年1月30日

解説=中村至男

Norio Nakamura on graphic

○ Gallery Talk

Date=January 28, 2026

Speakers=Norio Nakamura + Kazunari Hattori

● Gallery Tour

Date=January 30, 2026

Guide=Norio Nakamura



田部井美奈 光と図形と、その周辺

○ ギャラリートーク

開催=2025年9月19日

出演=田部井美奈+服部一成

● ギャラリーツアー

開催=2025年10月10日

解説=田部井美奈+荒牧悠(アーティスト)+大野友資(建築家)+中原崇志(建築家、ミュージアムデザイナー)

MINA Tabei LIGHT and FIGURE, and ALL AROUND

○ Gallery Talk

Date=September 19, 2025

Speakers=Mina Tabei + Kazunari Hattori

● Gallery Tour

Date=October 10, 2025

Guides=Mina Tabei + Haruka Aramaki (Artist) + Yūsuke Oono (Architect) + Takashi Nakahara (Architect/Museum Designer)



ポーランドの巨匠 ヤン・レニツァ

ポスター、アニメーション、イラストレーション、舞台

○ ギャラリートーク

開催=2026年2月12日

出演=アンナ・グラボフスカ=コンヴェント(ポズナン国立美術館ポスター&グラフィックデザインギャラリー部門学芸員)

Jan Lenica. Maestro z Polski.

Plakat, Animacja, Ilustracja, Teatr

○ Gallery Talk

Date=February 12, 2026

Speaker=Anna Grabowska-Konwent (Curator, Gallery of Poster and Graphic Design, National Museum in Poznań)

Featured ggg Gallery Talk: Jan Lenica. Maestro z Polski. Plakat, Animacja, Ilustracja, Teatr

特集: ggg「ポーランドの巨匠 ヤン・レニツァ ポスター、アニメーション、イラストレーション、舞台」ギャラリートーク

開催=2026年2月12日

出演=アンナ・グラボフスカ=コンヴェント

(ポズナン国立美術館 ポスター&グラフィックデザイン
ギャラリー部門学芸員)

本レクチャーは、ヤン・レニツァ(1928–2001)を「ポーランド・ポスター派」の代表作家として紹介するにとどまらず、ポスターとアニメーションを軸に分野を横断する総合的芸術家として再定義することを主眼とした。冒頭では、gggがこれまで開催してきたポーランド・グラフィックの展覧会史に触れ、本展をその連続線上に位置づけながら、戦後ポーランド美術におけるレニツァの歴史的意義を示した。

続いて、ポズナンでの出生、戦争体験、建築教育、風刺画家としての出発といった作家形成の背景をたどり、1948年にスイスの『*Graphis*』誌を通じてポーランド・ポスターを国際的に紹介したエピソードから、戦後美術の再出発という文化史的文脈が提示された。講演の中心は、「ドローイング」「ポスター」「アニメーション」「イラストレーション」「演劇」という五分野を横断的に読み解く構成である。とりわけドローイングは創作の基盤として重視され、初期の風刺画から、1956年以降の哲学的ドローイング、さらにパリ移住後に顕著となるアール・ヌーヴォー的な流麗な線描へと至る変遷が示された。これらの線が、ストーリーボードを起点としてアニメーションやポスターへ展開していくプロセスが具体的に解説された。

ポスター分野では、映画の主題を象徴的かつ詩的に再構築する独自の方法が紹介され、文化ポスターが比較的自由的な「芸術的避難所」であったという本人の言葉を通して、広告媒体と芸術表現というポスターの両義性が論じられた。アニメーションでは、切り絵やコラージュ、実写を融合した革新的手法と国際的評価が取り上げられ、内面的世界と視覚表現の結びつきが強調された。

終盤では、児童書挿絵や演劇・オペラポスターにも触れ、独学で確立された造形言語が半世紀にわたり展開したことが示される。

最後に引用された「私は誰か?」という言葉は、単一の肩書きに還元できないレニツァの多面性を象徴し、本講演を、ポスターを思想と芸術的実験の場として捉え直す試みとして結んでいる。

Date=February 12, 2026

Speaker=Anna Grabowska-Konwent

(Curator, Gallery of Poster and Graphic Design,
National Museum in Poznań)

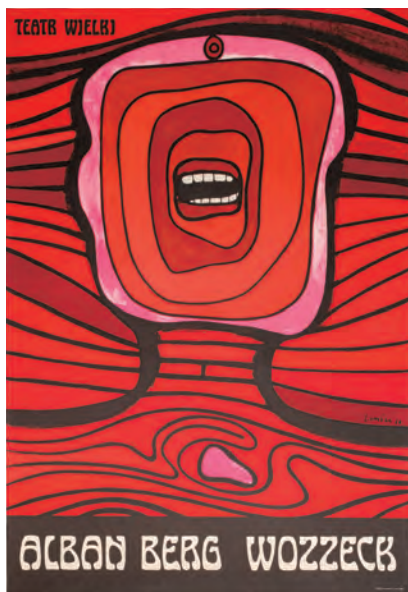
This lecture aimed not only to introduce Jan Lenica (1928–2001) as a leading figure of the Polish School of Posters, but also to redefine him as a comprehensive artist whose practice crossed multiple disciplines, with posters and animation at its core. At the outset, the talk referred to the history of exhibitions on Polish graphic design previously held at ggg, positioning the present exhibition within this continuum and emphasizing Lenica's historical significance in postwar Polish visual culture.

The lecture then traced Lenica's formative background, including his birth in Poznań, his wartime experiences, architectural education, and his beginnings as a caricaturist. An episode from 1948, when Polish posters were introduced internationally through the Swiss magazine *Graphis*, situated Lenica not only within a personal narrative but also within the broader cultural history of postwar reconstruction and international exchange.

The core of the lecture was structured around five interrelated fields—drawing, posters, animation, illustration, and theatre—examined from a cross-disciplinary perspective. Drawing was emphasized as the foundation of Lenica's creative process, evolving from early caricatures to philosophical drawings after 1956, and later to the fluid, ornamental lines influenced by Art Nouveau following his move to Paris. These lines were shown to develop into posters and animations through the process of storyboarding.

In the discussion of posters, Lenica's distinctive method of poetically reconstructing a film's central theme through symbolic imagery was highlighted. His view of cultural posters as an "artistic refuge" underscored the medium's dual nature as both advertising and artistic expression. The animation section focused on his innovative techniques—combining cut-outs, collage, and live-action—and their strong international reception, emphasizing the close connection between his inner world and visual expression. In the final section, Lenica's work in children's book illustration and his numerous theatre and opera posters were addressed, demonstrating the long-term development of a visual language established through self-directed learning. The lecture concluded with Lenica's own question, "Who am I?", encapsulating an artistic identity

that resists a single definition and reaffirming the lecture's central message: to reconsider posters not merely as tools of visual communication, but as sites of thought and artistic experimentation.



Alban Berg, Wozzeck
Opera Poster/1964, Printed in 1965 (1st ed.)



Wolfgang Amadeus Mozart, Don Giovanni
Opera Poster/1976



Jan Lenica, Museum für Kunst und Gewerbe, Hamburg
Exhibition Poster/1991



"Jan Lenica", Wiadomości Kulturalne no.38
Drawing/1996



Head Cleaning/Caricature/1957



Labyrinth: Flying Man/Art Work from an Animated Film/1962



Jan Lenica

ddd Gallery Talks & Gallery Tours

ddd ギャラリートーク & ギャラリーツアー



書藝問道 ブックデザイナー 呂敬人の軌跡

○ ギャラリートーク
開催 = 2025年4月10日
出演 = 呂敬人 + 佐藤篤司

Lu Jingren Tao of Chinese Book Design

○ Gallery Talk
Date = April 10, 2025
Speakers = Lu Jingren + Atsushi Sato



モダン・エキスポ・ポスターズ： グラフィックでみる現代の万博

● 学芸員による作品解説
開催 = 2025年6月14日
解説 = 森崎陵子

○ ギャラリートーク
開催 = 2025年7月19日
出演 = 引地耕太 (株式会社ヴィジョンズ) + 花岡 (株式会社人間)

Modern Expo Posters: A Graphical Journey Through World Expos

● Curator's Gallery Tour
Date = June 14, 2025
Guide = Takako Morizaki

○ Gallery Talk
Date = July 19, 2025
Speakers = Kota Hikichi (VISIONS, Inc.) + Hanaoka (Ningen.inc)



LOCAL LOCAL -ないものはない- 梅原真展

○ ギャラリートーク (YouTube配信)
開催 = 2026年1月20日
出演 = 梅原真

○ トークセッション「LOCAL LOCAL」(YouTube配信)
開催 = 2026年1月30日
出演 = 梅原真 + 原研哉

○ トークセッション「LOCAL LOCAL 2」
開催 = 2026年3月7日
出演 = 梅原真 + 小坂橋基希 (株式会社アカオニ 代表、アートディレクター、デザイナー)

○ トークセッション「LOCAL LOCAL 3」
開催 = 2026年3月8日
出演 = 梅原真 + 吉野敏充 (吉野敏充デザイン事務所 代表、LIVE DESIGN Schoolリードデザイナー)

LOCAL LOCAL: We have nothing? — The Makoto Umebara Exhibition

○ Gallery Talk (posted on YouTube)
Date = January 20, 2026
Speaker = Makoto Umebara

○ Talk Session "LOCAL LOCAL" (posted on YouTube)
Date = January 30, 2026
Speakers = Makoto Umebara + Kenya Hara

○ Talk Session "LOCAL LOCAL 2"
Date = March 7, 2026
Speakers = Makoto Umebara + Motoki Koitabashi (Corporate Representative, Akaoni.inc/Art Director/Designer)

○ Talk Session "LOCAL LOCAL 3"
Date = March 8, 2026
Speakers = Makoto Umebara + Toshimitsu Yoshino (Corporate Representative, Toshimitsu Yoshino Design Office/Lead Designer, LIVE DESIGN School)



フェリックス・ベルトラン コネクション
 —ハバナ ニューヨーク 大阪 メキシコ マドリッド 京都—

○ ギャラリートーク
 開催=2025年8月29日
 出演=ソニア・ディアス+ガブリエル・マルティネス (本展キュレーター)

FELIX BELTRAN CONNECTIONS
 — LA HAVANA NEW YORK OSAKA MEXICO MADRID KYOTO —

○ Gallery Talk
 Date=August 29, 2025
 Speakers=Sonia Diaz + Gabriel Martínez (Curators of the Exhibition)



C-GRAPHIC/TAIPEI 2020年代台北のグラフィックデザイン

○ ギャラリートーク
 開催=2025年11月8日
 出演=ゲスト: ddd.pizza + ONE.10 Society + O.OO™ + Oval graphic + Sydney Sie + Yang Qiao Ran + Elf-19 / 進行: 後藤 哲也 + 毛灼然 / 中日逐次通訳: 王怡琴 (OU DESIGN LAB)

C-GRAPHIC/TAIPEI: Taipei's Graphic Design Scene in the 2020s

○ Gallery Talk
 Date=November 8, 2025
 Speakers= Guests: ddd.pizza + ONE.10 Society + O.OO™ + Oval graphic + Sydney Sie + Yang Qiao Ran + Elf-19 / Moderators: Tetsuya Goto + Javin Mo / Interpreter: Wang Yi Chin (OU DESIGN LAB)

Featured ddd Gallery Talk: LOCAL LOCAL: We have nothing?—The Makoto Umehara Exhibition

特集: ddd「LOCAL LOCAL - ないものはない - 梅原真展」ギャラリートーク

開催=2026年1月20日

出演=梅原真(グラフィックデザイナー)

企画展開幕日に展示関係者も招き、コメントも求めつつ開催された。

はじめに日本はエコノミックスを強調しすぎ、エコノミックスは東京にあると考えた結果、ローカルの空洞化が進んだという。そこにリゾート開発が入り、ホテルやゴルフ場を作る、お金も貸すと言われて作っても7、8年で潰れる。

そこにあるものを楽しもうとして生まれたのが「砂浜美術館」。絵や写真で応募してもらいTシャツにプリントし、1週間砂浜で掲示して送付する。砂浜の向こうには鯨が居り、学校の窓からも見える。数十億円かけて美術館を作らずとも頭の中で作る美術館はタダ。こうして36年間継続。かつては燃やしていたゴミで漂流物展も行い、ポスターも制作。この美術館は入場料を取らないが運営協賛金300円を3万人が払ってくれる。このスタッフが後に海外青年協力隊に参加し、モンゴルの草原等世界19か国へTシャツ展を展開。この砂浜には、南海トラフ地震対策としてコンクリートの防潮壁建設計画が持ち上がったが、町はハードに頼らずみんなで逃げるというソフトに頼る事にし「にげる」と書かれたドライカラーの缶詰を作った。

また梅原氏がかつて住んでいた沈下橋の奥には、「第3セクター四万十ドラマ」が出来、どんな産物があるかを調査。梅原氏は売るモノはないと著名人45人へ原稿料はその鮎という手紙を送り18人から届いた原稿で『水』の本を発行販売。また、建材需要の減った檜の板にヒノキチオールを浸み込ませ、5日間ヒノキ風呂が楽しめる商品も開発。地元銀行がノベルティとして大量購入。それまでの海外の樹脂製ポットから地元産品への切り替えとなった。東京のアウトドア雑誌の付録に16万枚が採用。こうした工夫でモノを売る事例では、海外産に押され荒れ果てていた栗林から、農業不使用のケミカルフリーだとして「しまんと地栗」をデザイン。百貨店にも展開。敢えて“どんくさい”デザインが、購入者からはお高いけどたまされていない気がする」と好評を博している。沈下橋の川に流れるビニール袋のゴミを見て、地域で売るモノを入れる「しまんと新聞ばっく」も提唱、海外で行うワークショップでも好評を博している。フィールドで学び、現場で本質をつかむ場所として「しまんと分校」も開始。「ないものはない」と言っているその本質を捉える訓練になるのだと締めくくった。

Date=January 20, 2026

Speaker=Makoto Umehara (Graphic Designer)

The gallery talk was held on the opening day of the exhibition. People involved in the exhibition also attended and were invited to share their comments.

According to Makoto Umehara, Japan placed too much emphasis on the economy and viewed economic activity as being concentrated in Tokyo, which led to a hollowing out of regional areas. Resort developers came with talk of financing to build hotels and golf courses, but such projects go out of business after seven or eight years.

Sunabi Museum was created with the aim of enjoying what's available right at the beach. People submit drawings and photographs, which are then printed on t-shirts, displayed on the beach for a week, and then sent to the participants. Whales swim in the ocean close by the beach and can be seen even from school classrooms. We don't need to spend thirty billion yen to create a museum—the one we can picture in our mind's eye is free. And so it has continued for thirty-six years. We hold exhibitions of objects that have been washed up on the beach, which previously would have been burned as rubbish. And we create posters for these exhibitions. Sunabi Museum does not charge any entry fee, but thirty thousand people each contribute three hundred yen to help support the museum's operation. Staff from the museum have gone on to join the Japan Overseas Cooperation Volunteers and organized T-shirt art exhibitions in nineteen countries around the world, including on the Mongolian steppes. Although plans were proposed to build a concrete seawall on this beach as a measure against the Nankai Trough earthquake, the town decided to take a less tangible approach—encouraging everyone to evacuate together—rather than relying on physical infrastructure. As part of this approach it officially recognized an emergency food product of curried pilaf, labeled “Nigeru (Run away).”

Shimanto-Drama Co. Ltd., located beyond the low-water crossing where Makoto Umehara once lived, was established as a joint public-private sector enterprise, and set out to discover what kind of products were made in the locality. Umehara, claiming he had nothing to sell, sent letters to forty-five prominent figures asking them to write an article and offering to pay them in sweetfish caught locally. Using the articles he

received from eighteen of them, he then published and sold the book titled *Mizu* (Water). In addition, he developed a product that involves impregnating pieces of hinoki, or Japanese cypress—for which demand as a building material has declined—with hinokitiol, allowing users to enjoy a hinoki bath for five days. A local bank purchased a large quantity of these for use as promotional items. Imported plastic pots were replaced with locally produced items, and a Tokyo-based outdoor magazine used 160,000 of them as free gifts for purchasers of the magazine. In another case of innovative marketing, local chestnut groves that had been left neglected due to competition from imported products were revitalized by branding the local chestnuts as Shimanto Ziguri—a chemical-free product grown without pesticides. Today, the brand's products are even available in department stores. Shimanto Ziguri's deliberately clumsy graphic design has been well received by shoppers, who say that even though the items are pricey, they feel the product is the real thing. After noticing a plastic bag floating in the river at the low-water crossing, Umehara came up with the idea of the Shimanto Newspaper Bag—a paper bag that can be made by hand and used to hold items sold locally. This has been positively received, and workshops have even been held overseas.

The Shimanto Branch School, has also been launched as a place to learn in the field and grasp the essence of things firsthand. Umehara's talk concluded by saying that it serves as training to capture the true essence of something—which can only be achieved by embracing the “We have nothing? (something not nothing)” mindset.



Sunabi Museum "T-shirt Art Exhibition" venue scenery/2010/Photo: Hiraku Hamada



Shimanto-Drama Co., Ltd. product range



Disaster prevention canned food "Nigeru (Run away)" package/2025
(Officially recognized by Kuroshio Town, Kochi Prefecture)



Shimanto-Drama Co., Ltd. "Ziguri-kinton" package/2016



"Shimanto Newspaper Bag" & "Shimanto Branch School" exhibits using electronic tablets



Shimanto-Drama Co., Ltd. essay collection "Mizu (Water)" /1998

Podcast “graphic trip”

ポッドキャスト番組「グラフィックトリップ」

2025年4月より新たにスタートしたポッドキャスト番組。グラフィックデザインやグラフィックアート、グラフィックの文化を支える多彩なキーパーソンをゲストに招き、ゲストの仕事だけではなく知られざる個人的な活動にもフォーカスし、その人となりにも光を当てていく。現在、Spotify、Apple Podcasts、Amazon Musicにて視聴することが可能。

A new podcast series was launched in April 2025, featuring key figures from the worlds of graphic design, graphic art, and graphic culture. The focus is not only on their professional work but also on their lesser-known personal pursuits, shedding light on who they are as individuals. The podcasts are available on Spotify, Apple Podcasts and Amazon Music.



グラフィックトリップ vol.1

ゲスト：大原大次郎（グラフィックデザイナー）＋大関泰幸（映像作家、編集技師）

graphic trip vol.1

Guests: Daijiro Ohara (Graphic Designer) + Yasuyuki Ozeki (Video Director/Film Editor)



グラフィックトリップ vol.5

ゲスト：中村至男（グラフィックデザイナー）＋池田光宏（アーティスト）

graphic trip vol.5

Guests: Norio Nakamura (Graphic Designer) + Mitsuhiro Ikeda (Artist)



グラフィックトリップ vol.9

ゲスト：平山みな美（ビジュアルコミュニケーションデザイナー、環境活動家）＋中村寛（デザイン人類学者、多摩美術大学教授）

graphic trip vol.9

Guests: Minami Hirayama (Visual Communication Designer/Environmental Activist) + Yutaka Nakamura (Design Anthropologist/Professor, Tama Art University)



Spotify



Apple Podcasts



Amazon Music



グラフィックトリップ vol.2

ゲスト：小玉文（アートディレクター、グラフィックデザイナー）＋宮後優子（編集者）

graphic trip vol.2

Guests: Aya Codama (Art Director/Graphic Designer) + Yuko Miyago (Editor)



グラフィックトリップ vol.3

ゲスト：吉田勝信（採集者、デザイナー、プリンター）＋綾女欣伸（編集者）

graphic trip vol.3

Guests: Katsunobu Yoshida (Forager/Designer/Printer) + Yoshinobu Ayame (Editor)



グラフィックトリップ vol.4

ゲスト：金井あき＋佐々木拓（コクヨ YOHAK_DESIGN STUDIO、KANAIASAKI）＋西山萌（編集者）

graphic trip vol.4

Guests: Aki Kanai + Taku Sasaki (YOHAK DESIGN STUDIO from KOKUYO CO.,LTD. /KANAIASAKI) + Moe Nishiyama (Editor)



グラフィックトリップ vol.6

ゲスト：高田裕美（書体デザイナー）＋雪朱里（著述家）

graphic trip vol.6

Guests: Yumi Takata (Type Designer) + Akari Yuki (Published Author & Freelance Writer)



グラフィックトリップ vol.7

ゲスト：岡崎智弘（グラフィックデザイナー）＋宮後優子（編集者）

graphic trip vol.7

Guests: Tomohiro Okazaki (Graphic Designer) + Yuko Miyago (Editor)



グラフィックトリップ vol.8

ゲスト：徐慧（造形博士）＋迫村裕子（文化プロデューサー、S2株式会社代表）

graphic trip vol.8

Guests: Seo Hye (PhD in Art and Design) + Hiroko Sakomura (Producer, International Exhibitions and Cultural Programs/Representative Director, S2 Corporation)



グラフィックトリップ vol.10

ゲスト：朱心茹（東京科学大学准教授）＋伊藤亜紗（東京科学大学教授、美学者）

graphic trip vol.10

Guests: Xinru Zhu (Associate Professor, Institute of Science Tokyo) + Asa Ito (Professor, Institute of Science Tokyo/Aesthetician)



グラフィックトリップ vol.11

ゲスト：加瀬透（グラフィックデザイナー）＋本田千尋（アーティスト、グラフィックデザイナー）＋見増勇介（グラフィックデザイナー）

graphic trip vol.11

Guests: Toru Kase (Graphic Designer) + Chihiro Honda (Artist/Graphic Designer) + Yūsuke Mimasu (Graphic Designer)



グラフィックトリップ vol.12

ゲスト：木龍歩美（書体デザイナー）＋雪朱里（著述家）

graphic trip vol.12

Guests: Ayumi Kiryu (Type Designer) + Akari Yuki (Published Author & Freelance Writer)

Design Workshop for Parents and Children

親子向けデザインワークショップ

グラフィックデザインを「問題解決の力」として、親子で社会課題を考えるためのワークショップ

A workshop where parents and children explore social issues together, using graphic design as a means of problem-solving.

本で伝えるプロジェクト

夏休み・本づくりワークショップ Vol.1

親子でつくろう！たったひとつの“動物図鑑”

開催＝2025年7月26日（京都会場）

2025年8月2日（東京会場）

講師＝高木穂子（同志社女子大学教授）

「グラフィックデザインは問題解決の手段になる」という考えのもと、本づくりを通して社会問題を考え、創造の場を提供するワークショップを京都および東京で開催した。ワークショップの参加対象は小学生の子どもとその保護者へひらき、表現する楽しさに出会う機会を次世代へ届けることを目的とし、親子参加型として実施することで、家族が対話し刺激し合いながら制作に取り組み、表現力と学びを共に育む場を創出することを目指した。

講師には高木穂子氏を迎え、絶滅の危機にある動物たちをテーマに、人間と動物の関係や、今私たちに何ができるのかを参加者自身の感覚と発想から伝える内容で実施した。前半は教育用ゲームソフトで制作したオリジナルのスライドを用い、クイズ形式で楽しみながら動物や環境問題への理解を深め、参加者からは自然と会話が生まれた。後半はコラージュ技法を主としたオリジナルブック制作に取り組み、子どもも保護者も創意工夫を凝らした多様な作品を完成させた。

東京会場では参加者が気になった本を選び、作者が発表するリレー形式で進行し、互いの考えに触れながら学びを共有する和やかな時間となった。両会場とも、楽しさの中でテーマへの理解を深め、笑顔あふれるワークショップとなった。

The “Communicating Through Books” Project
Summer Bookmaking Workshop Vol.1
Creating a Unique Animal Book Together

Dates＝Kyoto: July 26, 2025

Tokyo: August 2, 2025

Instructor＝Mariko Takagi (Professor, Doshisha Women's College of Liberal Arts)

Based on the potential of graphic design for problem-solving, workshops in Kyoto and Tokyo explored social issues through the process of bookmaking, while providing a space for creative expression. These workshops were open to elementary school children and their parents, with the aim of offering the next generation an opportunity to experience the joy of self-expression. By adopting a parent-child format, the program sought to create an environment in which families could engage in dialogue, inspire one another, and work collaboratively, fostering their expressive skills and learning together.

Instructor Mariko Takagi focused on animals at risk of extinction, encouraging participants to consider the relationship between humans and animals and to reflect, through their own sensibilities and ideas, on what actions can be taken today. In the first half of the program, original slides created using educational game software were used to deepen understanding of animals and environmental issues through an enjoyable quiz-based format, which naturally prompted conversation among participants. In the second half, participants worked on creating original books, primarily using collage techniques, resulting in a wide variety of inventive and expressive works produced by both chil-

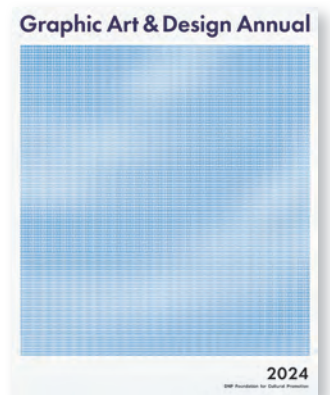
dren and their parents.

At the Tokyo venue, participants selected books that particularly interested them, and the session proceeded in a relay-style format in which each creator presented their work. This approach fostered a relaxed and welcoming atmosphere in which participants could share their perspectives and learn from one another. At both venues, the workshops deepened understanding of the theme through enjoyment, becoming lively sessions filled with smiles.



Publications 2025-26

出版活動



■ Graphic Art & Design Annual 2024



- ggg Books 141 田部井美奈
- ggg Books 142 中村至男
- ggg Books 143 ヤン・レニツァ
- デザインの両面 vol.5 鈴木哲生
- デザインの両面 vol.6 田部井美奈
- デザインの両面 vol.7 中村至男
- DNP文化振興財団 学術研究助成紀要 Vol.7

- ggg Books 141 Mina Tabei
- ggg Books 142 Norio Nakamura
- ggg Books 143 Jan Lenica
- Both Sides of Design vol.5 Tezzo Suzuki
- Both Sides of Design vol.6 Mina Tabei
- Both Sides of Design vol.7 Norio Nakamura
- The Bulletin of Graphic Culture Research Grant, Vol.7



アーカイブ事業

Archiving

Donation of Eiko Ishioka posters and exhibition cooperation

石岡瑛子ポスター寄贈と展覧会協力

本年度は、石岡瑛子氏のポスターについて、国内外の美術館への寄贈を複数実施した。まず、ポーランドのボズナン国立美術館ポスター&グラフィックデザインギャラリー部門に、石岡氏のポスター84点を寄贈した。同部門は4万点を超える作品を所蔵し、ポーランドにおける最重要級のグラフィックデザイン・コレクションの一つとして知られている。本寄贈により、同館のポスター・コレクションに日本人女性のグラフィックデザインも加わり、国際的な研究・展示活動への貢献としても意義深い。寄贈作品は、石岡氏の多様な仕事の中でも、主にバルコの広告ポスターを中心とする作品群であり、そのうち13点は、同館分館で開催された展覧会「ファッション・オン・ペーパー」において展示された。同展では、ポーランドおよび日本のファッションに関するポスターが紹介され、早川良雄、田中一光、浅葉克己各氏による日本のグラフィックデザイン作品も、同館コレクションから併せて展示された。

また、富山県美術館へは、巡回展「石岡瑛子 I デザイン」終了後、出品されたポスターのうち151点を寄贈した。同展は、北九州市立美術館を皮切りに、茨城県近代美術館、兵庫県立美術館、島根県立石見美術館を巡回し、富山にて閉幕したものである。作品に加え、制作プロセス資料や本人の言葉を通して石岡氏の思想にも迫る構成は、各会場で高い評価を得た。巡回展の成果を恒常的なコレクションとして継承することで、今後も継続的に石岡瑛子氏の仕事に触れる機会を提供することが可能となった。

これらの展示を契機とした寄贈を通じ、作品の保存・公開・研究という美術館本来の機能を支援するとともに、石岡氏、ひいては日本のグラフィックデザインの業績を次世代へと伝える基盤を整える一年となった。

ファッション・オン・ペーパー

会 期：2025年11月7日―2026年2月1日

主 催：ボズナン国立美術館

石岡瑛子 I デザイン

会 期：2025年4月19日―6月29日

主 催：富山県、石岡瑛子展実行委員会（富山県美術館、北日本新聞社）

特別協力：公益財団法人DNP文化振興財団、

株式会社DNPアートコミュニケーションズ

企画協力：迫村裕子（S2株式会社）

監 修：Team EIKO（石岡怜子、河尻亨一、永井裕明 [N.G. inc.]）

入 場 者：5会場総計約54,000人

In fiscal 2025, the foundation made donations of Eiko Ishioka posters to art museums in Japan and overseas. First, eighty-four posters were donated to the Gallery of Poster and Graphic Design at the National Museum in Poznań, Poland. The gallery has a collection of over forty thousand works and is recognized as one of Poland's most significant graphic design collections. This donation represented the first graphic designs by a female Japanese artist in the poster collection, making a significant contribution to international research and exhibition activities at the gallery. Selected from Ishioka's diverse body of work, the donated works consist primarily of advertising posters for Parco. Thirteen of these were exhibited at the *Fashion on Paper* exhibition held in a building attached to the main museum. The exhibition featured posters related to fashion in Poland and Japan, with graphic design works by Yoshio Hayakawa, Ikko Tanaka, and Katsumi Asaba from the museum's collection also on display. Following the conclusion of the traveling exhibition *Eiko Ishioka: I Design*, 151 of the posters displayed in the exhibition were donated to the Toyama Prefectural Museum of Art and Design. The exhibition opened at the Kitakyushu Municipal Museum of Art and then traveled to the Museum of Modern Art, Ibaraki, the Hyogo Prefectural Museum of Art, and the Iwami Art Museum in Shimane, before drawing to a close in Toyama. The exhibition's structure, which explored Ishioka's artistic philosophy through her works, production process materials, and her own words, was highly acclaimed at each venue. Incorporating the achievements of the traveling exhibition into the permanent collection at Toyama offers opportunities to continue engagement with Eiko Ishioka's work.

Through the donations prompted by these exhibitions, fiscal 2025 served to support the core art museum functions of preserving, exhibiting, and researching artworks, while also laying the groundwork for passing on the legacy of Ishioka—and, by extension, Japanese graphic design—to future generations.

Fashion on Paper

Dates: November 7, 2025 – February 1, 2026

Organizer: National Museum in Poznań

Eiko Ishioka I Design

Dates: April 19 – June 29, 2025

Organizer: Toyama Prefectural, Eiko Ishioka Exhibition Executive Committee (Toyama Prefectural Museum of Art and Design, THE KITANIPPON SHIMBUN)

Special Cooperation: DNP Foundation for Cultural Promotion,
DNP Art Communications Co., Ltd.

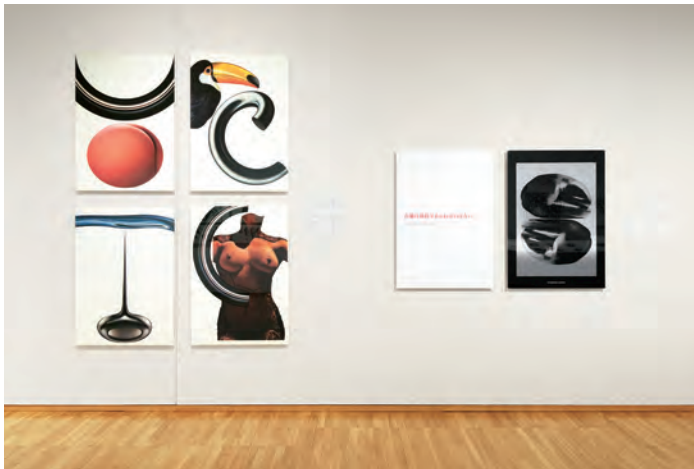
Planning Cooperation: Hiroko Sakomura (S2 Corporation)

Supervision: Team EIKO (Ryoko Ishioka, Koichi Kawajiri, Hiroaki Nagai [N.G. inc.])

Number of visitors: approximately 54,000 in total across five venues



Photograph: Sonia Bober / National Museum in Poznań



Toyama Prefectural Museum of Art and Design

Poster Archives 2025-26

Yoshio Hasegawa Poster Collection

長谷川好男 ポスターコレクション

本年度、アートディレクター・グラフィックデザイナーの長谷川好男氏より、ポスター 59 点の寄贈を受けた。寄贈作品は、1970 年代から 80 年代にかけて長谷川氏が制作した、パルコ、サントリー、味の素ゼナラルフーズ（マキシム）、日本国有鉄道などの広告ポスターで構成されている。高度経済成長期を経て消費社会へと移行する当時の日本の社会状況を背景に、多様なクリエイターが関わった広告表現の創造性を伝える貴重な資料群である。なかでも 1974 年の国鉄のサマー・キャンペーンのポスターは、ADC 最高賞を受賞している。これらの作品は、長谷川氏の功績を後世へと引き継いでいくとともに、戦後日本のグラフィックデザイン史および広告文化を考察するうえでも重要な位置を占めるものである。今後は収蔵資料として適切に管理するとともに、展覧会や調査研究などへの活用を図っていく。

In fiscal 2025, the foundation received a donation of fifty-nine posters from art director and graphic designer Yoshio Hasegawa. The donation consists of advertising posters created by Hasegawa between the 1970s and 1980s for companies such as Parco, Suntory, Ajinomoto General Foods (Maxim), and the Japanese National Railways. Against the backdrop of Japan's social landscape as the country transitioned from rapid economic growth to a consumer society, this collection serves as a valuable record of the diverse creativity in advertising produced during this period. Of particular note is the poster for the 1974 JNR Summer Campaign which won the ADC Grand Prize. These works not only preserve Hasegawa's legacy for future generations but also occupy a significant position when considering the history of postwar Japanese graphic design and advertising culture. We are honored to have them as part of our collection and will seek to utilize them in exhibitions, research, and other initiatives.



1974



1974



1979



1982



1985

DNP Graphic Design Archives

DNPグラフィックデザイン・アーカイブ

◆ポスターアーカイブ(2026年3月現在)

- ① 収蔵作家：247名(国内作家127名、海外作家120名)
- ② 総点数：25,297点(すべてのアーカイブを含む)
- ③ 2025年4月～2026年3月の受入れ状況：

<日本>	
・長谷川 好男	59点
<海外>	
・デンマーク・ポスター・ミュージアム展覧会ポスター	110点
計	169点

◆アーカイブ作品貸出

- ① 株式会社福寿園(アートスペース福寿園)
「お茶と万博」
2025年9月25日～10月12日
作家6名の作品 9点
- ② 渋谷区立松濤美術館
「井上有一の書と戦後グラフィックデザイン1970s-1980s」
2025年9月6日～11月3日
田中一光作品 6点、浅葉克己作品 5点
- ③ 島根県立石見美術館
「生誕100年 森英恵 ヴァイタル・タイプ」
2025年9月20日～12月1日
田中一光作品 7点、田中一光アーカイブ所蔵資料 24点
- ④ ボローニャ市立考古学博物館(イタリア)
「グラフィック・ジャパン：北斎からマンガまで」
2025年11月20日～2026年4月6日
作家19名の作品 61点
- ⑤ デザインミュージアム・デンマーク
「ジャパン・モダン・ポスター」
2026年2月6日～8月9日
作家48名の作品 110点

◆アーカイブ作品寄贈

- ① 富山県美術館
2025年11月
石岡瑛子ポスター 151点
- ② シネマテーク・フランセーズ(フランス)
2026年1月
石岡瑛子ポスター 34点

◆Poster Archives (as of March 2026)

- ① Artists represented: 247
(127 domestic, 120 from overseas)
- ② Items in collection: 25,297 (including all archives)
- ③ Items received between April 2025 and March 2026

< Japan >	
・ Yoshio Hasegawa	59
< Overseas >	
・ Danish Poster Museum exhibition posters	110
Total	169

◆Loans of Archived Works

- ① Japanese Tea and the World Expositions
Special event at Fukujuen Co., Ltd.
(Art Space Fukujuen)
September 25 – October 12, 2025
9 works by 6 designers
- ② INOUE Yu-ichi's Calligraphy and Postwar Graphic Design in 1970s-1980s
Exhibition at the Shoto Museum of Art
September 6 – November 3, 2025
6 Ikko Tanaka works and 5 Katsumi Asaba works
- ③ HANAE MORI Vital Type:
The 100th Anniversary of Birth
Exhibition at the Iwami Art Museum
September 20 – December 1, 2025
7 Ikko Tanaka works and 24 items from the Ikko Tanaka Archive
- ④ Graphic Japan. From Hokusai to Manga
Exhibition at the Museo Civico Archeologico Bologna, Italy
November 20, 2025 – April 6, 2026
61 works by 19 designers
- ⑤ Japan Modern Poster
Exhibition at Designmuseum Danmark
February 6 – August 9, 2026
110 works by 48 designers

◆Donations to the Archives

- ① Toyama Prefectural Museum of Art and Design
November 2025
151 Eiko Ishioka posters
- ② Cinémathèque française (France)
January 2026
34 Eiko Ishioka posters

国際交流事業

International Exchange

Support of Tadanori Yokoo – Poster Art: Original Posters from 1965 – 2025 Center for Visual Arts Berlin, Germany

November 29, 2025 – April 30, 2026

協力：横尾忠則ーポスターアート：1965–2025 Center for Visual Arts Berlin (ドイツ)

アジアのデザインや芸術の普及を目的に設立された Center for Visual Arts Berlin (CVAB、ドイツ) にて「Yokoo Tadanori – Poster Art」が開催され、展示作品200点以上の出展協力を行った。オープニングレセプションでは、塚田美紀氏(世田谷美術館 学芸員)と元財団職員の北沢永志氏がスピーチを行った。本展には、ベルリン芸術大学、ワルシャワ美術アカデミーをはじめ欧州各国の美術大学の学生やデザイナーが多数来場したほか、ベルリン国際映画祭期間中には映画関係者の来場も見られた。1950年代の初期作品から現在までの作品を幅広く紹介した本展は好評を博し、当初3月1日までの予定から4月30日まで会期が延長された。また、展覧会にあわせて横尾忠則のポスター全作品を収録した書籍『The Complete Posters of Tadanori Yokoo from 1953 to Today』も hesign から刊行された。

主 催：Center for Visual Arts Berlin (CVAB)

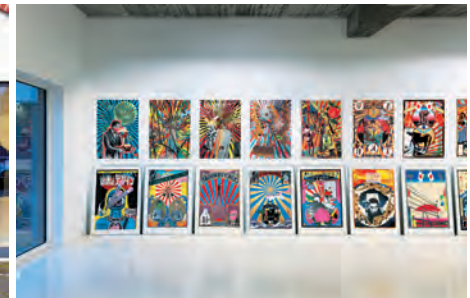
協 力：公益財団法人DNP文化振興財団
株式会社ヨコオズ・サーカス

The exhibition *Tadanori Yokoo – Poster Art: Original Posters from 1965 - 2025* was held at the Center for Visual Arts Berlin (CVAB, Germany), an organization established to promote Asian design and art. We cooperated by providing over two hundred works for the exhibition. Setagaya Art Museum curator Miki Tsukada and former foundation member Eishi Kitazawa both gave speeches at the opening reception. In addition to a large number of designers and students from the Berlin University of the Arts, the Academy of Fine Arts in Warsaw, and other art universities across Europe, the exhibition attracted people attending the Berlin International Film Festival, which took place during the exhibition period. The exhibition featured a wide range of works spanning from the artist's early pieces in the 1950s to the present, and was so well received that its duration was extended from March 1 to April 30.

In conjunction with the exhibition, hesign published *The Complete Posters of Tadanori Yokoo from 1953 to Today*, a book featuring all of Tadanori Yokoo's posters.

Organizer: The Center for Visual Arts Berlin (CVAB)

Cooperation: DNP Foundation for Cultural Promotion,
Yokoo's Circus



Copyright by hesign - Photos by He Bo

Tour: Iconic Food: Seventy Years of Food Posters in Japan The Japan Cultural Institute in Rome

November 17, 2025 – February 13, 2026

巡回：食のアイコン：日本のフードポスター 70年 国際交流基金ローマ日本文化会館（イタリア）

2025年11月から2026年2月まで、国際交流基金ローマ日本文化会館にて「食のグラフィックデザイン」展の巡回展が開催された。本展は、2020年にCCGA現代グラフィックアートセンターおよび京都dddギャラリーで開催された展覧会をもとにした巡回展で、2023年のケルン日本文化会館、ベルリンのCenter for Visual Arts Berlin (CVAB) に続く海外では3館目の開催。1950年代から現在までの作品50点を展示。学校授業の一環として来場する学生の姿も多く見られた。

主催：国際交流基金ローマ日本文化会館
協力：公益財団法人DNP文化振興財団
入場者数：11,284名

From November 2025 to February 2026, a traveling exhibition organized by the Japan Foundation and titled *Graphic Design of Food*, was shown at the Japan Cultural Institute in Rome. It was based on the show held in 2020 at the Center for Contemporary Graphic Art (CCGA) and Kyoto ddd gallery. This Rome venue was the third in the exhibition's

international tour, following the Japanese Cultural Institute in Cologne and the Center for Visual Arts Berlin (CVAB) in 2023. The exhibition features fifty works spanning from the 1950s to the present. Many students were seen visiting the exhibition as part of their school activities.

Organizer: The Japan Cultural Institute in Rome
Cooperation: DNP Foundation for Cultural Promotion
Number of visitors: 11,284



Support of Graphic Japan. From Hokusai to Manga Museo Civico Archeologico Bologna, Italy

November 20, 2025 – April 6, 2026

協力：グラフィック・ジャパン：北斎からマンガまで ボローニャ市立考古学博物館（イタリア）

ミラノ大学のロッセッラ・メネガッツォ教授およびエレオノラ・ランツァ博士のキュレーションによる本展に、当財団のポスターコレクションより61点を貸出協力した。本展は、江戸時代の浮世絵版画から現代のマンガやポスターまで、日本の視覚文化に徹底する表現の連続性を紹介するもので、「自然」「人物」「書と文字」「現代ジャポニズム」の4章構成のもと、版画、挿絵本、ポスター、型紙、工芸品など200点以上が展示された。

主催：モンド・モストレ
キュレーション：ロッセッラ・メネガッツォ、エレオノラ・ランツァ
後援：エミリア＝ロマーニャ州、在ミラノ日本国総領事館
協力：公益財団法人DNP文化振興財団

A total of 61 items were loaned from the foundation's poster collection for this exhibition, curated by Professor Rossella Menegazzo and Dr. Eleonora Lanza of the University of Milan. It explored the continuity of expression that underlies Japanese visual culture, ranging from Edo period ukiyo-e woodblock

prints to contemporary manga and posters. Organized into four sections—Motifs of Nature, Face and Masks, Calligraphy and Typography, and Contemporary Japanism—it featured over two hundred works, including woodblock prints, illustrated books, posters, stencils, and craftwork.

Organizer: MondoMostre
Curation: Rossella Menegazzo, Eleonora Lanza
Support: Emilia-Romagna Region,
Consulate General of Japan in Milan
Cooperation: DNP Foundation for Cultural Promotion

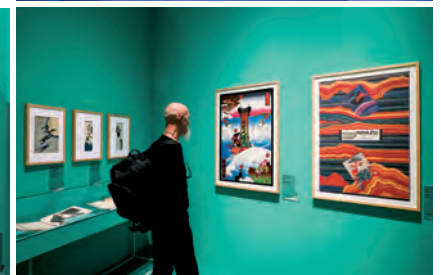
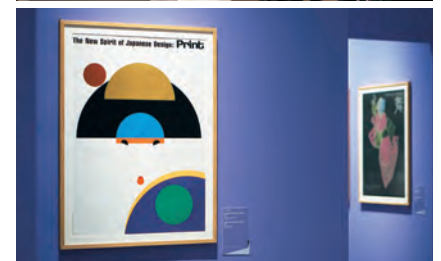


Photo by Seli Yuki

Participation in The Design Showcase Warsaw 2025

October 23 – 26, 2025

参加：デザインショウケース・ワルシャワ 2025（ポーランド）

ポーランド・グラフィックデザイン財団の招待により、ワルシャワの文化施設、デザインおよび建築関連の拠点を巡る視察ツアーに参加した。本イベントには、日本、韓国、台湾、インドネシアの4カ国からの招待者に加え、ポーランド側の関係者を含む30名が参加し、各国のデザイン関係者との交流を交えながら実施された。7カ国と国境を接するポーランドは、歴史的に度重なる領土争いや政治的変動を経験してきた国であるが、今回の視察を通じて、そうした過去と真摯に向き合いながら、自国の文化的アイデンティティを大切に、より良い未来に向けて創造的な実践を重ねていく姿勢を随所に感じ取ることができた。ポーランドのクリエイティブに携わる方々との交流も広がり、今後の協働企画への展開が期待される、たいへん貴重な機会となった。

主宰者：ポーランド・グラフィックデザイン財団
レネ・ヴァウジキエヴィチ

主な訪問先：

美術館・ギャラリー（ワルシャワ国立博物館、ネオン美術館、他5カ所）、建築・デザイン事務所（5カ所）、教育機関（ワルシャワ美術アカデミー）、その他（ヤズドゥ集落、他）

At the invitation of the Polish Graphic Design Foundation, we participated in a study tour of cultural facilities and design and architecture-related sites in Warsaw. Participants invited from Japan, South Korea, Taiwan, and Indonesia were joined by people involved in design from Poland to make a tour group of 30 people, providing opportunities for interaction with design professionals from each country. Poland, which shares borders with seven countries, has experienced many territorial disputes and political upheavals during its history. However, during this visit, at every turn, we could sense a commitment to sincerely confronting that past, cherishing Poland's cultural identity, and engaging in creative initiatives aimed at building a better future. This was a highly valuable opportunity that expanded our network with creative professionals in Poland and inspired us to anticipate further collaborative projects.

Organizer: Rene Wawrzkiwicz,
Polish Graphic Design Foundation

Main destinations:

Art museums and galleries (National Museum in Warsaw, Neon Museum, and five other locations), architecture and design firms (five locations), educational institution (Academy of Fine Arts in Warsaw), others (Jazdów Housing Estate, etc.)



Photograph: Patryk Wisniewski @panpatryk

Co-organizer of Japan Modern Poster Designmuseum Danmark

February 6 – August 9, 2026

共催:「ジャパン・モダン・ポスター」展 デザインミュージアム・デンマーク

コペンハーゲンに建つ、デンマークを代表するデザイン専門美術館、Designmuseum Danmark (デザインミュージアム・デンマーク) との共催により、「Japan Modern Poster」展を開催。当財団にて、展示企画から構成、作品選定に至るまで総合的に本展の企画監修を行った。戦後のパイオニア世代から現代に至るポスター表現を5つの章立てに分け、傑作ポスターをとおして、日本のグラフィックデザイン約70年の軌跡を追える構成とした。展示作品は、DNPグラフィックデザイン・アーカイブより、ポスター110点(作家48名)を選出し、貸出を行った。展覧会告知ポスターは、出品作家の一人である、松永真氏がデザインを担った。日本のグラフィックデザインの大きな流れを、ポスターを通して体系的に紹介する企画展は同美術館では初の試みとなり、当財団にとってもデンマークでの初の企画展実現となった。

主催: デザインミュージアム・デンマーク

共催: 公益財団法人DNP文化振興財団

In collaboration with Designmuseum Danmark, Denmark's leading museum dedicated to design, we organized the *JAPAN MODERN POSTER* exhibition at the museum in Copenhagen. The DNP Foundation for Cultural Promotion served as the overall supervisor of the exhibition, overseeing every aspect from the initial concept and layout to the selection of works. The exhibition was organized into five chapters, tracing the trajectory of Japanese graphic design over approximately 70 years—from the postwar pioneer generation to the present day—through a collection of posters recognized as masterpieces. We selected 110 posters by 48 artists from the DNP Graphic Design Archive and loaned them to the museum for the exhibition. Shin Matsunaga, one of the participating artists, designed the exhibition poster. This special exhibition, which systematically introduces the major trends in Japanese graphic design through posters, marks the museum's first such initiative and also our foundation's first exhibition in Denmark.

Organizer: Designmuseum Danmark

Co-organizer: DNP Foundation for Cultural Promotion

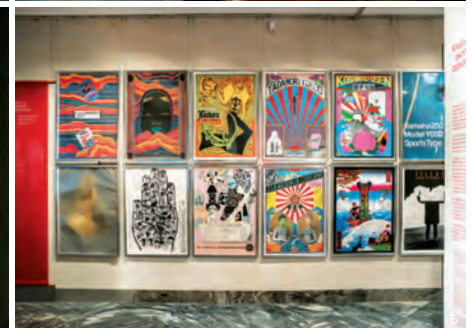


Photo 1: Pernille Klemp Photo 2-5: Andrea Sonne

研究助成事業

Research Grant

Graphic Culture Research Grant

グラフィック文化に関する学術研究助成

2025年度、DNP文化振興財団グラフィック文化に関する学術研究助成は、前年度を大きく上回、国内72件、海外15件、計87件の応募を受け付けた。審査は例年どおり、書類による一次審査と審査委員の対面による二次審査の二段階でござい、討議の結果、グラフィックに関わる幅広いテーマを対象とするA部門で8件、アーカイブをテーマとするB部門で4件、計12件を新規採択研究に選出した。また、2024年度採択研究のうち継続助成希望のあった6件については、中間報告書にもとづく書類審査の結果、継続助成が承認された。

2025年度募集要項

A部門	グラフィックデザイン、グラフィックアート全般をテーマとする学術研究
B部門	グラフィック文化に関するアーカイブをテーマとする研究
助成対象	大学、美術館等の研究機関に所属する研究者（大学院修士課程在籍者以上）、または、それに準じる研究実績のある者（大学教授または美術館館長の推薦のある者）
助成金額	1件につき上限50万円
助成期間	2026年1月1日～2026年12月31日まで（1回を限度に次年度に継続研究が可）
申請方法	当財団の申請システムを利用し、インターネットから所定様式の申請書を提出
申請期間	2025年4月1日～2025年6月16日まで

In 2025, there was a large increase in applications for the DNP Foundation for Cultural Promotion's research grant, with a total of eighty-seven applications including fifteen from overseas. As in previous years, the screening took place in two stages: an initial review of the application documents, followed by interviews by the Screening Committee. After discussion, a total of twelve new research projects were selected for funding: eight in Category A (Research on graphic design or graphic art in general) and four in Category B (Research on graphic culture-related archives). In addition, six projects selected in 2024 were approved for continued support after evaluation of the grantees' interim reports.

Overview of the 2025 Grant Program

Category A	Research on graphic design or graphic art in general
Category B	Research on graphic culture-related archives
Eligibility	Scholars affiliated with research institutions (universities, art museums, etc.) or individuals having corresponding research credentials
Grant amount	Maximum 500,000 yen (per year)
Grant period	January 1, 2026 to December 31, 2026 (The grant is initially awarded for one year. Extension for a second year may be possible.)
Application method	Submit the prescribed application form via our online application system.
Application period	April 1 to June 16, 2025



応募件数

	国内	海外	計
A部門	56	12	68
B部門	16	3	19
計	72	15	87

Number of Applications

	Japan	Overseas	Total
Category A	56	12	68
Category B	16	3	19
Total	72	15	87

2025年度 採択研究(12件)

部門	テーマ	代表研究者	所属・職名	助成額
A	「空間から環境へ」展(1966)と「モザイク」(1967)におけるグラフィックデザイナーの実践について	鯉沼 晴悠	京都工芸繊維大学大学院 博士後期課程／金沢工業大学 五十嵐威暢アーカイブ 学芸スタッフ	500,000円
A	1900-1930年代の日本と西洋におけるテキスタイルデザインと絵画との交錯	横山 由季子	東京国立近代美術館 研究員	500,000円
A	東松照明による映像フィルム《ヒコーク》(1960年)に関する調査研究	荒木 智子	東京藝術大学 教育研究助手	500,000円
A	岡田紅陽の北海道景勝地写真群に関する研究	田中 祐未	北海道博物館 学芸員	500,000円
A	石版画家・波々伯部金洲に関する調査研究	蔵田 愛子	大阪大学 大学院人文学研究科 芸術学専攻 助教	500,000円
A	日本近代絵本のグラフィック的特質と韓国初期絵本への影響 —明治から昭和前期までの印刷技術および文化の融合過程を中心に—	坂部 仁美	弘益大(韓国) 准教授	500,000円
A	近代日本の本草博物学と美術工芸 —博物学者田中芳男の輸出工芸図案をめぐって—	阿部 大地	佐賀県立図書館 主査(学芸員)	500,000円
A	ベン・シャーンとジョージ・ナカシマ: 「第1回ジョージ・ナカシマ展」出品のベン・シャーン版画作品の調査研究	濱田 洋亮	福島県立美術館 学芸員	500,000円
B	朝倉摂が描いた新聞小説挿絵に関するアーカイブ構築とその分析	児島 薫	実践女子大学 教授	500,000円
B	ファッション写真と人権意識 —視覚表象から読み解く社会の変容	村上 由鶴	秋田公立美術大学 助教	400,000円
B	土門拳の旧蔵資料および作品掲載誌に関するアーカイブ構築	田中 耕太郎	土門拳写真美術館 学芸員	500,000円
B	希少雑誌『廣告界』(1926－1941年)全冊・全頁の 基礎的デジタルアーカイブの構築	竹内 幸絵	同志社大学 社会学部メディア学科 教授	500,000円

2025 Research Topics

Cat.	Research Topic	Applicant	Affiliated Institution	Grant (JPY)
A	A Study on the Practices by Graphic Designers in "From Space to Environment" (1966) and "Mosaic" (1967)	Haruhisa KOINUMA	Kyoto Institute of Technology / Igarashi Takenobu Archive, Kanazawa Institute of Technology	500,000
A	The Intersection of Textile Design and Painting in Japan and the West, 1900s-1930s	Yukiko YOKOYAMA	The National Museum of Modern Art, Tokyo	500,000
A	Research on the film, Hikouki (Airplane) by Shomei Tomatsu	Tomoko ARAKI	Tokyo University of the Arts	500,000
A	Study on Okada Koyo's Photographic Works of Scenic Locations in Hokkaido	Yumi TANAKA	Hokkaido Museum	500,000
A	Research on the lithographer Hookabe Kinshu	Aiko KURATA	Division of Arts Studies, Graduate School of Humanities, the University of Osaka	500,000
A	Graphic Characteristics of Modern Japanese Picture Books and Their Influence on Early Korean Picture Books: Focusing on the Fusion of Printing Technology and Culture from the Meiji Era to the Early Showa Period	Hitomi SAKABE	Hongik University	500,000
A	Arts, Crafts, and Natural History in the Modern Period in Japan: Research on the Patterns for Export Handicrafts Created by Yoshio Tanaka.	Daichi ABE	Saga Prefectural Library	500,000
A	Ben Shahn and George Nakashima: Research Study about Ben Shahn's Prints in "George Nakashima Exhibition-Japan, 1968"	Yosuke HAMADA	Fukushima Prefectural Museum of Art	500,000
B	Archiving and Analysis of Newspaper Novel Illustrations by Asakura Setsu	Kaoru KOJIMA	Jissen Women's University	500,000
B	Fashion Photography and Human Rights Awareness: Tracing Social Transformation through Visual Representation	Yuzu MURAKAMI	Akita University of Art	400,000
B	Building an Archive of Ken Domon's Former Collection and Publications	Kotaro TANAKA	Ken Domon Museum of Photography	500,000
B	Construction of a basic archive of all issues and pages of the magazine "Koukokukai (Advertising World)" (1926-1941)	Yukie TAKEUCHI	Doshisha University, Department of Media, Journalism and Communications, Faculty of Social Studies	500,000

2024年度 採択研究継続助成 (6件)

部門	テーマ	代表研究者	所属・職名	助成額
A	1960年代から1980年代のコンセプチュアル・アーティストが制作したアーティスト・ブックの動向研究	長島 聡子	大邱大学校 助教授	400,000円
A	エリザベス・トマリンにみるレジリエンスの表象： グラフィックデザインからアートセラピーへの領域横断的实践	菅 靖子	津田塾大学 教授	500,000円
A	ゲーテ『光学論考』(1791年)におけるグラフィック教材を用いた 色彩学習の構想と再現	山根 千明	慶應義塾大学 グローバルサーチインスティテュート 共同研究員	500,000円
A	1966年から1972年にかけての矢頭保写真集の視覚的・文字的分析	ムニョス シレス ガストン フアン アリウエン	早稲田大学 大学院 国際コミュニケーション研究科 博士課程	370,000円
A	富山妙子『ハルビン・21世紀へのレクイエム』(1995)に描かれた 戦争、トラウマ、祈り	清水 冴	インディペンデント・キュレーター	500,000円
B	点字制定以前における視覚障害者用文字に関する資料の調査： 電子化とデータベース作成による公開の試み	飯塚 希世	お茶の水女子大学 図書・情報課 事務補佐員	500,000円

2025 Continuation Grant (2024 Research Topics)

Cat.	Research Topic	Applicant	Affiliated Institution	Grant (JPY)
A	A Study on "Artists' Books" Created by Conceptual Artists in the 1960s to 1970s	Satoko NAGASHIMA	Daegu University	400,000
A	Representations of Resilience in Elizabeth Tomalin: Her Interdisciplinary activities from Graphic Design to Art Therapy Practice	Yasuko SUGA	Tsuda University	500,000
A	Goethe's colour education with graphic teaching material: A replication study of Beytraege zur Optik (1791)	Chiaki YAMANE-SAIHOJI	Keio University Global Research Institute	500,000
A	Visual and Textual Analysis of the Photobooks of 矢頭 保 [YATO Tamotsu], 1966-1972	Gaston Juan Aliwen MUNOZ JILES	Graduate School of International Culture and Communication Studies Waseda University	370,000
A	The war, trauma, and prayer in Taeko Tomiyama's Harbin: Requiem for the 21th Century (1995)	Sae SHIMIZU	Independent Curator	500,000
B	Study of historical documents on tactile characters for the blind before the existence of Japanese Braille: exploring optimal methods for digitalization and database creation	Kiyo IIZUKA	Ochanomizu University Library	500,000

DNP文化振興財団学術研究助成紀要

『DNP文化振興財団学術研究助成紀要 Vol.7』には、2024年末までに助成期間満了を迎えた10名による成果論文を収録した。あわせて巻末特集として、2020年ザグレブICDHS会議で発表されたDr. Jonathan Woodham (ブライトン大学) の論文を、日英バイリンガルで掲載している。紀要は、国会図書館をはじめ、大学図書館、美術館、研究所など各所関連機関へ献本した。

The Bulletin of Graphic Culture Research Grant

Volume 7 of *The Research of Graphic Culture Research Grant* included reports on results obtained by ten recipients whose grant period finished by the end of 2024. At the end of the volume, there is a bilingual (Japanese-English) version of the paper presented by Dr. Jonathan Woodham (University of Brighton) at the 2020 ICDHS Conference in Zagreb, Croatia. Copies of the new Bulletin were donated to the National Diet Library and numerous university libraries, art museums, research institutes, etc.

Research Results Presentations and Exchange Session

研究成果報告会および交流会

2024年末に助成期間満了を迎えた採択者を対象に、2025年12月13日(土)、DNP銀座ビルにて成果報告会と交流会を行った。成果報告会では、対象者を代表して以下の5名の成果発表があった。

- ・ 高野詩織
ジャン=エミール・ラブルールと「独立版画家協会」ー
20世紀前半のフランスにおける版画の普及運動
 - ・ 門田園子
記念用プリント・テキスタイルにみる近代：国民国家・伝統・エスニシティの表象
 - ・ 崎田嘉寛
ポスタルメディアにみる女子スポーツの身体表象：戦前期日本の運動会を中心として
 - ・ 牧田久美
教育者としての上野リチー戦後デザインへの影響ー
 - ・ 久後香純
「アノニマスな記録」としての写真：
1960年代後半から70年代前半日本における写真のリアリズムについて
- 交流会を含め40名以上が参加し、丁寧な調査研究に基づく多彩なテーマの発表を通じて、グラフィック文化の多様性を示す質の高い議論が展開された。併せて実施した交流会も、隣接領域との対話を促す場として好評を博し、有意義な機会となった。

On December 13, 2025, research results presentations and an exchange session were held at the DNP Ginza Building for recipients whose grant period finished at the end of 2024.

Presentations were made by the following five grantees on behalf of all recipients:

- ・ Shiori Takano:
Jean-Émile Laboureur and Société des Peintres-graveurs Indépendants:
Revival of Printing in the First Half of Twentieth Century France
 - ・ Sonoko Monden:
Modernity in Commemorative Printed Textiles:
Representations of Nation-States, Traditions, and Ethnicity
 - ・ Yoshihiro Sakita:
Postal Media Representation of the Sporting Female Body at Athletic Meets in Prewar Japan
 - ・ Hisami Makita:
Felice Rix-Ueno as an educator and her influence on Japanese postwar design
 - ・ Kasumi Kugo:
Photography as "Anonymous Document":
The Formation of a New Realism of Photography in the Late 1960s and early 70s Japan
- More than forty people attended, including those at the exchange session. The presentations on a wide range of topics based on thorough research led to in-depth discussions highlighting the diversity of graphic culture. The exchange session was well received as a venue for fostering dialogue with related fields, and proved to be a meaningful opportunity.



2025-26 Financial Support Activities

2025-26年度助成実績

1	対象	第36回田舎善顕彰版画展	Target	The 36th Denzen Print Award Exhibition
	主催	須賀川商工会議所青年部／ 須賀川市教育委員会後援	Organizers	Sukagawa Chamber of Commerce Youth Division, Sukagawa Board of Education
	年月	2026年2月	Date	February, 2026
	金額	50,000円	Amount	JPY 50,000
	備考	須賀川出身の江戸期の銅版画家、亜欧堂田善（あおうどうでんぜん）顕彰を目的とする市内小中学生対象の版画コンクール	Remarks	Print contest for Sukagawa elementary and junior high school students aimed at spreading recognition of copper plate print artist and Sukagawa native Aodo Denzen (1748-1822).

Review of ggg 2025-26

ggg 展覧会概要

TDC 2025 (Tokyo Type Directors Club Exhibition 2025)

会期＝2025年4月4日－5月17日
受賞作家＝○グランプリ：橋本麦
○特別賞＝北川一成 ○ブックデザイン賞：ラナ・チャヴァル＋ナルチサ・ヴコイエヴィッチ
○RGB賞＝ジェームズ・ゴギン(ブラクティス)＋キム・ミンギョン＋大塚真理恵 ○タイプデザイン賞：舟山貴士 ○TDC賞：ネイツ・ブラー、ショーン・イェンドリス、アキーム・ヘルムリング＋パス・ジェイコブス＋サミ・コルテマキ(アンダーウェア)、ヘンリック・クベル＋スコット・ウィリアムズ(A2-TYPE)、メイ・シュジ、AC部＋橋本麦＋group_inou
展示概要＝東京TDC賞は1990年創設の国際賞。2025年展では応募3,590点から選ばれた受賞・ノミネート作など124点を紹介した。

アイデンティティシステム 1945年以降 西ドイツのリブランディング

会期＝2025年5月27日－7月5日
企画・展示デザイン・グラフィックデザイン＝カタリーナ・ズセック&イエンス・ミュラー
後援＝ドイツ連邦共和国大使館
協力＝A5コレクション デュッセルドルフ
日本語レイアウト＝ニコール・シュミット
展示概要＝京都dddギャラリーで2024年10月に開催された同展を拡大して紹介した巡回展。カタリーナ・ズセックとイエンス・ミュラーが率いるデザインスタジオvistaが設立した「A5コレクション デュッセルドルフ」のアーカイブの中から、企業などのリブランディングを担ったポスターやビジュアル・アイデンティティの完成作品に加え、スケッチなど制作過程の資料も公開し、戦後西ドイツの躍進を支えたデザイン・ソリューションの展開を紹介した。

2025 JAGDA 亀倉雄策賞・新人賞展

会期＝2025年7月15日－8月27日
受賞作家＝○第27回亀倉雄策賞：林規章(教育機関の学生募集ポスター「女子美術大学大学院/3年次編入/短大専攻科 学生募集」client：女子美術大学) ○JAGDA新人賞2025：城崎哲郎、サリーン・チェン、松田洋和
JAGDA＝公益社団法人日本グラフィックデザイン協会。1978年設立。約3,000名の会員を擁するアジア最大規模のデザイン団体で、年鑑『Graphic Design in Japan』の発行や展覧会・セミナーの開催、デザイン教育など様々な活動を行っている。
展示概要＝JAGDAが主催する「亀倉雄策賞」と「JAGDA新人賞」の受賞作を中心に紹介した展覧会。1階では亀倉雄策賞を受賞した林氏の、20年にわたり毎年制作されてきた女子美の学生募集ポスターシリーズを展開。地階では新人賞受賞者の城崎哲郎氏、サリーン・チェン氏、松田洋和氏による受賞作品や近作を紹介。

TDC 2025 (Tokyo Type Directors Club Exhibition 2025)

Dates = April 4 – May 17, 2025
Award Winners = Grand Prize: Baku Hashimoto. Special Prize: Issay Kitagawa. Book Design Prize: Lana Cavar + Narcisa Vukojević. RGB Prize: James Goggin (Practise) + Minkyoun Kim + Marie Otsuka. Type Design Prize: Takashi Funayama. TDC Prize: Nejc Prah; Sean Yendrys; Akiem Helmling + Bas Jacobs + Sami Kortemäki (Underware); Henrik Kubel + Scott Williams (A2-TYPE); Mei Shuzhi; AC-bu + Baku Hashimoto + group_inou.
Exhibition Overview = The Tokyo TDC Award is an international award established in 1990. The 2025 exhibition featured 124 works, including award-winning and nominated entries selected from 3,590 submissions.

Identity Systems Germany Rebranding West Germany after 1945

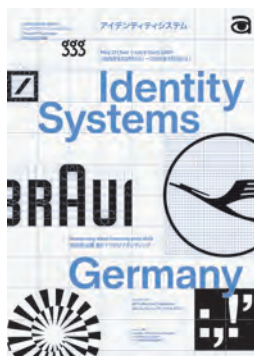
Dates = May 27 – July 5, 2025
Planning, Space Design, Graphic Design: Katharina Sussek & Jens Müller / Support = Embassy of the Federal Republic of Germany in Japan / Cooperation = A5 Collection, Düsseldorf / Japanese Layouts = Nicole Schmid
Exhibition Overview = A traveling exhibition expanding the show held at the Kyoto ddd gallery in October 2024 by drawing from the archives of the A5 Collection Düsseldorf, which was established by the design studio vista led by Katharina Sussek and Jens Müller. The exhibition showcased not only completed posters and visual identities created for corporate rebranding projects but also production process materials such as sketches, illustrating the evolution of design solutions that supported the rapid progress of postwar West Germany.

2025 JAGDA Exhibition: Yusaku Kamekura Design Award and JAGDA New Designer Award

Dates = July 15 – August 27, 2025
Award Winners = The 27th Yusaku Kamekura Design Award: Noriaki Hayashi for Educational institution's student recruitment posters (client: Joshibi University of Art and Design) / JAGDA New Designer Award: Tetsuro Jozaki, Sarene Chan, Hirokazu Matsuda
JAGDA = The Japan Graphic Design Association was established in 1978. As the largest design organization in Asia, numbering approximately 3,000 members, JAGDA activities include the publication of the *Graphic Design in Japan* annual, organization of exhibitions and seminars, and support of design education.
Exhibition Overview = This exhibition focused on the winning entries of the Yusaku Kamekura Award and the JAGDA New Designer Award, both organized by JAGDA. On the first floor, the exhibition featured a series of posters designed by Noriaki Hayashi, the recipient of the Yusaku Kamekura Award, for the Joshibi University of Art and Design student recruitment campaign—a series he has created annually for the past twenty years. On the basement level, it showcased award-winning works and recent pieces by the winners of the JAGDA New Designer Award: Tetsuro Jozaki, Sarene Chan, and Hirokazu Matsuda.



Design: Achim Reichert



Design: vista (Katharina Sussek & Jens Müller)



Design: Noriaki Hayashi



Art Direction: (J)(C)(M)
Design: (M)

田部井美奈 光と図形と、その周辺

会期＝2025年9月5日－10月22日

写真＝小川真輝／会場構成＝中原崇志

映像＝大内裕史 (WOW)／協力＝株式会社ショウエイ／展示施工＝HIGURE17-15cas

作家略歴＝埼玉県出身。武蔵野美術大学短期大学部卒業。2003年より服部一成氏に師事し、同時にフリーランスとしての活動も開始。2014年に田部井美奈デザインを設立。広告、書籍、パッケージ、展示など幅広い分野で活動。

展示概要＝地階では、2018年より取り組んでいる実験的シリーズ「光と図形」の最新作を中心に紹介した。写真表現を通して光と影といった自然現象が生み出す偶然性を取り込み、三次元の世界に現れるイメージを二次元の紙面上へ展開する試みであり、展示空間全体で体感できるかたちで構成した。1階では、これまで手がけてきた書籍装丁、パッケージ、ポスターなどの代表的なグラフィックワークを紹介し、田部井氏のデザイン表現の特徴と広がりを示した。

MINA TABEL LIGHT and FIGURE, and ALL AROUND

Dates＝September 5－October 22, 2025

Photography＝Masaki Ogawa / Space Design＝Takashi Nakahara / Film Production＝Hiroshi Ouchi (WOW) / Cooperation＝SHOEI Inc. / Construction＝HIGURE 17-15cas

Artist Profile＝Born in Saitama Prefecture, Tabei graduated from Musashino Art University Junior College of Art and Design. In 2003, she began working under Kazunari Hattori, and at the same time commenced work as a freelance designer. In 2014, she went independent, establishing Mina Tabei Design. She is involved in design in areas including advertising, books, packaging, and exhibitions.

Exhibition Overview＝The exhibition held on the basement level primarily featured the latest works from Mina Tabei's experimental series *LIGHT and FIGURE*, which has been ongoing since 2018. These works are an attempt to capture the fortuity created by natural phenomena such as light and shadow, through photographic expression, and translate images that emerge in the three-dimensional world onto a two-dimensional surface. The exhibit was structured in a way that enabled visitors to experience the entire space. Tabei's graphic works, including books, packaging, and posters, were presented on the ground level, revealing the characteristics and scope of her practice.



Design: Mina Tabei
Photography: Masaki Ogawa

日本のアートディレクション展 2025

会期＝2025年10月31日－11月29日

受賞作家＝○グランプリ：北川一成

○ADC会員賞：菊地敦己、小松洋一

○ADC賞：中山智裕＋石田和幸＋フランチェスカ・ゲルマンディ、関戸貴美子＋田中嗣久＋ニシワキタダシ、居山浩二、柳沢翔＋正親篤、江波戸李生＋鳥巢智行＋森田晶子、大坪メイ、鎌田順也、林琢真、城崎哲郎＋村田篤司、奥山雄太、田向潤、高谷優偉 ○原弘賞：服部一成

展示概要＝1952年の設立以来、展覧会や年鑑の発行などを通じ、日本に「アートディレクション」という考え方を普及させる活動を行ってきた東京アートディレクターズクラブ (ADC)。この全会員が審査員となって行われる年次公募展が「日本のアートディレクション展」で、今年は2024年6月から2025年5月までに発表された約6,000点の応募作から、選び抜かれた受賞作品と優秀作品を展示した。

Art Direction Japan 2025 Exhibition

Dates＝October 31－November 29, 2025

Award Winners＝Grand Prize: Issay Kitagawa. ADC Members' Award: Atsuki Kikuchi; Yoichi Komatsu. ADC Award: Tomohiro Nakayama + Kazuyuki Ishida + Francesca Ghermandi; Kimiko Sekido + Tsugihisa Tanaka + Tadashi Nishiwaki; Koji Iyama; Show Yanagisawa + Atsushi Oogi; Rio Ebato + Tomoyuki Torisu + Shoko Morita; Mei Otsubo; Junya Kamada; Takuma Hayashi; Tetsuro Jozaki + Atsushi Murata; Yuta Okuyama; Jun Tamukai; Yuichi Takatani. Hiromu Hara Memorial Prize: Kazunari Hattori

Exhibition Overview＝Since its establishment in 1952, the Tokyo Art Directors Club (ADC) has continuously promoted the concept of "art direction" in Japan through exhibitions, publication of yearbooks, etc. The 2025 exhibition showed award-winning and other outstanding works that were featured in the latest yearbook, selected through rigorous screening by all ADC members from about 6,000 entries that were presented, used, or published between June 2024 and May 2025.



中村至男 オン グラフィック

会期＝2025年12月9日－2026年1月31日

作家略歴＝神奈川県川崎市生まれ。1990年、日本大学芸術学部卒業。CBS・ソニーを経て1997年よりフリーランス。グラフィックデザインを

起点に広告、映像、絵本など幅広く制作。展示概要＝アートユニット「明和電機」のグラフィックや、佐藤雅彦氏とともに手がけたプレイステーション用ソフト「I.Q.」などで1990年代から注目されてきた中村氏の活動を紹介。広告や音楽関連の仕事、映像、絵本など多分野の作品を展示し、ミニマルな表現と多角的な視点から生まれる独自の視覚表現の魅力を示した。本展のために制作された新作も代表作と織り交ぜるように配置し、中村氏の表現世界の魅力を改めて提示した展覧会となった。

Norio Nakamura on graphic

Dates＝December 9, 2025－January 31, 2026

Artist Profile＝Born in Kawasaki, Kanagawa Prefecture. Graduating in fine arts from Nihon University College of Art in 1990, he worked for CBS/Sony—currently Sony Music Entertainment (Japan) Inc.—before going freelance in 1997. Based in graphic design, his creative practice includes areas such as advertising, video, and children's picture books.

Exhibition Overview＝This exhibition introduced the work of Nakamura, who has garnered attention since the 1990s for his graphics with the art unit Meiwa Denki and his collaboration with Masahiko Sato on the PlayStation game I.Q. The exhibition showcased works across a wide range of fields, including advertising, music-related projects, video, and picture books, highlighting the appeal of his unique visual expression born from minimalist aesthetics and a multifaceted perspective. Featured in the exhibition were a mix of new works created specifically for this occasion along with his signature pieces, presenting a fresh perspective on the appeal of Nakamura's world of expression.



Design: Norio Nakamura

ポーランドの巨匠 ヤン・レニツァ ポスター、アニメーション、イラストレーション、舞台

会期＝2026年2月12日－3月26日

協力＝ポズナン国立美術館、ポーランド広報文化センター

作家略歴＝ポスター／グラフィック作家、アニメーション映画監督。1928年ポーランド・ポズナン生まれ。舞台デザインや絵本、挿絵など多分野で活動。1963年よりパリを拠点に、ハーバード大学、カッセル芸術大学、ベルリン芸術大学で教鞭をとった。2001年没。

展示概要＝ポーランド派ポスターの代表的作家ヤン・レニツァの創作を、ポズナン国立美術館のアーカイブ資料を中心に構成。第二次世界大戦後、映画ポスターを中心に自由で斬新な視覚表現を展開し、1966年の第1回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレで金賞を受賞するなど国際的評価を得た。本展では映画・演劇のポスターや、アニメーション作品のアートワークに加え、初期の風刺画、舞台デザインやキャラクター原画など、これまであまり紹介されなかった創作も展示した。

Jan Lenica. Maestro z Polski. Plakat, Animacja, Ilustracja, Teatr

Dates＝February 12－March 26, 2026

Cooperation＝National Museum in Poznań, Polish Institute in Tokyo

Artist Profile＝Author of posters and graphics, director of animated films. Born in Poznań, Poland in 1928. Active in a wide range of fields, including stage design, picture books, and illustration. Based in Paris since 1963, Lenica taught at Harvard University, the Kunsthochschule Kassel, and the Berlin University of the Arts. He passed away in 2001.

Exhibition Overview＝This exhibition showcases the work of Jan Lenica, a leading figure of the Polish Poster School, primarily using archival material from the National Museum in Poznań. After World War II, Lenica developed a free and innovative visual style, particularly in film posters, and gained international acclaim, including winning the Gold Medal at the 1st International Poster Biennale in Warsaw in 1966. In addition to movie and theater posters and artwork from animated films, the exhibition featured rarely seen works such as early satirical drawings, stage designs, and original character sketches.



Design: Yoshihisa Shirai

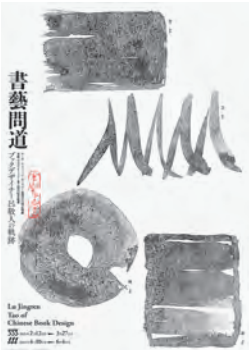
ddd 展覧会概要

書藝問道 ブックデザイナー 呂敬人の軌跡

会期＝2025年4月10日－6月4日
協力＝杉浦康平、赤崎正一、佐藤篤司
作家略歴＝1947年上海生まれ。1968年からの10年間は文化大革命による農村下放プログラムによって、労働に従事する。1978年に中国青年出版社に入社。1989年、93年の二度に渡り来日、杉浦康平氏に師事。1998年に敬人設計工作室設立。2002年より清華大学美術学院視覚伝達デザイン学科で教鞭を執り、2013年「敬人紙語」ブックデザイン研究クラス設立、現在は上海美術学院の客員教授、『ブックデザイン』叢書編集長を務める。
展示概要＝宋代の拓本を原寸大複製した『朱熹榜書千字文』をはじめ、全長10mの巻物10巻を納めた『絵図五百羅漢詳解』、解説を読みながら実際に囲碁が打てる『忘憂清衆集』など、目を見張る豪華本をダイナミックに展開。お茶や扇子他、中国の豊かな芸術文化、生活にまつわる多彩な書物を、呂氏による丁寧な解説とともに紹介。また、手にとって楽しめる作品集や目録なども展示。中国芸術の核心に迫る精緻なブックデザインの世界をぜひ体感できる展示となった。

Lu Jingren Tao of Chinese Book Design

Dates = April 10 – June 4, 2025
Cooperation = Kohei Sugiyara, Shoichi Akazaki, Atsushi Sato
Artist Profile = Born in Shanghai in 1947. From 1968, under the Cultural Revolution he spent years as a laborer in rural China. In 1978 he joined the China Youth Publishing House. In 1989 and 1993 he studied in Japan under Kohei Sugiyara. In 1998 he established the Jingren Art Design Studio. In 2002 he began teaching at Tsinghua University's Academy of Arts and Design, and in 2013 he established Jingren's Paperlogue, a class engaging in book design research. Today, Lu Jingren is a visiting professor at Shanghai Academy of Fine Arts, and he also serves as editor-in-chief of Book Design.
Exhibition Overview = Lu Jingren's exhibition featured a full-scale reproduction of a Song Dynasty rubbing, *One Thousand Characters by Zhu Xi*, as well as Detailed Illustrations of the Five Hundred Arhats, a collection of ten scrolls totaling 10 meters in length, and *The Wang You Qing Le Collection*, where readers can actually play a game of Go while reading the commentary—a dynamic display of these stunning, lavish volumes. Along with tea and folding fans, a diverse array of books related to China's rich artistic culture and daily life is introduced, accompanied by his detailed commentary. The exhibition also featured art books and other works that visitors could pick up for closer inspection. It was an exhibition where visitors could experience the world of exquisite book design that gets to the heart of Chinese art.



Design: Lu Min

モダン・エキスポ・ポスターズ：グラフィックでみる現代の万博

会期＝2025年6月13日－8月20日
共催＝大日本印刷株式会社／特別協力＝博覧会国際事務局、万博博物館／協力＝株式会社乃村工藝社／後援＝公益社団法人2025年日本国際博覧会協会、大阪・関西万博きょうと推進委員会認証事業
出展作家＝五十嵐威暢、伊坂芳太良、石岡瑛子、伊藤桂司、植桑則夫、アイリス・ウティカル、マイケル・ガイス、勝井三雄、亀倉雄策、城戸和子、ステUDIO・ギィ・ラリュミエール、田中一光、アール・ダフ、TEAM INARI (シマダタツ)、ロマン・チェシレヴィチ、戸田正寿、ロベルト・ドーヘ、永井一正、原研哉、引地耕太、福島治、福田繁雄、ハコボ・ベレス・エンソソ、デイヴィッド・ホックニー、増田豊、松永真、レオ・マーフェルト、ハビエル・マリスカル、ジョルジュ・ユエル、ジャック・リシエ、ロランド&メルスドルフ、和田誠、フントウテン、他
展示概要＝万博のテーマは公式ポスターにも反映され、時代や社会の変遷を感じられる。1958年ブリュッセルから2025年大阪・関西までの11回の登録（一般）博覧会、沖縄、つくばの2回の認定（特別）博覧会と大阪（国際園芸博覧会）、計14回の現代万博を当財団の所蔵ポスターを中心に、博覧会国際事務局、万博博物館、乃村工藝社の協力のもと展示。2025年日本国際博覧会のロゴやデザインシステムと、その制作者のデザイン企画意図や活動なども紹介。

Modern Expo Posters: A Graphical Journey Through World Expos

Dates = June 13 – August 20, 2025
Co-organizer = Dai Nippon Printing Co., Ltd. / Special Cooperation = Bureau International des Expositions (BIE), World Expo Museum / Cooperation = NOMURA Co., Ltd. / Support = Japan Association for the 2025 World Exposition Expo Osaka, and Kansai, Japan Kyoto Promotion Committee Certified Project
Featured Artists = Takenobu Igarashi, Yoshitaro Isaka, Eiko Ishioka, Keiji Ito, Norio Uejo, Iris Ukital, Michael Gais, Mitsuo Katsui, Yusaku Kamekura, Wako Kido, Studio Guy Lumière, Ikko Tanaka, R Daff, TEAM INARI (Tamotsu Shimada), Roman Cieślewicz, Seiji Toda, Robert d'Hooghe, Kazumasa Nagai, Kenya Hara, Kota Hikichi, Osamu Fukushima, Shigeo Fukuda, Jacobo Pérez-Enciso, David Hockney, Yutaka Masuda, Shin Matsunaga, Leo Marfelt, Javier Mariscal, Georges Yuel, Jacques Richez, Roland & Memelsdorff, Makoto Wada, 1→10, Inc. and others
Exhibition Overview = The evolution of World Expo themes is reflected in the official posters, revealing changes in society. This exhibition featured posters from fourteen modern World Expos—registered expos from 1958 Brussels to 2025 Osaka-Kansai, recognized expos in Okinawa and Tsukuba, and the International Garden and Greenery Exposition, Osaka. Exhibits from the DNP Cultural Promotion Foundation's collection were augmented by the Bureau International des Expositions, the Expo Museum, and Nomura Co. Ltd. The exhibition also showcased the logo and design system for Expo in 2025, introducing the design concepts and activities of their creators.



Design: ym design

フェリックス・ベルトラン コネクションーハバナ ニューヨーク 大阪 メキシコ マドリッド 京都ー

会期＝2025年8月29日－10月29日
キュレーション＝ソニア・ディアス&ガブリエル・マルティネス／協力＝テレサ・カマチョ、二戸市シビックセンター
作家略歴＝フェリックス・フアン・アルベルト・ベルトラン・コンセプション（1938年キューバ・ハバナ生まれ。2022年メキシコにて没）は、当代有数の知性溢れるイベロアメリカ出身デザイナー。スクール・オブ・ビジュアル・アーツ、プラット・インスティテュートーグラフィックアートセンター、アート・スチューデントツ・リーグ・オブ・ニューヨークで学び、グラフィックデザインへのコンセプチュアルなアプローチを形成した。
展示概要＝ベルトランは地元カリブ文化をはじめ、パウ・ハウスの構成主義、アイソタイプ、アメリカン・モダニズム、スイス派、即物主義写真、コンクリート・アート（幾何学的抽象）、ミニマリズム、ポップアートなど各種芸術運動の影響を受け、精力的に活動。イベロアメリカ・デザインの17年に及ぶ研究を経て開催される本展では、20世紀のグラフィックデザイン文化において新たな物語を構築した相互関連的な取り組みとして、出版とキュレーション、書籍と展示の関係を、デザイナーたちが制作した象徴的なイメージや、エフェメラルな印刷物を通して振り返った。

FELIX BELTRAN CONNECTIONS —LA HAVANA NEW YORK OSAKA MEXICO MADRID KYOTO—

Dates = August 29 – October 29, 2025
Curation = Sonia Diaz & Gabriel Martínez / Cooperation = Teresa Camacho, Ninohe-shi Civic Center
Artist Profile = Félix Juan Alberto Beltrán Concepción (Havana, Cuba, 1938–Mexico, 2022) was the most intellectual Ibero-American designer of his time. He studied at the renowned School of Visual Arts, the Graphic Art Center-Pratt Institute, and the Art Students League of New York. He shaped a conceptual approach to graphic design, influenced by Bauhaus constructivism, Swiss School, and American modernism, which emphasized simplicity as a fundamental principle of effective visual communication.
Exhibition Overview = Beltrán worked prolifically, drawing inspiration from a wide range of artistic movements, including his native Caribbean culture, Bauhaus Constructivism, Isotype, American Modernism, the Swiss School, Photorealism, Concrete Art (Geometric Abstraction), Minimalism, and Pop Art. Following seventeen years of research on Ibero-American graphic design, the exhibition examined the relationship between publishing and curation, and between books and exhibitions, as interconnected endeavors that shaped new narratives within twentieth-century graphic design culture, through iconic images created by designers and ephemeral printed materials.



Design: Sonia Díaz & Gabriel Martínez with Nicole Schmid

C-GRAPHIC/TAIPEI 2020年代台北のグラフィックデザイン

会期＝2025年11月6日－2026年1月12日
キュレーション＝後藤哲也&毛灼然
出展作家＝adj.everything, ddd.pizza, Echo Yang, Elf-19, HOUTH, O.OO™, ONE.10 Society, Oval graphic, Sydney Sie, Yang Qiao Ran
展示概要＝「C-GRAPHIC / TAIPEI」は、漢字文化圏で活動する現代のグラフィックデザイナーたちを紹介した書籍「C-GRAPHIC INDEX」を起点に、台北が拠点の10組のデザイナーの声と仕事を空間化。「C-GRAPHIC INDEX」は、広大な漢字文化圏のグラフィックデザインの地図に補助線を引き、その現在地を可視化する試み。「C-GRAPHIC」の「C」は、言語としてのChinese＝漢字を指す。本展ではその中でも繁体字（Traditional Chinese）を使用する台北を中心に、1980～90年代生まれのミレニアル～Z世代のデザイナーたちによる、文化・芸術分野に関わるグラフィックデザインを中心に紹介。彼らはどこで何を学び、どのような影響を受けてデザインを行っているのか。どのように生活し、どのような思想をもって制作に臨んでいるのか。誌面では伝えきれない作品の実物展示を通じて、その多層的な創作背景に触れた。これらの作品を通して、彼らがどのように都市と関わり、2020年代のカルチャーを形成しているのか、言葉とビジュアルの両面からなる体験で提示。

C-GRAPHIC/TAIPEI: Taipei's Graphic Design Scene in the 2020s

Dates = November 6, 2025 – January 12, 2026
Curation = Tetsuya Goto & Javin Mo
Featured Designers = adj.everything, ddd.pizza, Echo Yang, Elf-19, HOUTH, O.OO™, ONE.10 Society, Oval graphic, Sydney Sie, Yang Qiao Ran
Exhibition Overview = C-GRAPHIC/TAIPEI was an exhibition that brings to life the voices and work of ten Taipei-based design teams, taking as its starting point the content of C-GRAPHIC INDEX, a book introducing contemporary graphic designers active in the Sinographic cultural sphere. C-GRAPHIC INDEX is an attempt to draw additional lines on the map of graphic design across the vast Sino-Japanese cultural sphere and visualize its current state. The 'C' in C-GRAPHIC refers to Chinese—the language of Chinese characters. This exhibition focused on Taipei—where Traditional Chinese is used—and showcases graphic design works in the fields of culture and the arts by designers from the Millennial and Gen Z generations born in the 1980s and 1990s. Where and what did they study, and what influences shape their design work? And how do they live their lives, and what philosophy do they bring to their creative process? Through an exhibition of the actual works—which cannot be fully conveyed in print—visitors were able to experience the multifaceted creative context behind them. Through these works, an experience was presented that combined words and visuals to explore how Taipei's designers engage with the city and are shaping the culture of the 2020s.



Design: Tetsuya Goto & Javin Mo

LOCAL LOCAL -ないものはない- 梅原真展

会期＝2026年1月20日－3月22日
協力＝株式会社四万十ドラマ、特定非営利活動法人NPO砂浜美術館、株式会社黒潮町佐詰製作所、特定非営利活動法人RIVER、株式会社青柳、株式会社フタガミ、馬路村農業協同組合、弘文印刷株式会社、株式会社日本デザインセンター
作家略歴＝高知市生まれ。高知県在住。「土地のチカラを引き出すデザイン」がテーマ。「砂浜美術館」、「しまんと地栗」、「新しい学び方・しまんと分校」、「ぼん酢しょうゆ・ゆずの村」、「一本釣り・薫焼きたたき」、隠岐郡海士町のアイデンティティ「ないものはない」、黒潮町公認「防災缶詰・にげる」プロジェクト他多数。2016年毎日デザイン賞・特別賞。武蔵野美術大学客員教授。
展示概要＝本展では梅原の代表的な仕事2点を中心に、彼がさまざまな人々と言葉と心を通わせながら実現した仕事の数々を、彼の言葉とともに紹介。中心となるのは、「しまんと地栗」のプロジェクトと、高知県黒潮町の4キロに及び砂浜をそのまま展示場とした「砂浜美術館」のプロジェクト。奇しくも山と海のプロジェクトで、高知の豊かな自然を表現。彼は「ボクのデザインの背景には、マイナス×マイナス＝プラスという考え方と法則があります」と述べている。梅原デザインに通底する確固たる軸にふれる機会を提供した。

LOCAL LOCAL: We have nothing? —The Makoto Umebara Exhibition

Dates = January 20 – March 22, 2026
Cooperation = Shimanto Drama Co., Ltd., Sunabi Museum NPO, Kuroshio Town Canning Factory Co., Ltd., River NPO, Aoyagi Co., Ltd., Futagami Co., Ltd., Umaji village Agricultural Cooperative, Kobun Printing Co., Ltd., Nippon Design Center, Inc.
Artist Profile = Born in Kochi City, lives in Kochi Prefecture. His design work draws out the power and appeal of the land. Projects include work for Sunabi Museum, Shimanto Ziguri, Shimanto Branch School, Yuzu no Mura ponzu sauce, a pole fishing and straw-seared bonito, a "We have nothing?" project in the Oki islands, and a project for emergency food endorsed by Kuroshio Town. In 2016, he received the special award at the Mainichi Design Awards. He is a guest professor at Musashino Art University.
Exhibition Overview = This exhibition introduces Umebara's words and projects he has realized through conversations and heartfelt connections with many people. The focal points are the Shimanto Ziguri project and the Sunabi Museum project, which uses the 4-kilometer beach in Kuroshio Town, Kochi Prefecture, as an exhibition space. These projects involve the mountains and the sea, reflecting the rich natural environment. Umebara stated, "Behind my designs lies the idea and principle that minus multiplied by minus equals plus." This approach provides a firm foundation for Umebara design.



Design: Makoto Umebara

1986

- 3月 1回 大橋正展 野菜のイラストレーション
- 4月 2回 福田繁雄展 Illustic412
- 5月 3回 奥村毅正展 燦々彩譜
- 6月 4回 秋山育展 ピクチャーレリーフ
- 7月 5回 1986 ADC展
- 8月 6回 アートワークス展Ⅰ The World is Art.
- 9月 7回 佐藤晃一展 箱についてー2
- 10月 8回 栗津潔展 エノタメノジブンカクメイ
- 11月 9回 追悼・ハーバート・バイヤー展
ヴィジュアル・コミュニケーションのバイオニア
- 12月 10回 K2 Live!展 ケイを知らずにツーといふな。

1987

- 1月 11回 いろはの絵展 辻修平と
The CA WorkshopによるCGカリグラフィ
- 2月 12回 花の万博十博覧会のシンボルマーク展
- 3月 13回 藤幡正樹展 geometric love
- 4月 14回 松永真 毎日デザイン賞受賞記念展
- 5月 15回 安西水丸 二色
- 6月 16回 ルウ・ドーフスマンとCBSの
クリエイティブワークス展
- 7月 17回 1987 ADC展
- 8月 18回 アートワークス展Ⅱ Rest in Peace
- 9月 19回 五十嵐威輔の立体数字展
- 10月 20回 青葉益輝プリンティングアート展 Graphically
- 11月 21回 オルガー・マチスのポスター展 意外性の真実
- 12月 22回 ミルトン・グレイザー展 イメージの魔術師

1988

- 1月 23回 木村勝パッケージングディレクション展
リングになった箱と動詞になった箱
- 2月 24回 谷口広樹展 猿の記憶
- 3月 25回 銀座百点 表紙原画展：創刊400号記念
- 4月 26回 吉田カツ・描き下し刷り下し展
- 5月 27回 AGI 88 Tokyo展
世界のグラフィックデザイン
- 6月 28回 イッセイ・ミヤケのポスター展 I.I.I. at GGG
- 7月 29回 1988 ADC展
- 8月 30回 アートワークス展Ⅲ Peace by Piece
- 9月 31回 情報ポスター・リクルート展
- 10月 32回 早川良雄「女」原画展
- 11月 33回 仲條正義展 NAKAJOISH
- 12月 34回 スタシスのポスターとイラストレーション展
存在の深淵に迫る東欧からのメッセージ

1989

- 1月 35回 ショッピング・バッグ・デザイン
- 2月 36回 矢萩喜從郎展
- 3月 37回 Texture 皆川魔鬼子＋田原桂一＋山岡茂
- 4月 38回 タナカノリユキ展 Gokan―都市の表層
- 5月 39回 オトル・アイヒャー展
現代哲学の先駆者 W.フォン・オッカム
- 6月 40回 操上和美展 Photographis
- 7月 41回 若尾真一郎展 Wakao Collection
- 8月 42回 アートワークス展Ⅳ 百花繚乱
- 9月 43回 永井一正展
- 10月 44回 Europalia '89 Japan
新作ポスター 12人展
- 11月 45回 チャールズ S. アンダーソン最新作品展覧会
- 12月 46回 清原悦志の仕事 オーマージュ

1990

- 1月 47回 秋月繁展 遊びの箱
- 2月 48回 菊地信義 装幀の本「棚」
- 3月 49回 原田維夫木版画展 馬
- 4月 50回 田中一光グラフィックアート植物園

- 5月 51回 山城隆一 猫のいないイラスト展
- 6月 52回 松井桂三3D展
- 7月 53回 寺門孝之展 遺伝子導入天使
- 8月 54回 アートワークス展Ⅴ 東京標本箱1990
- 9月 55回 田原桂一展 光の香り
- 10月 56回 浅葉克己の新作展 アジアの文字
- 11月 57回 伊勢亮也展 イメージのマカロニ
- 12月 58回 蓬田やすひろ展 ビープル

1991

- 1月 59回 舟橋全二展
- 2月 60回 太田徹也のダイアグラム
- 3月 61回 ペア・アーノルディ展
Posters, Prints and Painting
- 4月 62回 澤田泰廣展 P2 [Painting × Printing]
- 5月 63回 新井苑子展 インスピレーションを描く
- 6月 64回 Communication & Print
新作ポスター 10人展
- 7月 65回 オブジェ・ブック展
中垣信夫＋中垣デザイン事務所
- 8月 66回 アートワークス展Ⅵ
“Bacteriat” Messages from Dream Island
- 10-11月 67回 Trans-Art 91
- 12月 68回 1991 ADC展

1992

- 1月 69回 アイヴァン・チャマイエフ展 コラージュ
- 2月 70回 立花ハジメ初の個展 ape-MAN
- 3月 71回 第4回東京TDC展
- 4月 72回 ヘンリク・トマシェフスキ展
- 5月 73回 シーモア・クワスト展 メタル彫刻
- 6月 74回 鹿目尚志展 BOX・XX
- 7月 75回 中村誠 個展
- 8月 76回 リック・バリセンティ展
- 9月 77回 葛西薫展 ‘AERO’
- 10月 78回 薮本唯人、宇野亜喜良、和田誠、
山口はるみ展
- 11月 79回 ボール・ランド展
- 12月 80回 フロシキ展

1993

- 1月 81回 小島良平展 Tropica Grafica
- 2月 82回 稲越功一展 アウト・オブ・シーズン
- 3月 83回 1992 ADC展
- 4月 84回 第5回東京TDC展
- 5月 85回 U.G.サトーのポスター展 “Freedom”
- 6月 86回 オーマージュ 向秀男展
- 7月 87回 文字からのイマジネーション
- 8月 88回 現代香港のデザイン8人展
- 9月 89回 勝井三雄展 光の国：夜と昼の挟間に
- 10月 90回 1993 Illustration 4
安西水丸・河村要助・矢吹申彦・湯村輝彦
- 11月 91回 ソール・バス展
- 12月 92回 グリーティング・ポップアップ13人展

1994

- 1月 93回 栗津潔展 H²O Earthman
- 2月 94回 第6回東京TDC展
- 3月 95回 上條喬久展 Windscape Mindscape
- 4月 96回 片山利弘展
- 5月 97回 永井一正展
- 6月 98回 オランダのグラフィックデザイン100年
- 7月 99回 1994 ADC展
- 8-9月 100回 グラフィック・グッス展
デザインからの贈りもの
- 10月 101回 平野甲賀展 文字の力
- 10月 特別展 九州の九人の九つの個性展

- 11月 102回 亀倉雄策ポスター新作展
- 12月 103回 原研哉展
- 12月 特別展「私の好きなもの」
土橋とし子、中村幸子、メグ・ホソキ3人展

1995

- 1月 104回 ブルーノ・ムナーリ展
- 2月 105回 日本のブックデザイン展1946-95
- 3月 106回 第7回東京TDC展
- 4月 107回 ビーター・ブラッティンガ展
- 5月 108回 田中一光展 人間と文字
- 6月 109回 ニクラウス・トロックスラーポスター展
- 7月 110回 1995 ADC展
- 8月 111回 リズム&ヒューズの
コンピュータグラフィックス展
- 9月 112回 八木保展 自然観
- 9月 特別展 世界のグラフィック20人 ギンザ・グラフィック・
ギャラリー 10周年／ggg Books 20冊記念
- 10月 113回 モダン・タイポグラフィの流れ展ー1
- 11月 114回 戸田正寿 イヤイヤランド展
- 12月 115回 日本のイラストレーション50年展

1996

- 1月 116回 蓬田やすひろ展 お江戸で、ゆらゆら
- 2月 117回 モダン・タイポグラフィの流れ展ー2
- 3月 118回 NIPPONJIN ポスター 23人展イン・サンバロウ
- 4月 119回 第8回東京TDC展
- 5月 120回 現代ハンガリーのグラフィック4人展
- 6月 121回 勝岡重夫タイポグラフィックアート展
Departure
- 7月 122回 1996 ADC展
- 8月 123回 前田ジョン かみとコンピュータ展
- 9月 124回 K2・黒田征太郎／長友啓典
二脚の椅子展
- 10月 125回 チェコ・アヴァンギャルド・ブックデザイン
1920s・30s
- 11月 126回 Graphic Wave 1996
青木克憲／佐藤卓／山形季央
- 12月 127回 アラン・ル・ケルネ展

1997

- 1月 128回 下谷二助展 人じん
- 1月 特別展 CCGA特別展：
ジョセフ・アルバース展
- 2月 129回 大橋正展 体温をもつ野菜たち
- 3月 130回 創立10周年記念 東京TDC展
- 4月 131回 仲條正義〇〇〇展
- 5月 132回 今日の雑誌8誌による・特集エコロジー展
- 6月 133回 横尾忠則ポスター展
吉祥招福繁昌描き下ろし!!
- 7月 134回 1997 ADC展
- 8月 135回 河原敏文とボリゴン・ビクチュアス展
ロッキー・ホラ商會
- 9月 136回 メキシコ10人展
- 10月 137回 Graphic Wave 1997
秋田寛／井上里枝／福島治
- 10月 特別展 勝見勝寛 10周年記念展
- 11月 138回 福田繁雄のポスター 〈Supporter〉
- 12月 139回 GLOBAL展 世界33人の
デザイナーによるデュオポスター

1998

- 1月 140回 鈴木八朗展 8RO ART & AD
- 2月 141回 オーデルマット＋ティッシ
グラフィックデザイン展
- 3月 142回 スタシス・エイドリッゲヴィチウス展
- 4月 143回 1998 TDC展

- 5月 144回 スタジオ・ドゥンパー展
- 6月 145回 山本容子展 オペラレッスン
- 7月 146回 1998 ADC展
- 8月 147回 河口洋一郎展 電脳宇宙への旅
- 9月 148回 Graphic Wave 1998
蛭名龍郎／平野敬子／三木健
- 10月 149回 グンター・ランボー展
- 11月 150回 フィリップ・アペロウ展
フランス文化におけるポスター
- 12月 151回 ヘルベルト・ロイピン展

1999

- 1月 152回 海外作家によるFuroshiki Graphics展
- 2月 153回 日本のタイポグラフィック1946-95
- 3月 154回 木村恒久構成フォト・グラフィックス展 What?
- 3月 特別展 堀内誠一の仕事展 雑誌づくりの決定的瞬間
- 4月 155回 1999 TDC展
- 5月 156回 現代ブルガリアのグラフィックデザイン展
- 6月 157回 日比野克彦展 誘拐したい
- 7月 158回 1999 ADC展
- 7月 特別展 前田ジョン One-line.com
- 8月 159回 矢萩喜從郎展
- 9月 160回 Graphic Wave 1999
鈴木守／松下計／米村浩
- 10月 161回 FUSE展
- 11月 162回 松井桂三展
- 12月 163回 ボール・デイヴィスのポスター展
- 12月 特別展 アーヴィング・ベン
三宅一生の仕事への視点

2000

- 1月 164回 Graphic Message for Ecology
- 1月 特別展 篠山紀信&マニユエル・ルグリ展
フォトセッションinパリ・オハラ座1998-1999夏
- 2月 165回 ブルーノ・モングッツィ展 形と機能の詩人
- 3月 166回 伊藤憲治展 医学誌「ステスコープ」の
表紙デザイン半世紀
- 4月 167回 2000 TDC展
- 5月 168回 Poster Works Nagoya 12
岡本滋夫＋11人のデザイナーたち
- 6月 169回 なにわの、こてこてグラフィック展
- 7月 170回 2000 ADC展
- 8月 171回 日宣美の時代
日本のグラフィックデザイン1951-70展
- 9月 172回 Graphic Wave 2000
秋山具義／Tycoon Graphics／中島英樹
- 10月 173回 D-ZONE／戸田ツトム展
- 11月 174回 ビエール・ベルナル展
現実的であれ、不可能を試みろ!
- 12月 175回 本とコンピュータ展 書物変容―アジアの時空

2001

- 1月 176回 二〇〇一年木田安彦展
- 2月 177回 イタロ・ルビ展 Not Just Graphics
- 3月 178回 “Spring has come”
松永真、ディテールの競演。
- 4月 179回 2001 TDC展
- 5月 180回 コントラプンクト展
デンマーク国家のデザインプログラム
- 6月 181回 原弘のタイポグラフィ
- 7月 182回 2001 ADC展
- 8月 183回 薮本唯人 にんげんもよう
- 9月 184回 Graphic Wave 2001
澁谷克彦／永井一史／ひびのこづえ
- 10月 185回 ハングルポスター展
- 11月 186回 サイトウマコト展
- 12月 187回 チップ・キッド展

2002

- 1月188回 ウーヴェ・レシュ展
- 2月189回 宇野亜喜良展
- 3月190回 デザイン教育の現場から
セント・ジュースト大学院の手法
- 4月191回 2002 TDC展
- 5月192回 DRAFT 展
- 6月193回 アラン・チャン展 東情西韻
- 6月 特別展 花森安治と暮らしの手帖展
- 7月194回 2002 ADC展
- 8月195回 タナカノリユキ展 OUT OF DESIGN
- 9月196回 Graphic Wave 2002
左合ひとみ／澤田泰廣／新村則人
- 10月197回 SUN-AD 人
- 11月198回 ブラジルのグラフィックデザイン展
ブックデザインにみる今日のブラジル
- 12月199回 ハーブ・ルバリン展

2003

- 1月200回 田中一光 ポスターとグラフィックアート展
- 2月201回 サディク・カラムスターファ展
旅と儀式、言葉と形象
- 3月202回 現代中国平面設計展
- 4月203回 2003 TDC展
- 5月204回 ファブリカ展 1994 / 03 混沌から秩序へ
- 6月205回 空山基展
- 7月206回 2003 ADC展
- 8月207回 新島夷展 色彩とフォントの相互作用
- 9月208回 Graphic Wave 2003
佐野研二郎／野田風／服部一成
- 10月209回 副田高行「広告の告白」展
- 11月210回 ステファン・サグマイスター展
- 12月211回 河野鷹患展
昭和を駆け抜けたモダニスト 1906-99

2004

- 1月212回 永井一正ポスター展
- 2月213回 伊藤桂司・谷口広樹・ヒロ杉山展
- 3月214回 雑誌をデザインする集団キャップ展
- 4月215回 2004 TDC展
- 5月216回 佐藤卓展 Plasticity
- 6月217回 現代デンマークポスターの10年
デンマーク・デザイン・センターによるセクション
- 7月218回 2004 ADC展
- 8月219回 バーンブルック・デザイン展
Friendly Fire
- 9月220回 Graphic Wave 2004
工藤青石／GRAPH／生息気
- 10月221回 疾風迅雷 杉浦康平雑誌デザインの半世紀展
- 11月222回 佐藤可士和 Beyond
- 12月223回 もう一人の山名文夫 1920-70年代

2005

- 1月224回 七つの顔のアサバ展
- 2月225回 バラリンジ・デザイン展
古代の文化と現代のデザイン
- 3月226回 青木克憲XX展
- 4月227回 2005 TDC展
- 5月228回 和田誠のグラフィックデザイン
- 6月229回 チャマイエフ&ガイスマー展
40年間にわたるデザイン活動
- 7月230回 2005 ADC展
- 8月231回 佐藤雅彦研究室展 課題とその解答
- 9月232回 Graphic Wave 2005
谷田一郎／東泉一郎／森本千絵
- 10月233回 CCCP研究所＝ドクター・ベッシー &
マドモアゼル・ローズ展

- 11月234回 祖父江慎＋cozfish展
- 12月235回 スイスポスター 100年展

2006

- 1月236回 亀倉雄策 1915-1997
日本デザイン界を牽引したパイオニア
- 2月237回 野田風展
Hanpanda コンテンポラリーアート
- 3月238回 シアン展
- 4月239回 2006 TDC展
- 5月240回 永井一史
HAKUHODO DESIGN「ブランドとデザイン」
- 6月241回 田名網敬一主義展
- 7月242回 2006 ADC展
- 8月243回 アレクサンダー・ゲルマン展
ニューヨーク・コネクション
- 9月244回 Graphic Wave 2006 School of Design
古平正義／平林奈緒美／水野学／山田英二
- 9月 特別展 AGI 日本デザイン総会開催記念：掛け軸展
- 10月245回 勝手に広告展
〔中村至男＋佐藤雅彦〕の活動 No.6
- 11月246回 中島英樹展 Clear in the Fog
- 12月247回 早川良雄 日本のデザイン黎明期の証人

2007

- 1月248回 Exhibitions Graphic Messages from
ggg & ddd 1986-2006 [Part I]
- 2月 Exhibitions Graphic Messages from
ggg & ddd 1986-2006 [Part II]
- 3月249回 キムラカツ展 問いボックス店
- 4月250回 2007 TDC展
- 5月251回 ヘルムート・シュミット
デザイン イズ アディテュード
- 6月252回 廣村正彰 2D ⇄ 3D
- 7月253回 2007 ADC展
- 8月254回 ワルシャワの風 1966-2006
ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ金賞受賞作品展
- 9月255回 佐野研二郎 ギンザ・サローネ
- 10月256回 中島信也 CM展
中島信也と29人のアートディレクター
- 11月257回 Welcome to Magazine Pool
雑誌デザイン10人の越境者たち
- 12月258回 Aoba Show 青葉益輝ワン・マン・ショー

2008

- 1月259回 アーツダ！戸田正寿ポスターアート展
- 2月260回 グラフィックデザインの時代を築いた
20人の証言 Interviews by 柏木博
- 3月261回 Textasy
プロディ・ノイエシシュヴァンダー展
- 4月262回 2008 TDC展
- 5月263回 アラン・フレッチャー
英国グラフィックデザインの父
- 6月264回 がんばれニッポン、を広告してきたんだ
そういえば、俺。応援団長佐々木●宏
- 7月265回 2008 ADC展
- 8月266回 Now Updating... THA／
中村勇吾のインタラクティブデザイン
- 9月267回 平野敬子 デザインの起点と終点と起点
- 10月268回 白 原研哉展
- 11月269回 M/M [Paris] The Theatre Posters
- 12月270回 OYKOT Wieden+Kennedy Tokyo:
10 Years of Fusion

2009

- 1月271回 きらめくデザイナーたちの競演
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展

- 2月272回 Helvetica forever: Story of a Typeface
ヘルベチカ展
- 3月273回 DRAFT Branding & Art Directors
- 4月274回 2009 TDC展
- 5月275回 矢萩喜徳展
[Magnetic Vision／新作100点]
- 6月276回 グラフィックデザイナー マックス・フーパー展
- 7月277回 2009 ADC展
- 8月278回 [ラストショウ]細谷蔵アートディレクション展
- 9月279回 銀座界限隈ガヤガヤ青春ショー
～言い出しっぺ横尾忠則～
瀬本唯人・宇野亜喜良・和田誠・横尾忠則4人展
- 10月280回 山形季央展
- 11月281回 北川一成
- 12月282回 広告批評展
ひとつの時代の終わりと始まり

2010

- 1-2月283回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅰ
田中一光ポスター 1953-1979
- 3月284回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ
福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング
- 4月285回 TDC展 2010
- 5月286回 Talking the Dragon 井上綱也展
- 6月287回 NB@ggg ネヴィル・プロディ 2010
- 7月288回 2010 ADC展
- 8月289回 ラルフ・シュライフォーク展
- 9月290回 ブッシュビーン・パラダイム
シーモア・クワスト | ボール・デヴィス |
ミルトン・グレイザー | ジェームズ・マクミラン
- 10月291回 海と山と新村則人
- 11月292回 服部一成二千年十一年一月
- 12月293回 EUPHRATES ユーフラテス展
～研究から表現へ～

2011

- 1月294回 秀英体 100
- 2月295回 イアン・アンダーソン／
ザ・デザイナーズ・リパブリックが
トーキョーに帰ってきた。
- 3月296回 デザイン 立花文徳
- 4月297回 TDC展 2011
- 5月298回 佐藤晃一ポスター
- 6月299回 レイモン・サヴィニャック展：
41歳、「牛乳石鹸モンサヴォン」の
ポスターで生まれた巨匠
- 7月300回 2011 ADC展
- 8月301回 [ジー ジー ジー] グルーヴィジョンズ展
- 9月302回 工藤青石展 形と色と構造の感情
- 10月303回 100 ggg Books 100 Graphic Designers
- 11月304回 イデオポリス東京：
スクール・オブ・ヴィジュアルアーツ
美術学修士課程卒業制作展
- 12月305回 杉浦康平・マンガラ発光

2012

- 1-2月306回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ
没後10周年記念企画
田中一光ポスター 1980-2002
- 3月307回 ロトチェンコ
ー慧星のごとく、ロシア・アヴァンギャルドの麗児ー
- 4月308回 TDC展 2012
- 5月309回 キギ展 植原亮輔と渡邊良重
- 6月310回 ジャンピン・ヘ フラッシュバック
- 7月311回 2012 ADC展
- 8月312回 The Posters 1983-2012
世界ポスタートリエンナーレトヤマ受賞作品展

- 9月313回 寄藤文平の夏の研究
- 10月314回 AGI展
- 11月315回 横尾忠則 初のブックデザイン展
- 12月316回 テセウス・チャン ヴェルクNo.20：銀座
The Extremities of the Printed Matter

2013

- 1月317回 松永真ポスター 100展
- 2月318回 カリ・ビッポ ポスターとドローイング
シンブル・ストロング・シャープ
- 3月319回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ
LIFE 永井一正ポスター展
- 4月320回 TDC展 2013
- 5月321回 KM [ケーエム] カレル・マルテンス
- 6月322回 ホワイ・ノット・アンシエイツ
予定は失敗のもと。未定は成功のもと。
- 7月323回 2013 ADC展
- 8月324回 大宮エリー展
- 9月325回 PARTY そこにいない。展
- 10月326回 長崎りこ展
[Between Human and Nature]
- 11月327回 ヤン・チヒョルト展
- 12月328回 トマシェフスキ展 世界を震わす詩学

2014

- 1月329回 勝井三雄展 兆しのデザイン
- 2月330回 「指を置く」展 佐藤雅彦＋齋藤達也
- 3月331回 明日のデザインと福島治
[Social Design & Poster]
- 4月332回 TDC展 2014
- 5月333回 phono / graph sound, letters, graphics
- 6月334回 永井裕明展 Graphic Jam Zukō
- 7月335回 2014 ADC展
- 8月336回 ひのこづさいぼー：
ひびのこづえ＋「にほんごであそぼ」のしごと
- 9月337回 So French ミシェル・ブーヴェ・ポスターズ
- 10月338回 セミトランスベアレント・デザイン 退屈
- 11月339回 Persona 1965
グラフィックデザイン展(ペルソナ) 50年記念
- 12月340回 荒井良二だもん

2015

- 1月341回 浅葉克己のタイポグラフィ展
Asaba's Typography.
- 2月342回 Line in the sand ボール・デヴィス
- 3月343回 APPLE+ 三木健 学び方のデザイン
「りんご」と日常の仕事
- 4月344回 TDC展2015
- 5月345回 2 Men Show
スタンリー・ウォン【黄炳培】×
アナザーマウンテンマン【又一山人】
- 6月346回 ライゾマティクス グラフィックデザインの死角
- 7月347回 2015 ADC展
- 8月348回 ラース・ミューラー 本 アナログリアリティー
- 9月349回 色部義昭 Wall
- 10月350回 21世紀琳派ポスターズ
10人のグラフィックデザイナーによる競演
- 11月351回 字字字 大日本タイポ組合
- 12月 特別展 〔千代田区立日比谷図書文化館にて開催〕
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
THE NIPPON POSTERS

2016

- 1-3月 特別展 〔千代田区立日比谷図書文化館にて開催〕
千代田区立日比谷図書文化館主催／
DNP文化振興財団共催
祖父江慎＋コズフィッシュ展 ブックデザイ

4-5月352回 ggg30周年記念 明日に架ける橋
ggg 展覧会ポスター 1986-2016
6月353回 TDC 2016
7-9月354回 2016 ADC 展
9-10月355回 ノザイナー かたちと理由
11-12月356回 榎本了杏コーカイ記

2017

1-3月357回 仲條正義 IN & OUT, あるいは飲&嘔吐
4月358回 TDC 2017
5-6月359回 ロマン・チェシレヴィチ 鏡像への狂気
7月360回 2017 ADC 展
7月 特別展 追悼！「長友啓典」特別展
8-9月361回 Apeloiggg Tokyo フリリップ・アペロワ展
9-11月362回 組版造形 白井敬尚
11-1月363回 マリメッコ・スピリッツー パーヴォ・ハロネン／
マイヤ・ロウエカリ／アイノ＝マイヤ・メッツォラ

2018

1-3月364回 平野甲賀と晶文社展
4月365回 TDC 2018
5-6月366回 ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて
7-8月367回 Harumi Yamaguchi × Yoshirotten
Harumi's Summer
9-10月368回 横尾忠則 幻花幻想画譚 1974-1975
10-11月369回 日本のアートディレクション展 2018
12-1月370回 続々 三澤遼

2019

2-3月371回 ボーラ・シェア：Serious Play
4月372回 TDC 2019
5-6月373回 Beginnings 井上嗣也展
7-8月374回 田名網敬一の観光展
8-10月375回 Sculptural Type コントラプункト
10-11月376回 日本のアートディレクション展 2019
11-1月377回 カール・グルストナー 動きの中の思索

2020

1-3月378回 河口洋一郎 生命のインテリジェンス
6-8月379回 TDC 2020
10-11月380回 いきることば つむぐいのち
永井一正の絵と言葉の世界
12-3月381回 石岡瑛子
グラフィックデザインはサバイブできるか

2021

4-5月382回 TDC 2021
6-7月383回 Sports Graphic スポーツ・グラフィック
7-8月 特別展 オリンピック・ランゲージ：
デザインでみるオリンピック
9-10月384回 葛西薫展 NOSTALGIA
11月385回 日本のアートディレクション展 2020-2021
12-3月386回 ソールレ・スタインバーク
シニカルな現実世界の変換の試み

2022

4月387回 TDC 2022
5-6月388回 佐藤卓TSDO 展 <in LIFE>
7-8月389回 Yui Takada with ori.studio CHAOTIC ORDER
高田唯 混沌とした秩序
9-10月390回 細谷巖 突き抜ける気配
Hosoya Gan – Beyond G
11月391回 日本のアートディレクション展 2022
12-1月392回 宇野亞喜良 万華鏡

2023

2-3月393回 動物会議 緊急大集合！

3-4月394回 TDC 2023
5-6月395回 横尾忠則 銀座番外地
7-8月396回 小杉幸一 グラフィックパーク
8-10月397回 ステファン・サグマイスター ナウ・イズ・ベター
11月398回 日本のアートディレクション展 2023
12-1月399回 Daijiro Ohara HAND BOOK

2024

2-3月400回 ヨシロットン 拡張するグラフィック
4-5月401回 TDC 2024
5-7月402回 ハ木幣二郎 NOHIN:
The Innovative Printing Company
新しい印刷技術で超地域社会を支えるノーマンです
7-8月 特別展 2024 JAGDA 亀倉雄策賞・新人賞展
9-10月403回 上西祐理 Now Printing
11月404回 日本のアートディレクション展 2024
12-2月405回 菊地敦己 グラフィックデザインのある空間

2025

2-3月406回 書藝問道 ブックデザイナー 呂敬人の軌跡
4-5月407回 TDC 2025
5-7月408回 アイデンティティシステム
1945年以降 西ドイツのリブランディング
7-8月 特別展 2025 JAGDA 亀倉雄策賞・新人賞展
9-10月409回 田部井美奈 光と図形と、その周辺
10-11月410回 日本のアートディレクション展 2025
12-1月411回 中村至男 オン グラフィック

2026

2-3月412回 ポーランドの巨匠 ヤン・レニツァ
ポスター、アニメーション、イラストレーション、舞台



1992-2026

1992

1-2月 1回 Trans-Art '91展
3月 2回 アイヴァン・チャマイエフ展 コラージュ
4-5月 3回 第4回東京TDC展
5-6月 4回 リック・バリセンティ展
6-7月 5回 シーモア・クワスト展 メタル彫刻
7-8月 6回 デザイン・プリント・ペーパー展
8-9月 7回 ヴァン・オリバー展
10月 8回 中村誠 個展
10-11月 9回 マイケル・メイヴリー展
11-12月 10回 瀬本唯人、宇野亜喜良、和田誠、山口はるみ展

1993

1-2月 11回 フロシキ展
2-3月 12回 ホワイノット・アソシエイツ展
3-4月 13回 アレン・ホリ+ロバート・ナカタ展
解き放たれた声
4-5月 14回 1992 ADC展
5-6月 15回 ラッセル・W・フィッシャー展
6-7月 16回 第5回東京TDC展
7-8月 17回 文字からのイマジネーション
8-9月 18回 デザイン・プリント・ペーパー展 Part II
9-10月 19回 ビル・ソーバーン展
10-11月 20回 U.G. サトーのポスター展 Treedom
11-12月 21回 勝井三雄展 光の夜: 夜と昼の狭間に
12-1月 22回 現代香港のデザイン8人展

1994

1-2月 23回 ソール・バス展
2-3月 24回 グリーティング・ポップアップ13人展
3-4月 25回 リュディ・パウアノ
インテグラルコンセプト展
4-5月 26回 Illustration4 安西水丸・河村要助・矢吹申彦・湯村輝彦
5-6月 27回 ジェニファ・モラー展
6-7月 28回 永井一正展
7-8月 29回 ウーヴェ・レシュ展
8-9月 30回 1994 ADC展
9-10月 31回 デザイン・プリント・ペーパー展 Part III
10-11月 32回 アメリカのAD2人展
デビッド・カーソン+ゲーリー・ケブキ
エディトリアルデザインの新潮流
12月 33回 亀倉雄策ポスター新作展

1995

1-2月 34回 ヘルマン・モンタルボ ポスター展
2-3月 35回 ブルーノ・ムナーリ展
3-4月 36回 グラッパ・デザイン展
4-5月 37回 第7回東京TDC展
5-6月 38回 ミシェル・ブーヴェ展 ポスター、路傍の美
6-7月 39回 田中一光展 人間と文字
7-8月 40回 テレロング展
8-9月 41回 1995 ADC展
9-10月 42回 デザイン・プリント・ペーパー展 IV
10-11月 43回 ベレ・トレント展
11-12月 44回 アジアのデザイナー 6人展

1996

1-2月 45回 日本のイラストレーション50年展
2-3月 46回 マーゴ・チェイス展
3-4月 47回 ヴェルネル・イエカー展
4-5月 48回 グンター・ランボー展
5-6月 49回 第8回東京TDC展
6-7月 50回 カリ・ビッポ展
7-8月 51回 現代ハンガリーのグラフィック4人展
8-9月 52回 1996 ADC展

9-10月 53回 前田ジョン かみとコンピュータ展
10-11月 54回 アラン・ル・ケルネ展
11-12月 55回 ウッディ・パートル展

1997

1-2月 56回 ジョアン・マシャド展
2-3月 57回 K2オオサカ展 黒田征太郎+長友啓典
3-4月 58回 グラフィックデザイン・イン・チャイナ展
4-5月 59回 創立10周年記念 東京TDC展
5-6月 60回 メキシコ10人展
7月 61回 カトー・デザイン 思考するデザイン展
8-9月 62回 1997 ADC展
9-10月 63回 ラルフ・シュライフォーク展
10-11月 64回 ジェームズ・ビクトル展 貼紙禁止
11-12月 65回 GLOBAL展 世界33人の
デザイナーによるデュオポスター

1998

1-2月 66回 ファイトヘルベノデ・グリーンゲル展
未来を振り返る
2-3月 67回 ジャン・ベノア・レヴィ展 その視覚的活動
3-4月 68回 《トロイカ》ロシア 3人展
4-5月 69回 フィリップ・アペローク展
フランス文化におけるポスター
6月 70回 1998 TDC展
7月 71回 スタジオ・ドンパー展
8-9月 72回 1998 ADC展
9-10月 73回 ザフリキ展
10-11月 74回 現代イスラエルのビジュアルコミュニケーター
デビッド・タルタコーバ展
11-12月 75回 台湾四人展

1999

1-2月 76回 海外作家によるFuroshiki Graphics展
2-3月 77回 ビエール・ニューマン展
3-4月 78回 ボーラ・シェア展
5-6月 79回 ハンブルクのグラフィックデザイン展
オルガー・マチス+クリスティアネ・フライリンガー
6-7月 80回 1999 TDC展
7-8月 81回 ヤン・ライリヒJr.展 時代のミルハウス
8-9月 82回 1999 ADC展
9-10月 83回 スコット・マケラ [WIDE OPEN]展
10-11月 84回 尊厳
チャズ・マヴィヤネー・デイヴィースの世界展
11-12月 85回 マカオ2人展
ウン・ヴァイメン/ピクトル・ヒュゴ・マレイロス

2000

1-2月 86回 Graphic Message for Ecology
2-3月 87回 松井桂三展
3-4月 88回 ボール・デイヴィスのポスター展
4-5月 89回 なにわの、こてこてグラフィック展
5-6月 90回 2000 TDC展
6-7月 91回 アントン・ベイク展 ボディ・アンド・ソウル
7-9月 92回 ビエール・ベルナル展
現実的であれ、不可能を試みよ！
9-10月 93回 2000 ADC展
10-11月 94回 イタロ・ルビ展 Not Just Graphics
11-12月 95回 デザイン教育の現場から
ベルリン芸術大学
オルガー・マチス教室によるアプローチ

2001

1-2月 96回 二〇〇一年木田安彦展
2-3月 97回 コントラプункト展
THE CROWNING TOUCH
3-4月 98回 ギャルツブルク音楽祭ポスター展

5-6月 99回 2001 TDC展
6-7月 100回 チップ・キッド展
7-8月 101回 ハングルポスター展
8-9月 102回 2001 ADC展
9-10月 103回 ウォルフガング・ワインガルト展
タイポグラフィへのわが道
10-11月 104回 "Spring has come"
松永真、ディテールの競演。
11-12月 105回 デザイン教育の現場からII
セント・ジュースト大学院の新技术

2002

1-2月 106回 瀬本唯人 にんげんもよう
2-3月 107回 サイトウマコト展
3-4月 108回 オット+シュタイン展
4-5月 109回 タビロ展 ヴェニス・ピエンナーレのポスター
5-6月 110回 2002 TDC展
7月 111回 ウィーンのパスター展
ウィーン市立図書館アーカイブ1883-2002
7-9月 112回 三木健展
9-10月 113回 2002 ADC展
10-11月 114回 サディク・カラムスターファ展
旅と儀式
11-12月 115回 中国グラフィックデザイン展

2003

1-2月 116回 SUN-AD 人
2-3月 117回 田中一光 ポスターとグラフィックアート展
3-4月 118回 ファブリカ展 1994 / 03 混沌から秩序へ
4-6月 119回 墨と椅子について
カン・タイキョン+フリーマン・ラウ
アート&デザイン展
6-7月 120回 2003 TDC展
7-8月 121回 ルーバ・ルコーバ展
8-9月 122回 2003 ADC展
9-10月 123回 ステファン・サグマイスター展
10-11月 124回 ヨーロッパの文化ポスター展
ノイエ・ザムルング・ミュンヘンの
所蔵作品より
11-12月 125回 空山基展

2004

1-2月 126回 副田高行「広告の告白」展
2-3月 127回 永井一正ポスター展
3-4月 128回 現代デンマークポスターの10年
デンマーク・デザイン・センターによるセレクション
4-5月 129回 雑誌をデザインする集団キャップ展
5-6月 130回 2004 TDC展
6-7月 131回 ビエール・メンデル展
8-9月 132回 2004 ADC展
9-10月 133回 バーンブルック・デザイン展
Friendly Fire
10-11月 134回 チェコのポスター展
プラハ美術工芸博物館
コレクション1960-2003
11-12月 135回 バラリンジ・デザイン展
古代の文化と現代のデザイン

2005

1-2月 136回 疾風迅雷 杉浦康平雑誌デザインの半世紀展
2-3月 137回 シアン展 ベルリンでの13年
3-4月 138回 佐藤可士和 Beyond
4-5月 139回 メーフィス&ファン・デュールセン展
5-6月 140回 2005 TDC展
7月 141回 CCCP研究所=ドクター・ベッシエ &
マドモアゼル・ロース展
8-9月 142回 2005 ADC展

9-10月 143回 青木克憲XX展
10-11月 144回 ドイツAGIグラフィックデザイン展
パーフェクトフォルム
11-12月 145回 和田誠のグラフィックデザイン

2006

1-2月 146回 スイスポスター 100年展
2-3月 147回 グラフィック・ソート・ファシリティ展
GTF / 50プロジェクト
3-4月 148回 野田昭展
Hanpanda コンテンポラリーアート
4-5月 149回 ブルーノ・オルダーニ展
5-6月 150回 2006 TDC展
6-7月 151回 ブラック&ホワイトポスター展
8月 152回 2006 ADC展

2007

5-6月 153回 Exhibitions Graphic Messages from
ggg & ddd 1986-2006
7-8月 154回 2007 TDC展
8-9月 155回 ヘルムート・シュミット
デザイン イズ アディテュード
10-11月 156回 2007 ADC展
11-12月 157回 キムラカツ展 問いボックス店

2008

1-2月 158回 Welcome to Magazine Pool
雑誌デザイン10人の越境者たち
2-4月 159回 佐野研二郎 ギンザ・サローネ・オーサカ
4-6月 160回 中島信也CM展
中島信也と29人のアートディレクター
6-7月 161回 2008 TDC展
8月 162回 Now Updating... THA /
中村勇吾のインタラクティブデザイン
9-10月 163回 2008 ADC展
10-11月 164回 Aoba Show 青葉益輝ワン・マン・ショー
11-12月 165回 Graphic West 真 and / or 善
杉崎真之助と高橋善丸のグラフィックデザイン

2009

1-2月 166回 Helvetica forever: Story of a Typeface
ヘルベチカ展
3-4月 167回 きらめくデザイナーたちの競演
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
4-6月 168回 DRAFT Branding & Art Directors
6-7月 169回 2009 TDC展
8-10月 170回 2009 ADC展
10-12月 171回 矢萩喜從郎展
[Magnetic Vision 新作60/100点]

2010

1-3月 172回 Graphic West 2 感じる箱展
grafの考えるグラフィックデザインの実験と検証
3-5月 173回 北川一成
5-7月 174回 TDC展 2010
7-9月 175回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展II
福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング
9-10月 176回 2010 ADC展
11-12月 177回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展II
田中一光ポスター 1953-1979

2011

1-3月 178回 Graphic West 3 phono / graph
一音・文字・グラフィック
3-5月 179回 秀英体100
5-7月 180回 TDC展 2011
7-9月 181回 服部一成二十一年夏大阪

9-10月 182回 2011 ADC展
11-12月 183回 100 ggg Books 100 Graphic Designers

2012
1-3月 184回 Graphic West 4 「奥村昭夫と仕事」展
3-5月 185回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ
没後 10周年記念企画
田中一光ポスター 1980-2002
5-7月 186回 TDC展 2012
7-9月 187回 立花文穂展
9-10月 188回 2012 ADC展
11-12月 189回 The Posters 1983-2012
世界ポスタートリエンナーレトヤマ受賞作品展

2013
1-3月 190回 Graphic West 5
type trip to Osaka typographics ti: 270
3-4月 191回 [デー デー デー] グルーヴィジョンズ展
5-6月 192回 TDC展 2013
7-8月 193回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ
LIFE 永井一正ポスター展
9-10月 194回 2013 ADC展
11-12月 195回 大宮エリー展

2014
1-3月 196回 Graphic West 6
大阪新美術館建設準備室デザインコレクション
熱情と冷静のアヴァンギャルド
3-4月 197回 「指を置く」展 佐藤雅彦+齋藤達也
5-6月 198回 TDC展 2014
6-7月 199回 明日のデザインと福島治
[Social Design & Poster]
10-12月 200回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅵ
THE NIPPON POSTERS

2015
1-3月 201回 永井裕明展
Graphic Jam Zukō in Kyoto
4-5月 202回 ラース・ミュラー 本 アナログリアリティー
6-7月 203回 TDC展 2015
8-10月 204回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅶ
20世紀琳派 田中一光
11-12月 205回 ニッポンのニッポン ヘルムート シュミット

2016
1-3月 206回 浅葉克己個展 「アサバの血肉化」
4-5月 207回 21世紀琳派ポスターズ
10人のグラフィックデザイナーによる競演
5-7月 208回 ライゾマティクス グラフィックデザインの死角
7-8月 209回 TDC 2016
9-10月 210回 物質性→非物質性 デザイン&イノベーション
11-12月 特別展 京都dddギャラリー・京都工芸繊維大学
アートマネージャー養成講座連携企画展
なにで行く どこへ行く 旅っていいね
12月 特別展 京都造形芸術大学プロジェクトセンター×
京都dddギャラリー連携企画展
experimental studies | post past

2017
1-3月 211回 グラフィックとミュージック
5-6月 212回 仲條正義 IN & OUT, あるいは飲&嘔吐
7-8月 213回 TDC 2017
9-10月 214回 平野甲賀と晶文社展
11月 特別展 京都dddギャラリー・成安造形大学連携展
.communication
12-3月 215回 ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて

2018
4-6月 216回 Graphic West 7: YELLOW PAGES
7-8月 217回 TDC 2018
8-10月 218回 田名網敬一の現在展
11-12月 特別展 京都dddギャラリー・京都市立芸術大学
ビジュアル・デザイン研究室共催展
グラフィックで科学を学ぼう 進化のものがたり展

2019
1-3月 219回 組版造形 白井敬尚
3-6月 220回 本の縁側 矢萩多聞と本づくり
6-8月 221回 ヘイセイ・グラフィックス
8-10月 222回 ドヴァランスーシステムを遊び場に
11-12月 223回 Graphic West 8: 三重野龍
大全2011→2019「屁理屈」

2020
1-3月 224回 Design ZOO:いのち・ときめき・デザイン展
6-10月 225回 コントラクトンフト タイプ
10-12月 226回 食のグラフィックデザイン

2021
1-3月 227回 Graphic West 9: Sulki & Min
4-7月 228回 ヘルムート シュミット タイポグラフィ:
トライ トライ トライ
7-9月 229回 小島武展 夢ひとつ
10-12月 230回 石岡瑛子 デザインはサバイブできるか

2022
1-3月 231回 鳥海修
「もじのうみ:水のような、空気のような活字」
7-9月 232回 ddd DATABASE 1991-2022
10-11月 233回 FormSWISS (フォーム・スイス)
11-1月 234回 GRAPHIC CUBE – フィルムポスター
DNP グラフィックデザイン・アーカイブより

2023
1-3月 235回 ppp groovisions
3-4月 236回 エディション・ノルト |
ファクトリー dddd:被包摂、絡合、派生物/
|会場構成 | 秋山ブク | シチュエーションズ7番:
京都dddギャラリーの備品による
5-7月 237回 葛西薫展 NOSTALGIA
8-10月 238回 ソール・スタインバーグ
シニカルな現実世界の変換の試み
10-1月 239回 はみだす。とびこえる。
絵本編集者 筒井大介の仕事

2024
1-3月 240回 MIRROR/MIRROR:
カナダ・日本 現代版画ドキュメント
3-5月 241回 永原康史一時間のなかだち:
デザインとNFTの邂逅
6-7月 242回 フォリオ フォリオ フォリオ:
プリント バイ ヴェロニカ・ディッティング
8-10月 243回 立平面社 〜手と脳のおそびの不思議〜
10-1月 244回 アイデンティティシステム
1945年以降 西ドイツのリブランディング

2025
1-4月 245回 南塚也 | takuya minami w/
4-6月 246回 書藝問道 ブックデザイナー 呂敬人の軌跡
6-8月 247回 モダン・エキスポ・ポスターズ:
グラフィックでみる現代の万博
8-10月 248回 フェリックス・ベルトラン コネクション
ーハバナ ニューヨーク 大阪 メキシコ
マドリード 京都ー

11-1月 249回 C-GRAPHIC/TAIPEI
2020年代台北のグラフィックデザイン

2026
1-3月 250回 LOCAL LOCAL -ないものはない-
梅原真展

1995

- 4-7月 1回 グラフィック・ビジョン：
ケネス・タイラーとアメリカ現代版画の30年
- 8-10月 2回 ロイ・リキテンスタイン：
エンタプラチュア→ヌード
- 11-1月 3回 一瞬の刻印：ロバート・マザウェル展

1996

- 3-4月 4回 アメリカ版画の現在地点：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.1
- 4-7月 5回 デイヴィッド・ホックニー展
- 7-10月 6回 自律する色彩：ジョセフ・アルバース展
- 10-1月 7回 スタイルを越えて：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.2

1997

- 3-6月 8回 ジェームズ・ローゼンクvist展
- 6-9月 9回 版画における抽象：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.3
- 10-11月 10回 大竹伸朗：Printing / Painting展
- 12-1月 11回 線／色彩／イメージ：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.4

1998

- 3-5月 12回 フランク・ステラ／ケネス・タイラー：
構築する版画
アーティストとプリンター、30年の軌跡
- 5-9月 13回 主張する黒：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.5
- 9-12月 14回 形象としての紙：アラン・シールズ展

1999

- 3-5月 15回 福田美蘭展 New Works: Prints
- 6-9月 16回 かたる かたち：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.6
- 9-12月 17回 版画の話題

2000

- 3-6月 18回 New Works 1998-1999：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.7
- 6-9月 19回 太田三郎：存在と日常
- 9-12月 20回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ設立展：
ポスターグラフィックス 1950-2000

2001

- 3-5月 21回 版画集への招待：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.8
- 5-7月 22回 折元立身：1972-2000
- 8-10月 23回 藤本由紀夫：四次元の読書
- 10-12月 24回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ展 Vol.2：
グラフィックデザインの時代

2002

- 3-6月 25回 空間に躍りて版画たち：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.9
- 6-9月 26回 矢萩喜徳郎：視触、視弾、そして眼差し記憶
- 9-12月 27回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ展 Vol.3：
個性の時代

2003

- 3-4月 28回 絵画―永遠の現在を求めて：
リチャード・ゴーマン展
- 4-6月 29回 色彩としての紙：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.10
- 6-9月 30回 ヘレン・フランケンサラー木版画展
- 9-12月 31回 タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション 新収蔵作品展：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.11

2004

- 3-6月 32回 イラストレーションの黄金時代
- 6-9月 33回 パスワード：日本とデンマークの
アーティストによる対話
- 9-12月 34回 版で発信する作家たち2004福島

2005

- 3-6月 35回 アメリカ現代木版画の世界：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.12
- 6-9月 36回 Breathing Light：吉田重信
- 10-12月 37回 decade ― CCGAと6人の作家たち

2006

- 3-6月 38回 版に描く：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.13
- 6-9月 39回 藤幡正樹：不完全さの克服
イメージとメディアによって割り出される、
新たな現実感。
- 9-12月 40回 野田哲也：日記

2007

- 3-6月 41回 凹版表現の魅力：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.14
- 6-9月 42回 再生する版画：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.15
- 9-12月 43回 ユニーク・インプレッション：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.16

2008

- 3-6月 44回 厚い色：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.17
- 6-9月 45回 大きな版画、小さな版画：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.18
- 9-11月 46回 黒のモノローグ：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.19

2009

- 2-6月 47回 作品と題名：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.20
- 6-9月 48回 きらめくデザイナーたちの競演
DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
- 9-12月 49回 赤のちから：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.21

2010

- 3-6月 50回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ
田中一光ポスター 1953-1979
- 6-9月 51回 ロイ・リキテンスタイン展：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.22
- 9-12月 52回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅲ
福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング

2011

- 3月 53回 幾何学的抽象の世界：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.23
(東日本大震災のため中断)
- 6-9月 54回 秀英体 100
- 9-12月 55回 幾何学的抽象の世界：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.23

2012

- 3-6月 56回 日本ポルトガル交流
版で発信する作家たち：after 3.11
- 6-9月 57回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ
没後10周年記念企画
田中一光ポスター 1980-2002
- 9-12月 58回 銅版の表現力：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.24

2013

- 2月 特別展 第24回田善顕彰版画展
- 3-6月 59回 THE POSTERS 1983-2012
世界ポスタートリエナーレヤマ受賞作品展
- 6-9月 60回 現代版画とリトグラフ：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.25
- 9-12月 61回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ
LIFE 永井一正ポスター展

2014

- 2月 特別展 第25回田善顕彰版画展
- 3-6月 62回 プリント・イン・ブルー：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.26
- 7-9月 63回 20世紀モダンデザインの誕生―
大阪新美術館建設準備室デザインコレクション
- 9-12月 64回 レリーフ・プリントの世界：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.27

2015

- 2月 特別展 第26回田善顕彰版画展
- 3-6月 65回 開館20周年記念
21世紀のグラフィック・ビジョン
- 6-9月 66回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅵ
浅葉克己ポスターアーカイブ展
- 9-12月 67回 ロバート・マザウェルのリトグラフ：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.28

2016

- 2月 特別展 第27回田善顕彰版画展
- 3-6月 68回 グラフィックとミュージック
- 6-9月 69回 中林忠良展：未知なる航海―腐食の海へ
- 9-12月 70回 フランク・ステラ<イマジナリー・プレイズ>：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.29

2017

- 2月 特別展 第28回田善顕彰版画展
- 3-6月 71回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅶ
松永真ポスター展
- 6-9月 72回 加納光於―揺らめく色の穂先に
- 9-12月 73回 ジョセフ&アニ・アルバース、二つの抽象：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.30

2018

- 2月 特別展 第29回田善顕彰版画展
- 3-6月 74回 少数精鋭の色たち―DNP グラフィック
デザイン・アーカイブより
- 6-9月 75回 北川健次：黒の装置―記憶のディスタンス
- 9-12月 76回 ヘレン・フランケンサラー
[エクスベリメンタル・インプレッション]：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.31

2019

- 3-6月 77回 ヘイセイ・グラフィックス
- 6-9月 78回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅷ
蔵出し 仲條正義
- 9-12月 79回 柔らかな版：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.32

2020

- 3-6月 80回 食のグラフィックデザイン
- 7-9月 81回 共鳴する刻[しるし]―木口木版画の現在地
- 9-12月 82回 ことばと版画：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.33

2021

- 3-6月 83回 つながりのデザイン：
DNP グラフィックデザイン・アーカイブコレクション
- 6-9月 84回 どこか遠くへ：グラフィックにみる旅のかたち
- 9-12月 85回 線を引く：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.34

2022

- 3-6月 86回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅸ
葛西薫 POSTERS since 1973
- 6-9月 87回 ビュシス銅版画展―写すものと映されるもの
- 9-12月 88回 タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション名品展

1986

- Mar. 1 Tadashi Ohashi:
Vegetable Illustration
- Apr. 2 Shigeo Fukuda: Illustration 412
- May 3 Yukimasa Okumura: Sunsun Saifu
- Jun. 4 Iku Akiyama: Picture Relief
- Jul. 5 1986 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 6 Art Works I The World is Art.
- Sep. 7 Koichi Sato: About Boxes 2
- Oct. 8 Kiyoshi Awazu:
Self Revolution for Painting
- Nov. 9 Herbert Bayer:
Pioneer of Visual Communication
- Dec. 10 K2 Live!:
Don't Say "2" Without Knowing the "K"

1987

- Jan. 11 Iroha: CG Calligraphy of Shuhei Tsuji
and CA Workshop
- Feb. 12 Flower Expo + Expo Logo Exhibition
- Mar. 13 Masaki Fujihata: Geometric Love
- Apr. 14 The Works of Shin Matsunaga:
The Mainichi Design Prize
Commemorative Exhibition
- May 15 Mizumaru Anzai "2C"
- Jun. 16 Lou Dorfman and
The Creative Works of CBS
- Jul. 17 1987 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 18 Art Works II Rest in Peace
- Sep. 19 Takenobu Igarashi: Igarashi Numbers
- Oct. 20 Masuteru Aoba: Graphically
- Nov. 21 Holger Matthies:
Unpredictable Reality
- Dec. 22 Milton Glaser: Conjuror of Image

1988

- Jan. 23 Katsu Kimura:
Works from Packaging Direction
- Feb. 24 Hiroki Taniguchi:
Homosapiens' Memory
- Mar. 25 Ginza Hyakuten Covers, Original Works
- Apr. 26 Katsu Exhibition, Spring: Original-
Lithography-Silk Screen-Offset Print
- May 27 AGI '88 Tokyo: World Graphic Design
- Jun. 28 Issey Miyake Poster Exhibition:
I.I.I. at GGG
- Jul. 29 1988 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 30 Art Works III Peace by Piece
- Sep. 31 Recruit / Information Posters
- Oct. 32 Yoshio Hayakawa:
Original Drawings "Woman"
- Nov. 33 Masayoshi Nakajo: NAKAJOISH
- Dec. 34 Posters and Illustrations of
Stasys Eidrigevicius

1989

- Jan. 35 Shopping Bag Design Exhibition
- Feb. 36 Kijuro Yahagi Exhibition
- Mar. 37 Texture: Makiko Minagawa +
Keiichi Tahara + Shigeru Yamaoka
- Apr. 38 Noriyuki Tanaka:
Gokan – The Urban Surface
- May 39 Otl Aicher: W.Von Ockham,
a Pioneer in Modern Philosophy
- Jun. 40 Kazumi Kurigami: Photographs
- Jul. 41 Shinichi Wakao: Wakao Collection
- Aug. 42 Art Works IV
All The Flowers Have Come Here.
- Sep. 43 Kazumasa Nagai Exhibition

- Oct. 44 Posters by 12 Artists
for Europalia '89 Japan
- Nov. 45 The Current Works of Charles Anderson
- Dec. 46 Works of Etsushi Kiyohara: Hommage

1990

- Jan. 47 Shigeru Akizuki: Boxes for Fun
- Feb. 48 Nobuyoshi Kikuchi:
"Shelf" Bound Books
- Mar. 49 Tsunao Harada:
"Horse" Wood-block Print
- Apr. 50 Ikko Tanaka Exhibition:
Graphic Art Botanical Garden
- May 51 Ryuichi Yamashiro:
Illustration without Cats
- Jun. 52 Keizo Matsui:
Three Dimensional Graphics
- Jul. 53 Takayuki Terakado Exhibition
- Aug. 54 Art Works V Tokyo Specimen Boxes 1990
- Sep. 55 Keiichi Tahara: The Fragrance of Light
- Oct. 56 Katsumi Asaba's New Works:
Terrible Typography in Asia.
- Nov. 57 Macaroni: Katsuya Ise
- Dec. 58 Yasuhiro Yomogida: People

1991

- Jan. 59 Zenji Funabashi Exhibition
- Feb. 60 Tetsuya Ohta: Diagrams
- Mar. 61 Per Arnoldi:
Posters, Prints and Painting
- Apr. 62 Yasuhiro Sawada:
P2 [Painting × Printing]
- May 63 Sonoko Arai: Drawing Inspiration
- Jun. 64 Communication & Print:
Newly Created Posters by 10 Artists
- Jul. 65 Nobuo Nakagaki +
Nakagaki Design Office: Object Books
- Aug. 66 Art Works VI "Bacteriart" Messages
from Dream Island
- Oct.-Nov. 67 Trans-Art '91
- Dec. 68 1991 Tokyo ADC Exhibition

1992

- Jan. 69 Ivan Chermayeff: Collages
- Feb. 70 The First Solo Exhibition of
Hajime Tachibana: ape-MAN
- Mar. 71 The 4th Tokyo TDC Exhibition
- Apr. 72 Henryk Tomaszewski Exhibition
- May 73 Seymour Chwast: Painted Metal Sculpture
- Jun. 74 Takashi Kanome: BOX:XX
- Jul. 75 Makoto Nakamura Solo Exhibition
- Aug. 76 Rick Valicenti Exhibition
- Sep. 77 Kaoru Kasai: AERO
- Oct. 78 Tadahito Nadamoto / Akira Uno /
Makoto Wada / Harumi Yamaguchi
Exhibition
- Nov. 79 Paul Rand
- Dec. 80 Furoshiki by 18 Artists

1993

- Jan. 81 Ryohei Kojima: Tropica Grafica
- Feb. 82 Koichi Inakoshi: Out of Season
- Mar. 83 1992 Tokyo ADC Exhibition
- Apr. 84 The 5th Tokyo TDC Exhibition
- May 85 U.G. Sato's Poster Exhibition: Freedom
- Jun. 86 Hideo Mukai: Hommage
- Jul. 87 Imagination of Letters
- Aug. 88 8 Designers in Today's Hong Kong
- Sep. 89 Mitsuo Katsui: The Blessing of Light

- Oct. 90 1993 Illustration 4:
Mizumaru Anzai / Yosuke Kawamura /
Nobuhiko Yabuki / Teruhiko Yumura
- Nov. 91 Saul Bass Exhibition
- Dec. 92 13 Pop-up Greeting

1994

- Jan. 93 Kiyoshi Awazu: H²O Earthman
- Feb. 94 The 6th Tokyo TDC Exhibition
- Mar. 95 Takahisa Kamijyo: Windscape Mindscape
- Apr. 96 Toshihiro Katayama Exhibition
- May 97 Kazumasa Nagai Exhibition
- Jun. 98 Dutch Graphic Design A Century
- Jul. 99 1994 Tokyo ADC Exhibition
- Aug.-Sep. 100 Graphic Goods: Gifts from Design
- Sep. 101 Koga Hirano: The Power of Letters
- Oct. Kyushu Nine Designers Nine Personalities
- Nov. 102 Yusaku Kamekura New Posters
- Dec. 103 Kenya Hara Exhibition
- Toshiko Tsuchihashi, Sachiko Nakamura,
Meg Hosoki: Favorites

1995

- Jan. 104 Bruno Munari Exhibition
- Feb. 105 Book Design in Japan 1946-95
- Mar. 106 The 7th Tokyo TDC Exhibition
- Apr. 107 Pieter Brattinga: Designs for People
- May 108 Ikko Tanaka: Man and Writing
- Jun. 109 Niklaus Troxler Posters
- Jul. 110 1995 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 111 Rhythm & Hues Computer Graphics:
A Postcard from Hollywood
- Sep. 112 Tamotsu Yagi: A View of Nature
- Sep. 20 Graphic Designers of the World:
ggg 10th Anniversary and 20 ggg Books
- Oct. 113 Transition of Modern Typography-1
- Nov. 114 Masatoshi Toda: Ear Ear Land
- Dec. 115 50 Years in Japanese Illustrations

1996

- Jan. 116 Yasuhiro Yomogida:
"yurayura" Swaying in Edo
- Feb. 117 Transition of Modern Typography-2
- Mar. 118 NIPPONJIN:
Posters by 23 Artists in Sao Paulo
- Apr. 119 The 8th Tokyo TDC Exhibition
- May 120 Contemporary Graphics in Hungary:
DOPP at GGG
- Jun. 121 Shigeo Katsuoka's Typographic Art:
Departure
- Jul. 122 1996 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 123 John Maeda Paper and Computers
- Sep. 124 K2 – Seitaro Kuroda /
Keisuke Nagatomo: Two Chairs
- Oct. 125 Czech Avant-Garde Book Design
1920s-'30s
- Nov. 126 Graphic Wave 1996: Katsunori Aoki /
Taku Satoh / Toshio Yamagata
- Dec. 127 Alain Le Querrec Exhibition

1997

- Jan. 128 Nisuke Shimotani: Man
Collection of CCGA:
- Jan. The Prints of Josef Albers
- Feb. 129 Tadashi Ohashi: Warm Veggies
- Mar. 130 The 10th Anniversary of Tokyo TDC
- Apr. 131 Masayoshi Nakajo: ○○○
- May 132 Special Issue "Ecology"
by 8 Magazines in Japan

- Jun. 133 Tadanori Yokoo's Poster Exhibition:
Lucky God Yokoo
- Jul. 134 1997 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 135 Toshifumi Kawahara and
Polygon Pictures: Rocky Hola Shop
- Sep. 136 10 Mexican Graphic Designers
- Oct. 137 Graphic Wave 1997: Kan Akita /
Satoe Inoue / Osamu Fukushima
- Oct. The 10th Anniversary of
Masaru Katsumi Award
- Nov. 138 Shigeo Fukuda's Poster Exhibition:
Supporter
- Dec. 139 Global Exhibition: Duo Posters by
33 Designers from around the World

1998

- Jan. 140 Hachiro Suzuki: 8ro Art & AD
- Feb. 141 Odermatt + Tissi Graphic Design
- Mar. 142 Stasys Eidrigevicius Exhibition
- Apr. 143 Tokyo TDC 1998 Exhibition
- May 144 Studio Dumbbar Exhibition
- Jun. 145 Opera Lesson by Yoko Yamamoto
- Jul. 146 1998 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 147 Yoichiro Kawaguchi:
Voyage through a Cyber Universe
- Sep. 148 Graphic Wave 1998: Tatsuo Ebina /
Keiko Hirano / Ken Miki
- Oct. 149 Gunter Rambow in Tokyo
- Nov. 150 Philippe Apeloig:
Posters in the Context of French Culture
- Dec. 151 Herbert Leupin Exhibition

1999

- Jan. 152 Furoshiki Graphics by 18 Designers
from around the World
- Feb. 153 Transition of Modern Typography in
Japan 1946-95
- Mar. 154 Tsunehisa Kimura Photo Graphics: What?
- Mar. The Works of Seiichi Horiuchi
- Apr. 155 Tokyo TDC 1999 Exhibition
- May 156 Contemporary Bulgarian Graphic
Design Exhibition
- Jun. 157 Katsuhiko Hibino: Abduction
- Jul. 158 1999 Tokyo ADC Exhibition
- Jul. John Maeda: One-line.com
- Aug. 159 Kijuro Yahagi Exhibition
- Sep. 160 Graphic Wave 1999: Mamoru Suzuki /
Kei Matsushita / Hiroshi Yonemura
- Oct. 161 An Exhibition of FUSE Posters and Fonts
- Nov. 162 Keizo Matsui Exhibition
- Dec. 163 Paul Davis Posters
- Dec. Irving Penn Regards
the Works of Issey Miyake

2000

- Jan. 164 Graphic Message for Ecology
- Jan. Kishin Shinoyama & Manuel Legris:
A L'Opera de Paris
- Feb. 165 Bruno Monguzzi:
A Poet of Form and Function
- Mar. 166 Kenji Itoh: The Medical Journal
STETHOSCOPE – A Half Century of
Journal Cover Designs –
- Apr. 167 Tokyo TDC 2000 Exhibition
- May 168 Poster Works Nagoya 12:
Shigeo Okamoto + 11 Designers
- Jun. 169 Osaka Pop Exhibition:
"kotekote" Graphics
- Jul. 170 2000 Tokyo ADC Exhibition

- | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|---|------|------|-----|--|------|-----|---|-----------|-----|---|
| Aug. | 171 | The Epoch of the Japan Advertising Artists Club [JAAC] | 2004 | Jan. | 212 | Kazumasa Nagai Poster Exhibition | Feb. | 249 | Exhibitions: Graphic Messages from ggg & ddd 1986-2006 [Part II] | Jul. | 288 | NB@ggg: Neville Brody 2010 |
| Sep. | 172 | Graphic Wave 2000:Gugi Akiyama / Tycoon Graphics / Hideki Nakajima | | Feb. | 213 | Keiji Ito / Hiroki Taniguchi / Hiro Sugiyama Exhibition | Mar. | 249 | Kimura Katsu Ten: Toy Box Ten | Aug. | 289 | 2010 Tokyo ADC Exhibition |
| Oct. | 173 | Tztom Toda: D-ZONE | | Mar. | 214 | The Magazine Design Studio Cap Exhibition | Apr. | 250 | Tokyo TDC 2007 Exhibition | Sep. | 290 | Ralph Schraivogel Exhibition |
| Nov. | 174 | Pierre Bernard: Be Realistic, Demand the Impossible! | | Apr. | 215 | Tokyo TDC 2004 Exhibition | May | 251 | helmut schmid: design is attitude | | | The Push Pin Paradigm: |
| Dec. | 175 | The Book & The Computer: New Parameters across Time and Space | | May | 216 | Taku Satoh: Plasticity | Jun. | 252 | Masaaki Hiromura: 2D ⇄ 3D | | | Seymour Chwast Paul Davis Milton Glaser James McMullan |
| | | | | Jun. | 217 | Danish Posters: Over the Past 10 Years, Selected by Danish Design Centre | Jul. | 253 | 2007 Tokyo ADC Exhibition | Oct. | 291 | Seas and Mountains and Norito Shinmura |
| 2001 | | | | Jul. | 218 | 2004 Tokyo ADC Exhibition | Aug. | 254 | The Warsaw Wind 1966-2006: Gold Prize Winning Entries from the Warsaw International Poster Biennale | Nov. | 292 | Kazunari Hattori: November 2010 |
| Jan. | 176 | 2001 Yasuhiko Kida | | Aug. | 219 | The Work of Barnbrook Design: Friendly Fire | Sep. | 255 | Ginza Salone: Kenjiro Sano | Dec. | 293 | Euphrates: From Research to Expression |
| Feb. | 177 | Italo Lupi: Not Just Graphics | | Sep. | 220 | Graphic Wave 2004: Aoshi Kudo / Graph / Namaiki | Oct. | 256 | Shinya Nakajima TV Commercial: Shinya Nakajima with 29 Art Directors | | | |
| Mar. | 178 | "Spring has come" Shin Matsunaga, Play Together with Details | | Oct. | 221 | Wind and Lighting: A Half-Century of Magazine Design by Kohei Sugiura | Nov. | 257 | Welcome to Magazine Pool: Ten Creators Crossing Boundaries for Magazine Design | 2011 | | |
| Apr. | 179 | Tokyo TDC 2001 Exhibition | | Nov. | 222 | Kashiwa Sato: Beyond | Dec. | 258 | Aoba Show: Masuteru Aoba One-Man Show | Jan. | 294 | Shueitai 100 |
| May | 180 | Visual Identity for Danish State Institutions by Kontrapunkt, Copenhagen | | Dec. | 223 | Another Side of Ayao Yamana 1920s-70s | | | | Feb. | 295 | Ian Anderson / The Designers Republic C(H)÷me (+81/3) |
| Jun. | 181 | Typography of Hiromu Hara | | | | | 2008 | | | Mar. | 296 | Design Fumio Tachibana |
| Jul. | 182 | 2001 Tokyo ADC Exhibition | | | | | Jan. | 259 | Toda Today: Poster Art by Seiju Toda | Apr. | 297 | Tokyo TDC 2011 Exhibition |
| Aug. | 183 | Tadahito Nadamoto: Patterns from Everyday Life | 2005 | Jan. | 224 | The Seven Faces of Asaba | Feb. | 260 | Testimonies from Twenty Pioneers of the Graphic Design Era: Interviews by Hiroshi Kashiwagi | May | 298 | Sato Koichi Poster Exhibition |
| Sep. | 184 | Graphic Wave 2001: Katsuhiko Shibuya / Kazufumi Nagai / Kodue Hibino | | Feb. | 225 | Balarinji: Ancient Culture – Contemporary Design | Mar. | 261 | Textasy: Brody Neuenschwander | Jun. | 299 | Raymond Savignac; at the Age of 41, Maestro Born from Poster [Monsavon au lait] |
| Oct. | 185 | Hangul Poster Exhibition | | Mar. | 226 | Katsunori Aoki XX | Apr. | 262 | Tokyo TDC 2008 Exhibition | Jul. | 300 | 2011 Tokyo ADC Exhibition |
| Nov. | 186 | Makoto Saito Exhibition | | Apr. | 227 | Tokyo TDC 2005 Exhibition | May | 263 | Alan Fletcher: The Father of British Graphic Design | Aug. | 301 | [ggggg] Groovisions Exhibition |
| Dec. | 187 | Chip Kidd Exhibition | | May | 228 | The Graphic Design of Makoto Wada | Jun. | 264 | Hiroshi Sasaki, Leader of a Cheering Squad for the Japanese Advertising World | Sep. | 302 | Form, Color and Structure: The Sensual World of Aoshi Kudo |
| | | | | Jun. | 229 | Chermayeff & Geismar Inc: Designing over Four Decades | Jul. | 265 | 2008 Tokyo ADC Exhibition | Oct. | 303 | 100 ggg Books 100 Graphic Designers |
| 2002 | | | | Jul. | 230 | 2005 Tokyo ADC Exhibition | Aug. | 266 | Now Updating... Interactive Design Works by THA Ltd. / Yugo Nakamura | Nov. | 304 | SVA MFA Design Ideapolis-Tokyo |
| Jan. | 188 | Uwe Loesch Exhibition | | Aug. | 231 | Masahiko Sato Laboratory: Problems and Their Solutions | Sep. | 267 | The Design Cycle of Keiko Hirano: Origin, Terminus, Origin | Dec. | 305 | Luminous Mandala: Book Designs of Kohei Sugiura |
| Feb. | 189 | Akira Uno Exhibition | | Sep. | 232 | Graphic Wave 2005: Ichiro Tanida / Ichiro Higashizumi / Chie Morimoto | Oct. | 268 | White: Kenya Hara Exhibition | 2012 | | |
| Mar. | 190 | Design Education: I, We, They.The Post -St Joost Method of Design Education | | Oct. | 233 | Laboratoires CCCP = Dr. Peche + Melle. Rose | Nov. | 269 | M/M (Paris) The Theatre Posters | Jan.-Feb. | 306 | DNP Graphic Design Archives Collection IV The 10th Memorial to Ikko Tanaka: Ikko Tanaka Posters 1980-2002 |
| Apr. | 191 | Tokyo TDC 2002 Exhibition | | Nov. | 234 | Shin Sobue + cozflsh Exhibition | Dec. | 270 | OYKOT Wieden + Kennedy Tokyo: 10 Years of Fusion | Mar. | 307 | Rodchenko – Innovator of Russian Avant-Garde – |
| May | 192 | Draft Exhibition | | Dec. | 235 | Swiss Poster Art: 100 Years of Creation | | | | Apr. | 308 | Tokyo TDC 2012 Exhibition |
| Jun. | 193 | Alan Chan: Oriental Passion Western Harmony | | | | | 2009 | | | May | 309 | KIGI: Ryosuke Uehara and Yoshie Watanabe |
| Jul. | 194 | 2002 Tokyo ADC Exhibition | | | | | Jan. | 271 | Brilliant Rivalry: Works by Outstanding Designers in the DNP Archives of Graphic Design | Jun. | 310 | Jianping He Flashback |
| Aug. | 195 | Noriyuki Tanaka: Out of Design | 2006 | Jan. | 236 | Yusaku Kamekura 1915-1997: A Leading Pioneer in the World of Japanese Design | Feb. | 272 | Helvetica forever: Story of a Typeface | Jul. | 311 | 2012 Tokyo ADC Exhibition |
| Sep. | 196 | Graphic Wave 2002: Hitomi Sago / Yasuhiro Sawada / Norito Shinmura | | Feb. | 237 | Nagi Noda: Hanpanda Contemporary Art | Mar. | 273 | Draft: Branding and Art Directors | Aug. | 312 | The Posters 1983-2012: The Prize – Winning Works from The International Poster Triennial in Toyama – |
| Oct. | 197 | Sun-ad: The People | | Mar. | 238 | Cyan Exhibition | Apr. | 274 | Tokyo TDC 2009 Exhibition | Sep. | 313 | Bunpei Yorifuji's Summer Homework Project |
| Nov. | 198 | Graphic Shows Brazil: Today's Brazilian Book Design | | Apr. | 239 | Tokyo TDC 2006 Exhibition | May | 275 | Kijuro Yahagi: Magnetic Vision / 100 New Works | Oct. | 314 | AGI (Alliance Graphique Internationale) Exhibition |
| Dec. | 199 | Herb Lubalin Exhibition | | May | 240 | Kazufumi Nagai: Hakuhodo Design "Brands and Designs" | Jun. | 276 | Max Huber – a Graphic Designer | Nov. | 315 | Tadanori Yokoo: The First Book Design Exhibition |
| 2003 | | | | Jun. | 241 | Keiichi Tanaami-ism | Jul. | 277 | 20 | | | |

Oct.	326	Rikako Nagashima: "Between Human and Nature"	Sep.-Nov.	362	Typographic Composition, Yoshihisa Shirai	May-Jul.	402	Heijiro Yagi NOHIN: The Innovative Printing Company
Nov.	327	Jan Tschichold Exhibition	Nov.-Jan.	363	Marimekko Spirit – Paavo Halonen / Maija Louekari / Aino-Maija Metsola			New Printing Technology Supporting the Hyper-Gamut Society
Dec.	328	Tomaszewski, The Poetic Spirit				Jul.-Aug.		2024 JAGDA Exhibition: Yusaku Kamekura Design Award and JAGDA New Designer Award
2014								
Jan.	329	Mitsuo Katsui: Design of Symptom	Jan.-Mar.	364	Kouga Hirano and Shobunsha	Sep.-Oct.	403	Yuri Uenishi Now Printing
Feb.	330	"Putting Finger" Masahiko Sato + Tatsuya Saito	Apr.	365	Tokyo TDC 2018 Exhibition	Nov.	404	Art Direction Japan 2024 Exhibition
Mar.	331	Osamu Fukushima and the Future of Design: Social Design & Poster	May-Jun.	366	wim crouwel fascinated by the grid	Dec.-Feb.	405	Atsuki Kikuchi Graphic in Space
Apr.	332	Tokyo TDC 2014 Exhibition	Jul.-Aug.	367	Harumi Yamaguchi × Yoshirotten Harumi's Summer			
May	333	phono / graph – sound, letters, graphics	Sep.-Oct.	368	Tadanori Yokoo: The Complete Drawings for "Genka" by Jakucho Setouchi 1974-1975			
Jun.	334	Nagai Hiroaki: Graphic Jam Zukō	Dec.	369	Art Direction Japan 2018 Exhibition			
Jul.	335	2014 Tokyo ADC Exhibition	Dec.-Jan.	370	Haruka Misawa – Again and Again: Ideas Coming To Mind			
Aug.	336	Binokodu Cells: "Kodue Hibino + Nihongo de Asobo"						
Sep.	337	So French: Michel Bouvet Posters	2019					
Oct.	338	Semitransparent Design: Boring / Bored	Feb.-Mar.	371	Paula Scher: Serious Play	Feb.-Mar.	406	Lu Jingren Tao of Chinese Book Design
Nov.	339	Persona 1965: Exhibition of Graphic Design in Tokyo	Apr.	372	Tokyo TDC 2019 Exhibition	Apr.-May	407	Tokyo TDC 2025 Exhibition
Dec.	340	Inside the Mind of Ryoji Arai	May-Jun.	373	Tsuguya Inoue: Beginnings	May-Jul.	408	Identity Systems Germany Rebranding West Germany after 1945
			Jul.-Aug.	374	Keiichi Tanaami Great Journey	Jul.-Aug.		2025 JAGDA Exhibition: Yusaku Kamekura Design Award and JAGDA New Designer Award
			Aug.-Oct.	375	Sculptural Type: Kontrapunkt	Sep.-Oct.	409	MINA TABEI
			Oct.-Nov.	376	Art Direction Japan 2019 Exhibition	Oct.-Nov.	410	LIGHT and FIGURE, and ALL AROUND
			Nov.-Jan.	377	What's Karl Gerstner? Thinking in Motion	Dec.-Jan.	411	Art Direction Japan 2025 Exhibition Norio Nakamura on graphic
2015								
Jan.	341	Katsumi Asaba: Asaba's Typography.	2020					
Feb.	342	Line in the sand: Paul Davis	Jan.-Mar.	378	Yoichiro Kawaguchi: The Intelligence of Life	Feb.-Mar.	412	Jan Lenica. Maestro z Polski. Plakat, Animacja, Ilustracja, Teatr
Mar.	343	APPLE+ Learning to Design, Designing to Learn Ken Miki	Jun.-Aug.	379	Tokyo TDC 2020 Exhibition			
Apr.	344	Tokyo TDC 2015 Exhibition	Oct.-Nov.	380	Poems of Eternal Life: The World of Kazumasa Nagai's Images and Words			
May	345	2 Men Show: Stanley Wong × Anothermountainman	Dec.-Mar.	381	Survive – Eiko Ishioka			
Jun.	346	Rhizomatics: The Blind Spot of Graphic Design	2021					
Jul.	347	2015 Tokyo ADC Exhibition	Apr.-May	382	Tokyo TDC 2021 Exhibition			
Aug.	348	Lars Müller BOOKS Analogue Reality	Jun.-Jul.	383	Sports Graphic Exhibition			
Sep.	349	Yoshiaki Irobe: Wall	Jul.-Aug.		Special Exhibition: Olympic Language: Exploring the Look of the Games			
Oct.	350	21st Century Rimpa Posters: Competitive Works by 10 Graphic Designers	Sep.-Oct.	384	Kasai Kaoru Exhibition: NOSTALGIA			
Nov.	351	d3i d3i d3i Dainippon Type Organization	Nov.	385	Art Direction Japan 2020-2021 Exhibition			
Dec.		Special Exhibition (Venue: Chiyoda City's Hibiya Library and Museum) DNP Graphic Design Archives Collection THE NIPPON POSTERS	Dec.-Mar.	386	Saul Steinberg: Lines that Transform the Real World			
2016								
Jan.-Mar.		Special Exhibition (Venue: Chiyoda City's Hibiya Library and Museum) Organized by Chiyoda City's Hibiya Library and Museum / Co-organized by DNP Foundation for Cultural Promotion	2022					
Apr.-May	352	Shin Sobue + co2fish BOOK DESIG ginza graphic gallery 30th Anniversary Bridge Over Troubled Water: ggg Exhibition Posters 1986-2016	Apr.	387	Tokyo TDC 2022 Exhibition			
Jun.	353	Tokyo TDC 2016 Exhibition	May-Jun.	388	Taku Satoh TSDO: in LIFE			
Jul.-Sep.	354	2016 Tokyo ADC Exhibition	Jul.-Aug.	389	Yui Takada with ori.studio CHAOTIC ORDER			
Sep.-Oct.	355	Nosigner: Reason Behind Forms	Sep.-Oct.	390	Hosoya Gan – Beyond G			
Nov.-Dec.	356	Enomoto Ryoichi Kokaiki	Nov.	391	Art Direction Japan 2022 Exhibition			
			Dec.-Jan.	392	Aquirax Uno Kaleidoscope			
2017								
Jan.-Mar.	357	Masayoshi Nakajo IN & OUT	2023					
Apr.	358	Tokyo TDC 2017 Exhibition	Feb.-Mar.	393	Urgent!! The Animals' Conference From the DNP Graphic Design Archives Collection			
May-Jun.	359	Roman Cieślewicz Melting Mirage	Mar.-Apr.	394	Tokyo TDC 2023 Exhibition			
Jul.	360	2017 Tokyo ADC Exhibition	May-Jun.	395	Tadanori Yokoo My Black Holes			
Jul.		Special Exhibition: Farewell! Keisuke Nagatomo	Jul.-Aug.	396	Koichi Kosugi Graphic Park			
Aug.-Sep.	361	Apeloiggg Tokyo Philippe Apeloig Exhibition	Aug.-Oct.	397	Stefan Sagmeister Now is Better			
			Nov.	398	Art Direction Japan 2023 Exhibition			
			Dec.-Jan.	399	Daijiro Ohara HAND BOOK			
2024								
			Feb.-Mar.	400	YOSHIROTTEN Radial Graphics Bio			
			Apr.-May	401	Tokyo TDC 2024 Exhibition			



1992-2026

1992

- Jan.-Feb. 1 Trans-Art '91
Mar. 2 Ivan Chermayeff: Collages
Apr.-May 3 The 4th Tokyo TDC Exhibition
May-Jun. 4 Rick Valicenti Exhibition
Jun.-Jul. 5 Seymour Chwast: Painted Metal Sculpture
Jul.-Aug. 6 Design, Print, Paper Exhibition
Aug.-Sep. 7 Vaughan Oliver Exhibition
Oct. 8 Makoto Nakamura Solo Exhibition
Oct.-Nov. 9 Michael Mabry Exhibition
Nov.-Dec. 10 Tadahito Nadamoto / Akira Uno / Makoto Wada / Harumi Yamaguchi Exhibition

1993

- Jan.-Feb. 11 Furoshiki by 18 Artists
Feb.-Mar. 12 Why Not Associates Exhibition
Mar.-Apr. 13 Allen Hori + Robert Nakata: Displaced Voices
Apr.-May 14 1992 Tokyo ADC Exhibition
May-Jun. 15 Russell Warren-Fisher Exhibition
Jun.-Jul. 16 The 5th Tokyo TDC Exhibition
Jul.-Aug. 17 Imagination of Letters
Aug.-Sep. 18 Design, Print, Paper Exhibition Part II
Sep.-Oct. 19 Bill Thorburn Exhibition
Oct.-Nov. 20 U.G. Sato's Poster Exhibition: Treedom
Nov.-Dec. 21 Mitsuo Katsui: The Blessing of Light
Dec.-Jan. 22 8 Designers in Today's Hong Kong

1994

- Jan.-Feb. 23 Saul Bass Exhibition
Feb.-Mar. 24 13 Pop-up Greeting
Mar.-Apr. 25 Ruedi Baur / Integral Concept Exhibition
Apr.-May 26 1993 Illustration 4: Mizumaru Anzai / Yosuke Kawamura / Nobuhiko Yabuki / Teruhiko Yumura
May-Jun. 27 Jennifer Morla Exhibition
Jun.-Jul. 28 Kazumasa Nagai Exhibition
Jul.-Aug. 29 Uwe Loesch Exhibition
Aug.-Sep. 30 1994 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 31 Design, Print, Paper Exhibition Part III
Oct.-Nov. 32 David Carson + Gary Koepke Free-Form Typography: The New U.S. Editorial Design
Dec. 33 Yusaku Kamekura New Posters

1995

- Jan.-Feb. 34 German Montalvo Exhibition: From Sunrise to Sunset
Feb.-Mar. 35 Bruno Munari Exhibition
Mar.-Apr. 36 Grappa Design: from east to far east
Apr.-May 37 The 7th Tokyo TDC Exhibition
May-Jun. 38 Michel Bouvet: L'affiche, un art de la lue
Jun.-Jul. 39 Ikko Tanaka: Man and Writing
Jul.-Aug. 40 Terrelonge Exhibition
Aug.-Sep. 41 1995 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 42 Design, Print, Paper Exhibition Part IV
Oct.-Nov. 43 Peret Torrent Exhibition
Nov.-Dec. 44 6 Designers in Asia Exhibition

1996

- Jan.-Feb. 45 50 Years in Japanese Illustrations
Feb.-Mar. 46 Margo Chase: Digital + Organic
Mar.-Apr. 47 Werner Jeker: Graphic Design
Apr.-May 48 Posters from Gunter Rambow: Comments on society
May-Jun. 49 The 8th Tokyo TDC Exhibition
Jun.-Jul. 50 Kari Piippo: Simple, Strong, and Sharp

- Jul.-Aug. 51 Contemporary Graphics in Hungary: DOPP at DDD
Aug.-Sep. 52 1996 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 53 John Maeda Paper and Computers
Oct.-Nov. 54 Alain Le Quernec Exhibition
Nov.-Dec. 55 Woody Pirtle: Maximum Message Minimum Means

1997

- Jan.-Feb. 56 João Machado Exhibition
Feb.-Mar. 57 K2 Osaka Exhibition: Seitara Kuroda / Keisuke Nagatomo
Mar.-Apr. 58 Graphic Design in China
Apr.-May 59 The 10th Anniversary of Tokyo TDC
May-Jun. 60 10 Mexican Graphic Designers
Jul. 61 Cato Design Inc.: Design by Thinking
Aug.-Sep. 62 1997 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 63 Ralph Schraivogel: Shifted Structures
Oct.-Nov. 64 James Victore: Post No Bills
Nov.-Dec. 65 Global Exhibition: Duo Posters by 33 Designers from around the World

1998

- Jan.-Feb. 66 Faydherbe / De Vringer: Looking Back into the Future
Feb.-Mar. 67 Jean-Benoît Lévy: Visual Activity
Mar.-Apr. 68 "Troika" 3 Dimensions of Russian Graphic Design
Apr.-May 69 Philippe Apeloig: Posters in the Context of French Culture
Jun. 70 Tokyo TDC 1998 Exhibition
Jul. 71 Studio Dumber Exhibition
Aug.-Sep. 72 1998 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 73 Zafryki: Piotr Młodzieniec / Marek Sobczyk
Oct.-Nov. 74 David Tartakover: Posters No Commercial Value
Nov.-Dec. 75 Taiwan 4: Yeh Kuo-Sung / Yu Ming-Lung / Shih Ling-Hung / Leslie Chan

1999

- Jan.-Feb. 76 Furoshiki Graphics by 18 Designers from around the World
Feb.-Mar. 77 Pierre Neumann: Swiss Landscape
Mar.-Apr. 78 The Graphic Design of Paula Scher: Type is Image
May-Jun. 79 Graphic Design from Hamburg: Holger Matthies + Christiane Frellinger
Jun.-Jul. 80 Tokyo TDC 1999 Exhibition
Jul.-Aug. 81 Jan Rajlich Jr.: Millhouse of the Times
Aug.-Sep. 82 1999 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 83 Scott Makela: Wide Open
Oct.-Nov. 84 The World of Chaz Maviyane-Davies
Nov.-Dec. 85 2 Men from Macau: Ung Vai Meng / Victor Hugo Marreiros

2000

- Jan.-Feb. 86 Graphic Message for Ecology
Feb.-Mar. 87 Keizo Matsui Exhibition
Mar.-Apr. 88 Paul Davis Posters
Apr.-May 89 Osaka Pop Exhibition: "kotekote" Graphics
May-Jun. 90 Tokyo TDC 2000 Exhibition
Jun.-Jul. 91 Anthon Beeke Posters: Body and Soul
Jul.-Sep. 92 Pierre Bernard: Be Realistic, Demand the Impossible!
Sep.-Oct. 93 2000 Tokyo ADC Exhibition
Oct.-Nov. 94 Italo Lupi: Not Just Graphics

- Nov.-Dec. 95 Design Education: The Classroom Approach of Holger Matthies, Berlin University of the Arts

2001

- Jan.-Feb. 96 2001 Yasuhiko Kida
Feb.-Mar. 97 Visual Identity for Danish State Institutions by Kontrapunkt, Copenhagen
Mar.-Apr. 98 Poster of Salzburg Festival
May-Jun. 99 Tokyo TDC 2001 Exhibition
Jun.-Jul. 100 Chip Kidd Exhibition
Jul.-Aug. 101 Hangul Poster Exhibition
Aug.-Sep. 102 2001 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 103 Wolfgang Weingart: My Way to Typography
Oct.-Nov. 104 "Spring has come" Shin Matsunaga, Play Together with Details
Nov.-Dec. 105 Design Education II : I, We, They. The Post-St Joost Method of Design Education

2002

- Jan.-Feb. 106 Tadahito Nadamoto: Patterns from Everyday Life
Feb.-Mar. 107 Makoto Saito Exhibition
Mar.-Apr. 108 Ott + Stein: Posters from Berlin
Apr.-May 109 Studio Tapiro: Posters for the Venice Biennale
May-Jun. 110 Tokyo TDC 2002 Exhibition
Jul. 111 Posters from Vienna: The Vienna Municipal Library Archive 1883-2002
Jul.-Sep. 112 Ken Miki Exhibition
Sep.-Oct. 113 2002 Tokyo ADC Exhibition
Oct.-Nov. 114 Sadik Karamustafa: Journeys and Rituals
Nov.-Dec. 115 Contemporary Chinese Graphic Design Exhibition

2003

- Jan.-Feb. 116 San-ad :The People
Feb.-Mar. 117 Ikko Tanaka: Poster and Graphic Art
Mar.-Apr. 118 Fabrica 1994 / 03: From Chaos to Order and Back
Apr.-Jun. 119 Of Ink and Chairs: The Art and Design of Kan Tai-Keung + Freeman Lau
Jun.-Jul. 120 Tokyo TDC 2003 Exhibition
Jul.-Aug. 121 Luba Lukova: From the Heart
Aug.-Sep. 122 2003 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 123 Stefan Sagmeister Exhibition
Oct.-Nov. 124 Cultural Posters of Europe from the Collection of Die Neue Sammlung München
Nov.-Dec. 125 Hajime Sorayama The Exhibition

2004

- Jan.-Feb. 126 Advertising Returns!? Art Direction by Soeda Takayuki
Feb.-Mar. 127 Kazumasa Nagai Poster Exhibition
Mar.-Apr. 128 Danish Posters: Over the Past 10 Years, Selected by Danish Design Centre
Apr.-May 129 The Magazine Design Studio Cap Exhibition
May-Jun. 130 Tokyo TDC 2004 Exhibition
Jun.-Jul. 131 Pierre Mendell Exhibition
Aug.-Sep. 132 2004 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 133 The Work of Barnbrook Design: Friendly Fire

- Oct.-Nov. 134 Posters from the Czech Republic: Collection 1960-2003 of the Museum of Decorative Arts in Prague
Nov.-Dec. 135 Balarinji: Ancient Culture – Contemporary Design

2005

- Jan.-Feb. 136 Wind and Lighting: A Half-Century of Magazine Design by Kohei Sugiura
Feb.-Mar. 137 Cyan: 13 Years in Berlin
Mar.-Apr. 138 Kashiwa Sato: Beyond
Apr.-May 139 Mevis + Van Deursen Exhibition
May-Jun. 140 Tokyo TDC 2005 Exhibition
Jul. 141 Laboratoires CCCP = Dr. Pêche + Melle. Rose
Aug.-Sep. 142 2005 Tokyo ADC Exhibition
Sep.-Oct. 143 Katsunori Aoki XX
Oct.-Nov. 144 German AGI Graphic Design: Perfect Form
Nov.-Dec. 145 The Graphic Design of Makoto Wada

2006

- Jan.-Feb. 146 Swiss Poster Art: 100 Years of Creation
Feb.-Mar. 147 Graphic Thought Facility: GTF 50 Projects
Mar.-Apr. 148 Nagi Noda: Hanpanda Contemporary Art
Apr.-May 149 Bruno Oldani Exhibition
May-Jun. 150 Tokyo TDC 2006 Exhibition
Jun.-Jul. 151 Black and White Posters Exhibition
Aug. 152 2006 Tokyo ADC Exhibition

2007

- May-Jun. 153 Exhibitions: Graphic Messages from ggg + ddd 1986-2006
Jul.-Aug. 154 Tokyo TDC 2007 Exhibition
Aug.-Sep. 155 helmut schmid: design is attitude
Oct.-Nov. 156 2007 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec. 157 Kimura Katsu Ten: Toy Box Ten

2008

- Jan.-Feb. 158 Welcome to Magazine Pool: Ten Creators Crossing Boundaries for Magazine Design
Feb.-Apr. 159 Ginza Salone Osaka: Kenjiro Sano
Apr.-Jun. 160 Shinya Nakajima TV Commercial: Shinya Nakajima with 29 Art Directors
Jun.-Jul. 161 Tokyo TDC 2008 Exhibition
Aug. 162 Now Updating... Interactive Design Works by THA Ltd. / Yugo Nakamura
Sep.-Oct. 163 2008 Tokyo ADC Exhibition
Oct.-Nov. 164 Aoba Show: Masuteru Aoba One-Man Show
Nov.-Dec. 165 Graphic West: Truth And / Or Virtue: Graphic Designs by Shinnoske Sugisaki and Yoshimaru Takahashi

2009

- Jan.-Feb. 166 Helvetica forever: Story of a Typeface
Mar.-Apr. 167 Brilliant Rivalry: Works by Outstanding Designers in the DNP Archives of Graphic Design
Apr.-Jun. 168 Draft: Branding and Art Directors
Jun.-Jul. 169 Tokyo TDC 2009 Exhibition
Aug.-Oct. 170 2009 Tokyo ADC Exhibition
Oct.-Dec. 171 Kijuro Yahagi: Magnetic Vision 60 / 100 New Works

2010

Jan.-Mar.	172	Graphic West 2: Sensory Boxes
Mar.-May	173	Issay Kitagawa
May-Jul.	174	Tokyo TDC 2010 Exhibition
Jul.-Sep.	175	DNP Graphic Design Archives Collection III Shigeo Fukuda's Visual Jumping
Sep.-Oct.	176	2010 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec.	177	DNP Graphic Design Archives Collection II Ikko Tanaka Posters 1953-1979

2011

Jan.-Mar.	178	Graphic West 3: phono / graph — Sound · Letters · Graphics —
Mar.-May	179	Shueitai 100
May-Jul.	180	Tokyo TDC 2011 Exhibition
Jul.-Sep.	181	Kazunari Hattori: Summer 2011 in Osaka
Sep.-Oct.	182	2011 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec.	183	100 ggg Books 100 Graphic Designers

2012

Jan.-Mar.	184	Graphic West 4: "Okumura Akio and Works" Exhibition
Mar.-May	185	DNP Graphic Design Archives Collection IV The 10th Memorial to Ikko Tanaka: Ikko Tanaka Posters 1980-2002
May-Jul.	186	Tokyo TDC 2012 Exhibition
Jul.-Sep.	187	Fumio Tachibana Exhibition
Sep.-Oct.	188	2012 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec.	189	The Posters 1983-2012: The Prize — Winning Works from The International Poster Triennial in Toyama —

2013

Jan.-Mar.	190	Graphic West 5: Type trip to Osaka typographics ti: 270
Mar.-Apr.	191	[dddg] Groovisions Exhibition
May-Jun.	192	Tokyo TDC 2013 Exhibition
Jul.-Aug.	193	DNP Graphic Design Archives Collection V LIFE — Kazumasa Nagai Poster Exhibition
Sep.-Oct.	194	2013 Tokyo ADC Exhibition
Nov.-Dec.	195	Ellie Omiya Exhibition

2014

Jan.-Mar.	196	Graphic West 6: Osaka City Museum of Modern Art Collection Modern Avant-Garde Graphics
Mar.-Apr.	197	"Putting Finger" Masahiko Sato + Tatsuya Saito
May-Jun.	198	Tokyo TDC 2014 Exhibition
Jun.-Jul.	199	Osamu Fukushima and the Future of Design: Social Design & Poster
Oct.-Dec.	200	DNP Graphic Design Archives Collection VI THE NIPPON POSTERS

2015

Jan.-Mar.	201	Nagai Hiroaki: Graphic Jam Zukō in Kyoto
Apr.-May	202	Lars Müller BOOKS Analogue Reality
Jun.-Jul.	203	Tokyo TDC 2015 Exhibition
Aug.-Oct.	204	DNP Graphic Design Archives Collection VII 20th Century Rimpa: Ikko Tanaka
Nov.-Dec.	205	nippon no Nippon: helmut schmid

2016

Jan.-Mar.	206	Asaba's Assimilation: Katsumi Asaba Exhibition
-----------	-----	---

Apr.-May	207	21st Century Rimpa Posters: Competitive Works by 10 Graphic Designers
May-Jul.	208	Rhizomatiks: The Blind Spot of Graphic Design
Jul.-Aug.	209	Tokyo TDC 2016 Exhibition
Sep.-Oct.	210	Materiality-Immateriality Design & Innovation
Nov.-Dec.		University Collaborative Exhibition: Kyoto Institute of Technology Art Manager Training Program "How Will You Go, and Where? Travel is Wonderful"
Dec.		University Collaborative Exhibition: Kyoto University of Art & Design Project Center "experimental studies post past"

2017

Jan.-Mar.	211	Graphics and Music
May-Jul.	212	Masayoshi Nakajo IN & OUT
Jul.-Aug.	213	Tokyo TDC 2017 Exhibition
Sep.-Oct.	214	Kouga Hirano and Shobunsha
Nov.		University Collaborative Exhibition: Seian University of Art & Design ".communication"
Dec.-Mar.	215	wim crouwel fascinated by the grid

2018

Apr.-Jun.	216	Graphic West 7: YELLOW PAGES
Jul.-Aug.	217	Tokyo TDC 2018 Exhibition
Aug.-Oct.	218	Keiichi Tanaami Dialogue
Nov.-Dec.		University Collaborative Exhibition: Visual Design Lab of Kyoto City University of Arts "Learn Science through Graphics: The Story of Evolution"

2019

Jan.-Mar.	219	Typographic Composition, Yoshihisa Shirai
Mar.-Jun.	220	Tamon Yahagi engawa: the open book veranda
Jun.-Aug.	221	Heisei Graphics
Aug.-Oct.	222	deValence — Systems as Playgrounds
Nov.-Dec.	223	Graphic West 8: Ryu Mieno Solo Exhibition 2011-2019 "Quibble"

2020

Jan.-Mar.	224	Design ZOO — Life meets design
Jun.-Oct.	225	Kontrapunkt Type
Oct.-Dec.	226	Graphic Design of Food

2021

Jan.-Mar.	227	Graphic West 9: Sulki & Min
Apr.-Jul.	228	try try try: helmut schmid typography
Jul.-Sep.	229	Takeshi Kojima: One Dream
Oct.-Dec.	230	Survive - Eiko Ishioka

2022

Jan.-Mar.	231	Osamu Torinoumi Making Type: Like water, Like Air
Jul.-Sep.	232	ddd DATABASE 1991-2022
Oct.-Nov.	233	FormSWISS
Nov.-Jan.	234	GRAPHIC CUBE — FILM POSTERS From the DNP Graphic Design Archives Collection

2023

Jan.-Mar.	235	ppp groovisions
Mar.-Apr.	236	"edition. nord: Factory dddd: encompassee, entaglement, derivatives" Space configuration / Buku Akiyama "Situations No.7: with equipment of 'kyoto ddd gallery'"

May-Jul.	237	Kasai Kaoru Exhibition: NOSTALGIA
Aug.-Oct.	238	Saul Steinberg: Lines that Transform the Real World
Oct.-Jan.	239	Outlier: The Works of Picture Book Editor Daisuke Tsutsui

2024

Jan.-Mar.	240	MIRROR/MIRROR: Documenting the Edge of Contemporary Printmaking—CANADA/JAPAN
Mar.-May	241	Yasuhiro Nagahara—Bridging Time: Exploring Design and NFT
Jun.-Jul.	242	Folio Folio Folio: Print by Veronica Ditting
Aug.-Oct.	243	3D & Flat-Lab.: The Wonder of Playing with Hands and Brains
Oct.-Jan.	244	Identity Systems Germany Rebranding West Germany after 1945

2025

Jan.-Apr.	245	takuya minami w/
Apr.-Jun.	246	Lu Jingren Tao of Chinese Book Design
Jun.-Aug.	247	Modern Expo Posters: A Graphical Journey Through World Expos
Aug.-Oct.	248	FELIX BELTRAN CONNECTIONS — LA HAVANA NEW YORK OSAKA MEXICO MADRID KYOTO —
Nov.-Jan.	249	C-GRAPHIC/TAIPEI: Taipei's Graphic Design Scene in the 2020s

2026

Jan.-Mar.	250	LOCAL LOCAL: We have nothing? — The Makoto Umebara Exhibition
-----------	-----	--

1995

- Apr.-Jul. 1 Graphic Vision Kenneth Tyler
Retrospective Exhibition: Thirty Years
of Contemporary American Prints
- Aug.-Oct. 2 Roy Lichtenstein:
Entablature → Nudes
- Nov.-Jan. 3 The Prints of Robert Motherwell

1996

- Mar.-Apr. 4 American Prints Today:
1st Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Apr.-Jul. 5 The Prints of David Hockney
- Jul.-Oct. 6 Autonomous Color: Josef Albers
- Oct.-Jan. 7 Transcending Style:
2nd Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection

1997

- Mar.-Jun. 8 The Graphics of James Rosenquist
- Jun.-Sep. 9 Printed Abstraction:
3rd Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Oct.-Nov. 10 Shinro Ohtake: Printing / Painting
- Dec.-Jan. 11 Line-Color-Image:
4th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection

1998

- Mar.-May 12 Frank Stella and Kenneth Tyler:
A Unique 30-Year Collaboration
- May-Sep. 13 Statements in Black:
5th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 14 Alan Shields: Images in Paper

1999

- Mar.-May 15 Miran Fukuda New Works: Prints
- Jun.-Sep. 16 Forms That Speak:
6th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 17 The Story of Prints

2000

- Mar.-Jun. 18 New Works 1998-1999:
7th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 19 Saburo Ota: Existence and Everyday
- Sep.-Dec. 20 DNP Archives of Graphic Design
Inaugural Exhibition:
Poster Graphics 1950-2000

2001

- Mar.-May 21 Invitation to Print Portfolios:
8th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- May-Jul. 22 Tatsumi Orimoto: 1972-2000
- Aug.-Oct. 23 Yukio Fujimoto:
Reading to Another Dimension
- Oct.-Dec. 24 2nd Exhibition of DNP Archives of
Graphic Design:
The Era of Graphic Design

2002

- Mar.-Jun. 25 Prints Leaping Into Space:
9th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 26 Kijuro Yahagi: Touching, Piercing,
and Tracing with Vision

- Sep.-Dec. 27 3rd Exhibition of DNP Archives of
Graphic Design: The Age of Individuality

2003

- Mar.-Apr. 28 Richard Gorman:
Paintings and Paper Works
- Apr.-Jun. 29 Paper as Color:
10th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 30 Frankenthaler: The Woodcuts
- Sep.-Dec. 31 11th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection

2004

- Mar.-Jun. 32 The Golden Age of Illustration
- Jun.-Sep. 33 Password:
A Danish / Japanese Dialogue
- Sep.-Dec. 34 Print Art of Today in Fukushima

2005

- Mar.-Jun. 35 The World of Contemporary American
Woodcuts:
12th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 36 Breathing Light: Shigenobu Yoshida
- Oct.-Dec. 37 decade – CCGA and Six artists

2006

- Mar.-Jun. 38 Painting on Stone:
13th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 39 Masaki Fujihata:
The Conquest of Imperfection –
New Realities Created with
Images and Media
- Sep.-Dec. 40 Tetsuya Noda: Diary

2007

- Mar.-Jun. 41 The Wonder of Intaglio:
14th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 42 Prints Given New Life:
15th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 43 Unique Impressions:
16th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2008

- Mar.-Jun. 44 Thick with Color:
17th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 45 Big Prints, Small Prints:
18th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Nov. 46 Monologues in Black:
19th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2009

- Feb.-Jun. 47 Prints and Titles:
20th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 48 Brilliant Rivalry:
Works by Outstanding Designers in
the DNP Archives of Graphic Design
- Sep.-Dec. 49 The Power of Red:
21st Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2010

- Mar.-Jun. 50 DNP Graphic Design Archives Collection II
Ikko Tanaka Posters 1953-1979
- Jun.-Sep. 51 Roy Lichtenstein:
22nd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 52 DNP Graphic Design Archives Collection III
Shigeo Fukuda's Visual Jumping

2011

- Mar. 53 The World of Geometric Abstraction:
23rd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
(Suspended because of The Great
East Japan Earthquake)
- Jun.-Sep. 54 Shueitai 100
- Sep.-Dec. 55 The World of Geometric Abstraction:
23rd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2012

- Mar.-Jun. 56 The Artists Who Express through Prints:
after 3.11
- Jun.-Sep. 57 DNP Graphic Design Archives Collection IV
Ikko Tanaka Posters 1980-2002
- Sep.-Dec. 58 The Expressive Appeal of
Copperplate Prints:
24th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2013

- Feb. The 24th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 59 THE POSTERS 1983-2012
The Prize – Winning Works from
The International Poster Triennial
in Toyama –
- Jun.-Sep. 60 Lithographs As Contemporary Prints:
25th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 61 DNP Graphic Design Archives Collection V
LIFE – Kazumasa Nagai
Poster Exhibition

2014

- Feb. The 25th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 62 Prints in Blue:
26th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jul.-Sep. 63 The Birth of Modern Design –
Osaka City Museum of Modern Art Collection
- Sep.-Dec. 64 Relief Prints:
27th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2015

- Feb. The 26th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 65 CCGA 20th Anniversary
21st Century Graphic Vision
- Jun.-Sep. 66 DNP Graphic Design Archives Collection VI
Katsumi Asaba Poster Archives
- Sep.-Dec. 67 Robert Motherwell's Lithographs:
28th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2016

- Feb. The 26th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 68 Graphics and Music
- Jun.-Sep. 69 Tadayoshi Nakabayashi:
Unknown Voyage

- Sep.-Dec. 70 Frank Stella's Imaginary Places:
29th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2017

- Feb. The 28th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 71 DNP Graphic Design Archives Collection VII
Shin Matsunaga Posters
- Jun.-Sep. 72 Kano Mitsuo:
On the Tips of Quivering Hues
- Sep.-Dec. 73 The Two Abstractions of
Josef and Anni Albers:
30th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2018

- Feb. The 29th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 74 A Select Few Colors:
From the DNP Graphic Design Archives
- Jun.-Sep. 75 Kenji Kitagawa:
Devices in Black – The Distance of Memory
- Sep.-Dec. 76 Helen Frankenthaler's Experimental
Impressions:
31st Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2019

- Mar.-Jun. 77 Heisei Graphics
- Jun.-Sep. 78 DNP Graphic Design Archives Collection VIII
Masayoshi Nakajo Posters
Freshly Picked from the Archives
- Sep.-Dec. 79 Printing through Cloth:
32nd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2020

- Mar.-Jun. 80 Graphic Design of Food
- Jul.-Sep. 81 Marks in Resonance:
Wood Engraving Today
- Sep.-Dec. 82 Words and Prints:
33rd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2021

- Mar.-Jun. 83 Ties and Bonds in Graphic Design:
DNP Graphic Design Archives Collection
- Jun.-Sep. 84 Wanderlust in Graphics
- Sep.-Dec. 85 Drawing Lines:
34th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2022

- Mar.-Jun. 86 DNP Graphic Design Archives Collection IX
KASAI KAORU POSTERS since 1973
- Jun.-Sep. 87 Physis Intaglio:
Depiction and Impression
- Sep.-Dec. 88 Masterpieces from
the Tyler Graphics Archive Collection

ギンザ・グラフィック・ギャラリー

開設 1986年3月4日
名称 ギンザ・グラフィック・ギャラリー(略称／ggg)
所在地 〒104-0061
東京都中央区銀座7丁目7番2号 DNP銀座ビル
Phone:03-3571-5206
Fax:03-3289-1389
開館時間 午前11時～午後7時
休館 日曜日、祝日
監修 葛西 薫、田中義久

京都dddギャラリー

開設 1991年11月5日(大阪・堂島)
2007年5月24日 大阪・南堀江に移転
2014年10月9日 京都・太秦に移転
2022年7月23日 京都・四条烏丸に移転
名称 京都dddギャラリー
所在地 〒600-8411
京都府京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町620 COCON烏丸3F
Phone:075-585-5370
Fax:075-585-5369
開館時間 午前11時～午後7時(土曜・日曜・祝日は午後6時まで)
休館 月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)、
祝日の翌日(土・日にあたる場合は開館)
監修 葛西 薫、田中義久

CCGA 現代グラフィックアートセンター

開設 1995年4月20日
名称 CCGA 現代グラフィックアートセンター
所在地 〒962-0711
福島県須賀川市塩田宮田1

企画・運営 公益財団法人DNP文化振興財団
<https://www.dnpfcp.jp/foundation>

ginza graphic gallery

Establishment: March 4, 1986
Name: ginza graphic gallery (ggg)
Location: DNP Ginza Building, 7-2 Ginza 7-chome,
Chuo-ku, Tokyo 104-0061
Phone: +81 3 3571 5206
Fax: +81 3 3289 1389
Opening Hours: 11:00am to 7:00pm
Closed on Sundays and Holidays
Supervision: Kaoru Kasai, Yoshihisa Tanaka

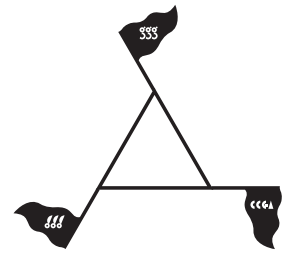
kyoto ddd gallery

Establishment: November 5, 1991 in Dojima, Osaka
Moved May 24, 2007 to Minami Horie, Osaka
Relocated October 9, 2014 to Uzumasa, Kyoto
Moved July 23, 2022 to Shijo-Karasuma, Kyoto
Name: kyoto ddd gallery
Location: 3F COCON KARASUMA, 620 Suiginya-cho, Karasuma-dori Shijo-sagaru,
Shimogyo-ku, Kyoto City, Kyoto 600-8411
Phone: +81 75 585 5370
Fax: +81 75 585 5369
Opening Hours: 11:00am to 7:00pm (Until 6:00pm on Saturdays, Sundays and Holidays)
Closed on Mondays (Tuesday if Monday is a public holiday),
the day immediately after a public holiday (except Saturday and Sunday)
Supervision: Kaoru Kasai, Yoshihisa Tanaka

Center for Contemporary Graphic Art

Establishment: April 20, 1995
Name: Center for Contemporary Graphic Art (CCGA)
Location: Miyata 1, Shiota, Sukagawa-shi,
Fukushima 962-0711

Planning and Operation: DNP Foundation for Cultural Promotion
<https://www.dnpfcp.jp/foundation>



Graphic Art & Design Annual 2025 ggg ddd CCGA

発行	公益財団法人DNP文化振興財団 〒104-0061 東京都中央区銀座7-7-2 DNP銀座ビル Phone: 03-5568-8224
企画・編集	公益財団法人DNP文化振興財団
アートディレクション	松永 真
デザイン	松永 真次郎、清川 萌未
表紙デザイン	田部井 美奈
表紙撮影	小川 真輝
撮影	藤塚 光政 (ggg会場写真)、表 恒匡 (ddd会場写真)
翻訳	有限会社フォンテース
印刷・製本	大日本印刷株式会社



公益財団法人DNP文化振興財団
DNP Foundation for Cultural Promotion

